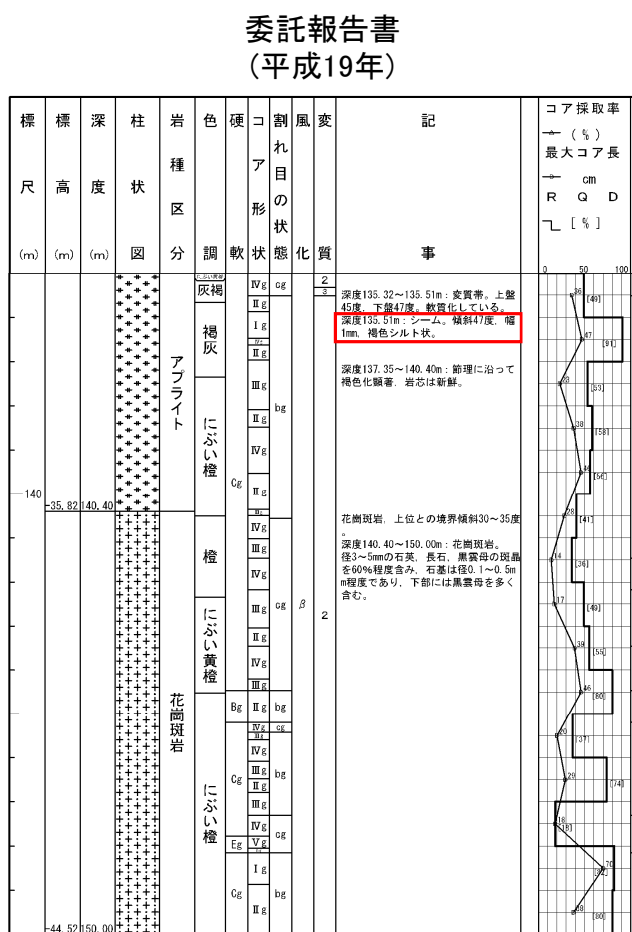


# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.14孔 深度135.51m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



**設置許可申請書案**

記事
135.32~135.51m ・変質している。 ・軟質化している。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は47°である。
140.40~150.00m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は30°~35°である。

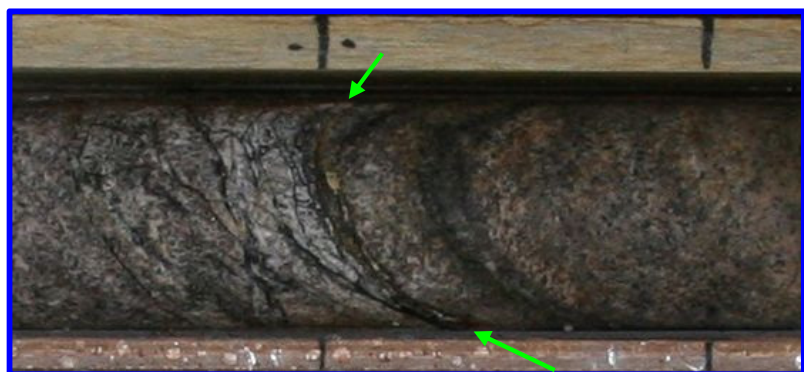
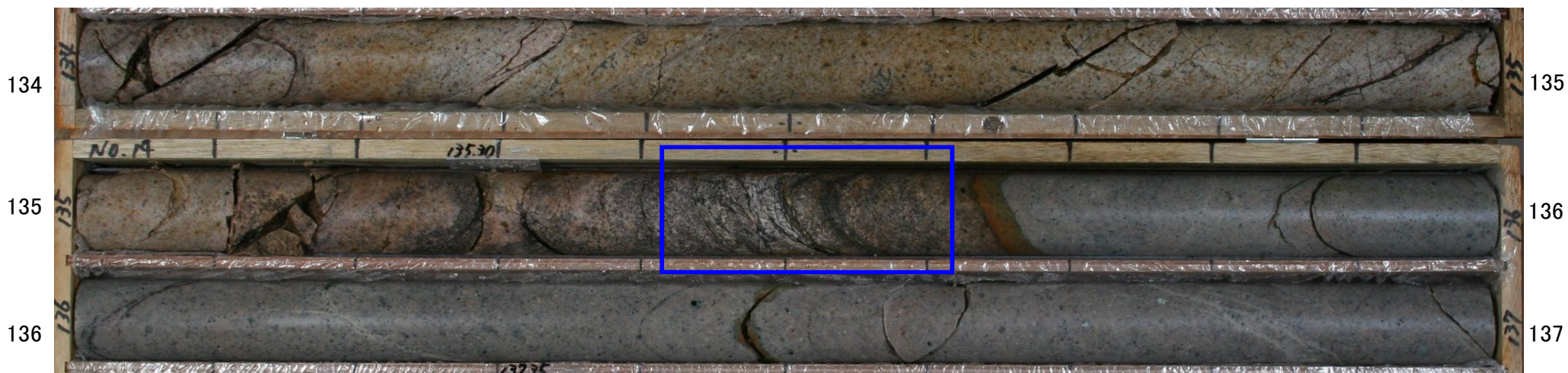
**設置許可申請書 (平成27年11月)**

記事
135.32~135.51m ・変質している。 ・軟質化している。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は47°である。
140.40~150.00m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は30°~35°である。

**審査資料 (平成29年12月22日)**

記事
135.32~135.51m ・変質している。 ・軟質化している。
140.40~150.00m ・花崗斑岩である。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度135.51m: シーム、傾斜47度、幅1mm、褐色シルト状。	記載なし	記載なし	記載なし

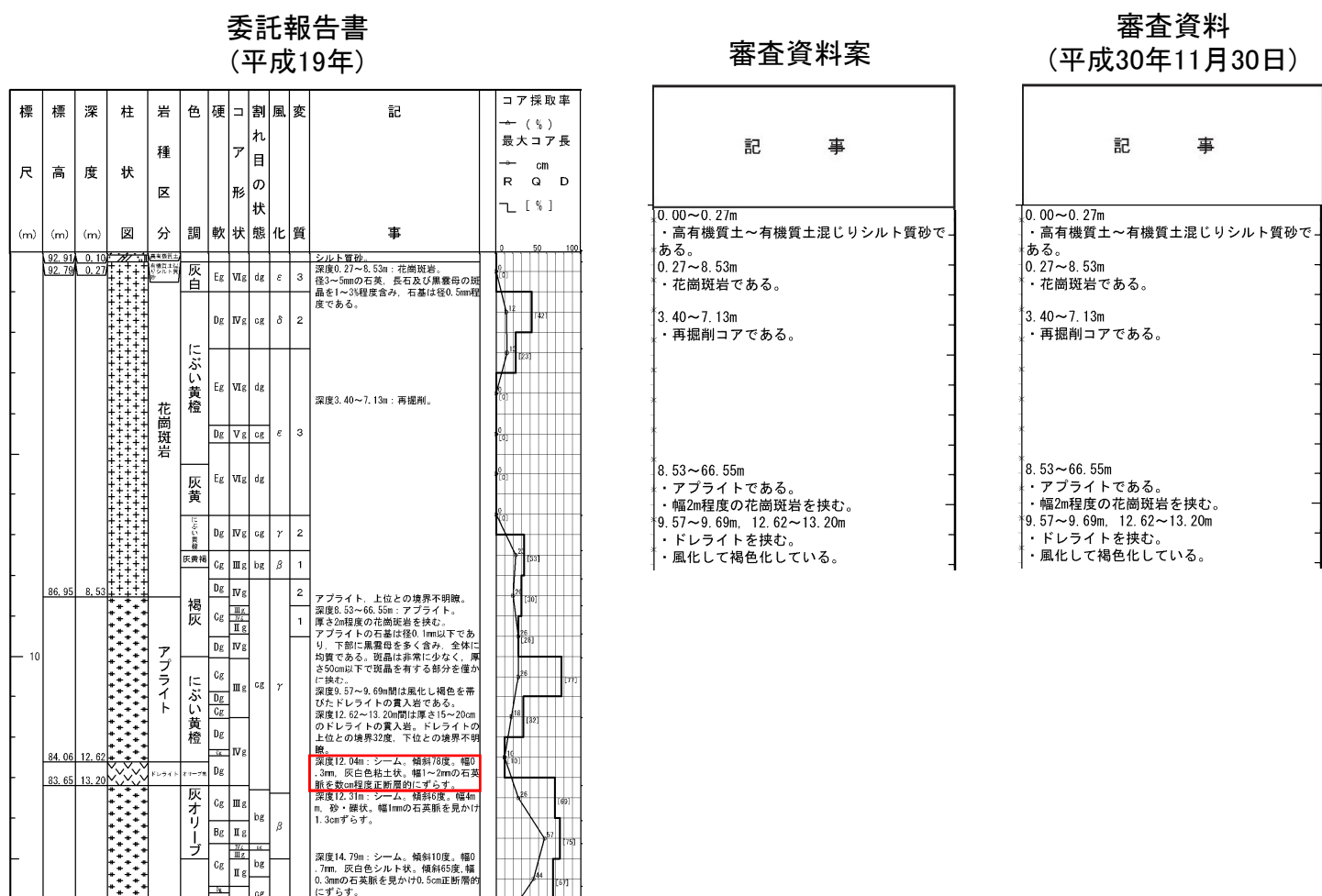


**凡例**  
← シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.15孔 深度12.04m)

・粘土状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



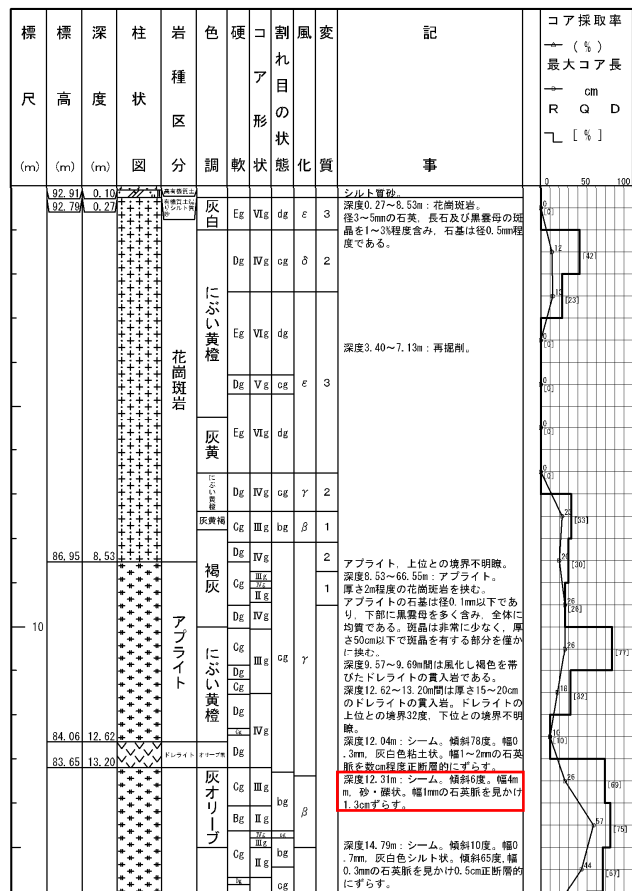
凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.15孔 深度12.31m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

## 委託報告書 (平成19年)



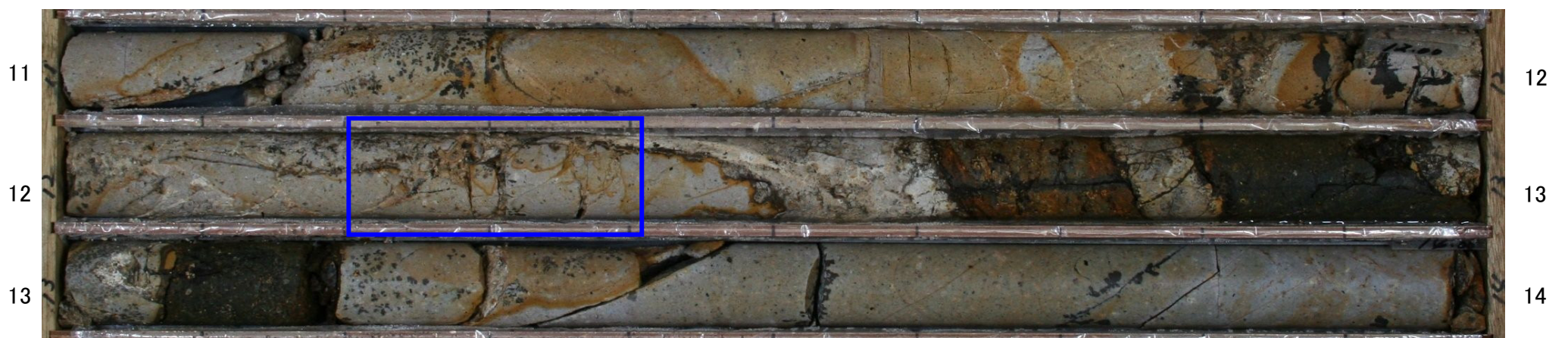
## 審査資料案

記事
0.00~0.27m ・高有機質土〜有機質土混じりシルト質砂である。
0.27~8.53m ・花崗斑岩である。
3.40~7.13m ・再掘削コアである。
8.53~66.55m ・アブライトである。 ・幅2m程度の花崗斑岩を挟む。
9.57~9.69m, 12.62~13.20m ・ドレライトを挟む。 ・風化して褐色化している。

## 審査資料 (平成30年11月30日)

記事
0.00~0.27m ・高有機質土〜有機質土混じりシルト質砂である。
0.27~8.53m ・花崗斑岩である。
3.40~7.13m ・再掘削コアである。
8.53~66.55m ・アブライトである。 ・幅2m程度の花崗斑岩を挟む。
9.57~9.69m, 12.62~13.20m ・ドレライトを挟む。 ・風化して褐色化している。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度12.31m: シーム。傾斜6度。幅4mm。砂・礫状。幅1mmの石英脈を見かけ1.3cmずらす。	記載なし	記載なし

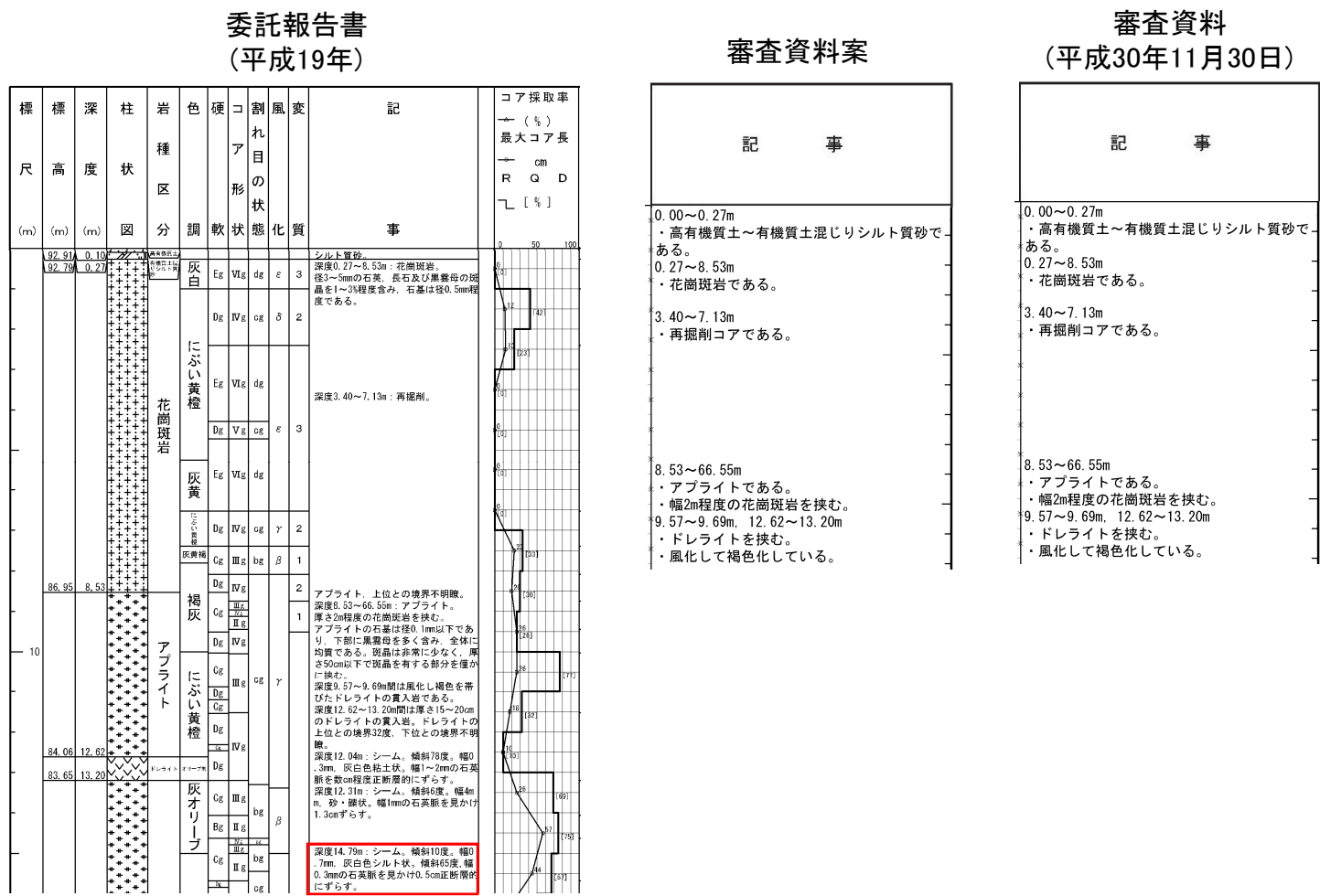


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.15孔 深度14.79m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度14.79m: シーム。傾斜10度。幅0.7mm。灰白色シルト状。傾斜65度。幅0.3mmの石英脈を見かけ0.5cm正断層的にずらす。	記載なし	記載なし



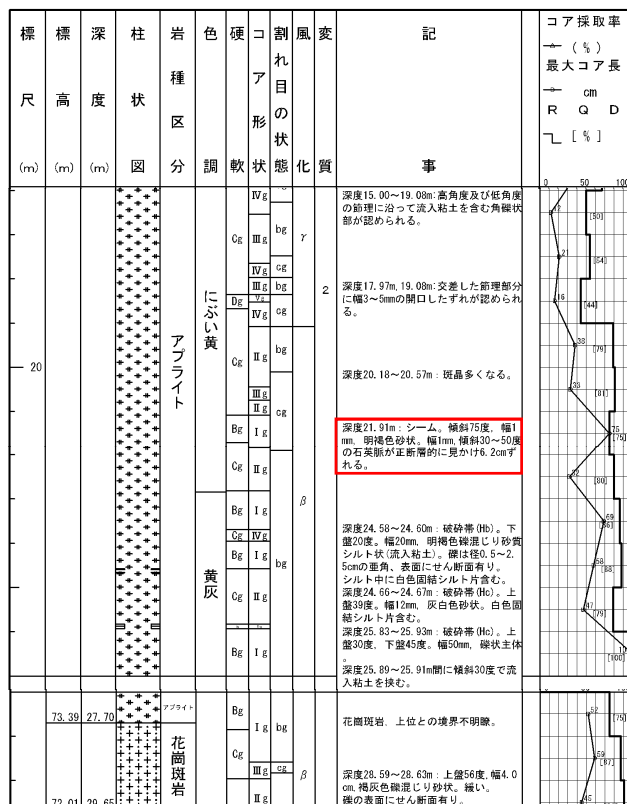
凡例  
 : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.15孔 深度21.91m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

## 委託報告書 (平成19年)



## 審査資料案

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●24.58～24.67m (f-15-1破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・主に明褐色の固結礫状部からなる。</li> <li>・灰白色の未固結粘土状部：累計幅1.2cm</li> <li>・走向・傾斜はN7° W88° Eである。</li> <li>●25.83～25.93m (f-15-2破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・主に黄灰色の固結礫状部からなる。</li> <li>・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅5.0cm</li> <li>・走向・傾斜はN6° E89° Eである。</li> <li>・上端境界の傾斜は30°、下端境界の傾斜は45°である。</li> <li>27.70～29.65m</li> <li>・花崗斑岩である。</li> </ul>

## 審査資料 (平成30年11月30日)

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●24.58～24.67m (f-15-1破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・主に明褐色の固結礫状部からなる。</li> <li>・灰白色の未固結粘土状部：累計幅1.2cm</li> <li>・走向・傾斜はN7° W88° Eである。</li> <li>●25.83～25.93m (f-15-2破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・主に黄灰色の固結礫状部からなる。</li> <li>・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅5.0cm</li> <li>・走向・傾斜はN6° E89° Eである。</li> <li>・上端境界の傾斜は30°、下端境界の傾斜は45°である。</li> <li>27.70～29.65m</li> <li>・花崗斑岩である。</li> </ul>

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度21.91m: シーム。傾斜75度、幅1mm、明褐色砂状。幅1mm、傾斜30～50度の石英脈が正断層的に見かけ6.2cmずれる。	記載なし	記載なし

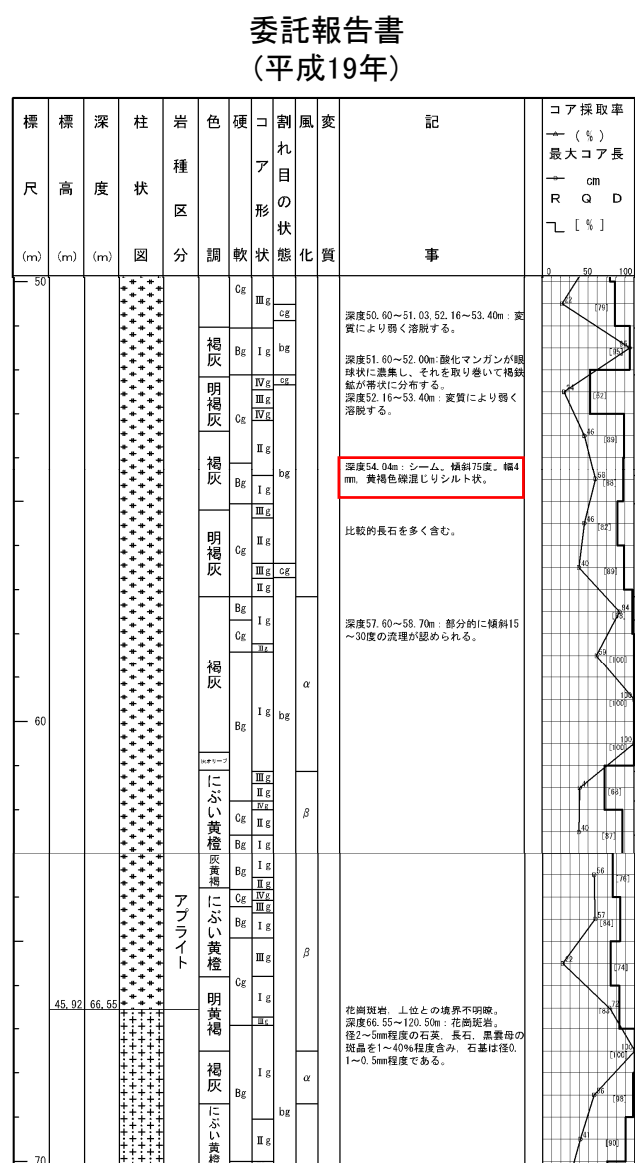


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.15孔 深度54.04m)

・シルト状を呈するが、その分布は屈曲し直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



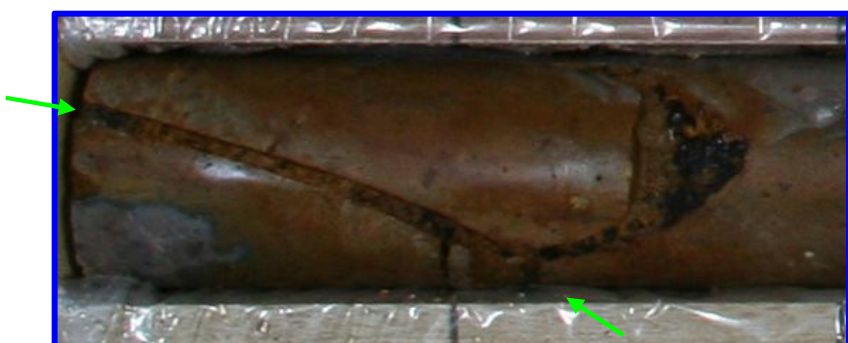
審査資料案

記事
50.60~51.03m, 52.16~53.40m ・変質により弱く溶脱する。 51.60~52.00m ・酸化マンガンが濃集する。 52.16~53.40m ・変質により弱く溶脱する。 54.04m ・黄褐色礫混じりシルト状を呈する。 66.55~81.80m ・花崗斑岩である。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
50.60~51.03m, 52.16~53.40m ・変質により弱く溶脱する。 51.60~52.00m ・酸化マンガンが濃集する。 52.16~53.40m ・変質により弱く溶脱する。 54.04m ・黄褐色礫混じりシルト状を呈する。 66.55~81.80m ・花崗斑岩である。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度54.04m: シーム。傾斜75度。幅4mm。黄褐色礫混じりシルト状。	54.04m ・黄褐色礫混じりシルト状を呈する。	54.04m ・黄褐色礫混じりシルト状を呈する。

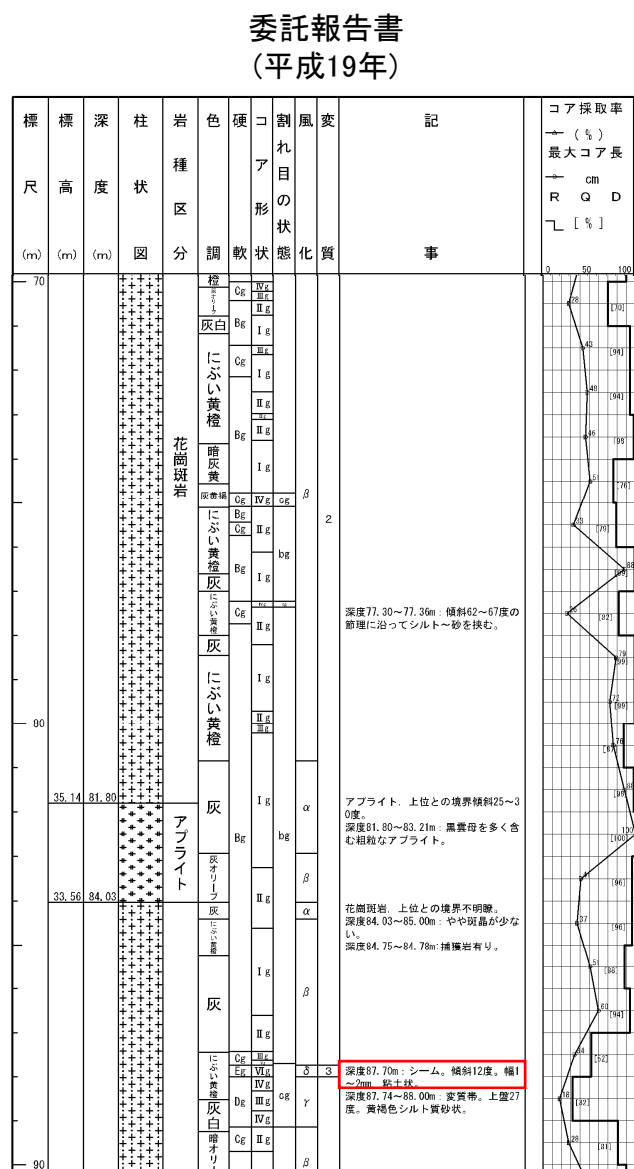


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.15孔 深度87.70m)

・粘土状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



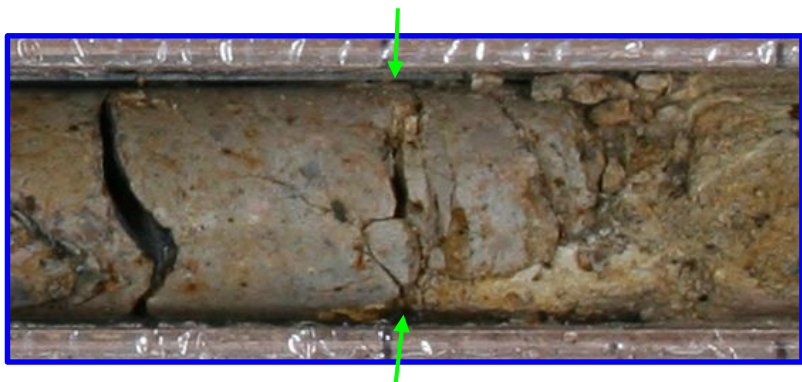
審査資料案

記事
81.80~83.21m ・アブライトである。 ・黒雲母を含み、粗粒である。
84.03~115.40m ・花崗斑岩である。 84.75~84.78m ・捕獲岩が認められる。
87.70~88.00m ・変質している。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
81.80~83.21m ・アブライトである。 ・黒雲母を含み、粗粒である。
84.03~115.40m ・花崗斑岩である。 84.75~84.78m ・捕獲岩が認められる。
87.70~88.00m ・変質している。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度87.70m: シーム。傾斜12度。幅1~2mm, 粘土状。	87.70~88.00m ・変質している。	87.70~88.00m ・変質している。



凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.15孔 深度149.22~149.23m)

・シルト状部にせん断構造・変形構造が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

## 委託報告書 (平成19年)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	備考
-11.03	147.93	149.00	アフリイト	補灰	IVg	割れ目形状	変質	深度148.10~148.20m:黄鉄鉱濃集。 深度148.70~149.22m:変質帯。網目状に富集。補・灰白色シルトを挟み、全体に軟質。 深度149.22~149.23m:シーム。上盤53度、下盤57度。幅8mm。灰白色シルト状。	3	50					

## 審査資料案

記事
148.70~149.22m ・変質し、網目状を呈する。 149.22~149.23m ・割れ目に灰白色シルトを挟む。

## 審査資料 (平成30年11月30日)

記事
148.70~149.22m ・変質し、網目状を呈する。 149.22~149.23m ・割れ目に灰白色シルトを挟む。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度149.22~149.23m:シーム。上盤53度、下盤57度。幅8mm、灰白色シルト状。	149.22~149.23m ・割れ目に灰白色シルトを挟む。	149.22~149.23m ・割れ目に灰白色シルトを挟む。



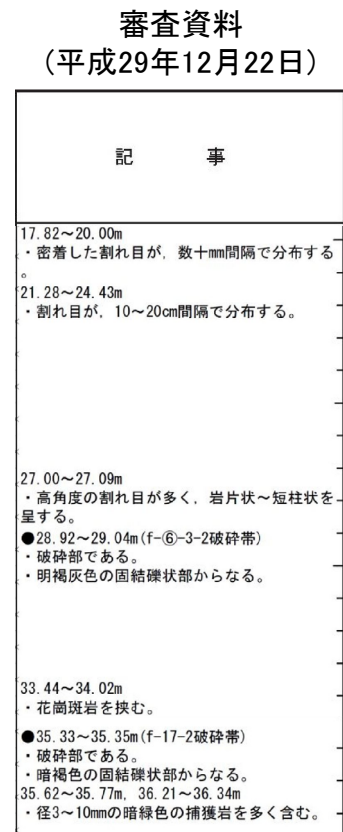
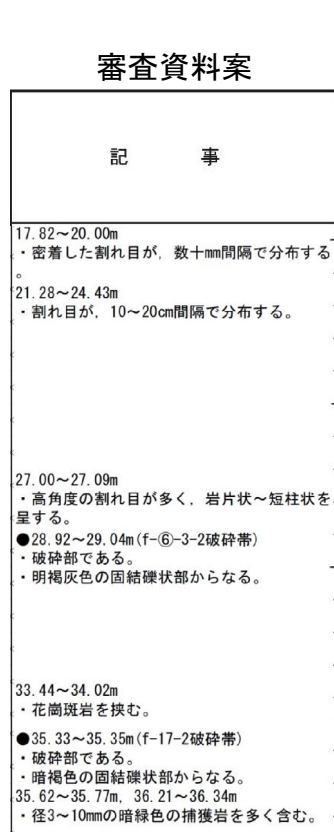
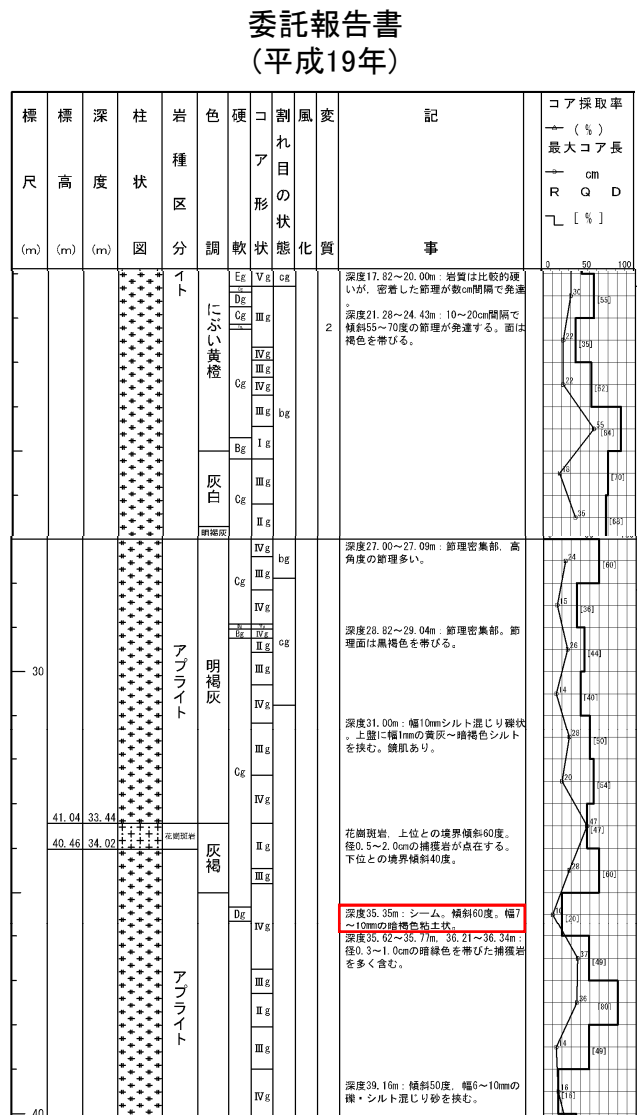
凡例  
← :シーム

0 5 cm

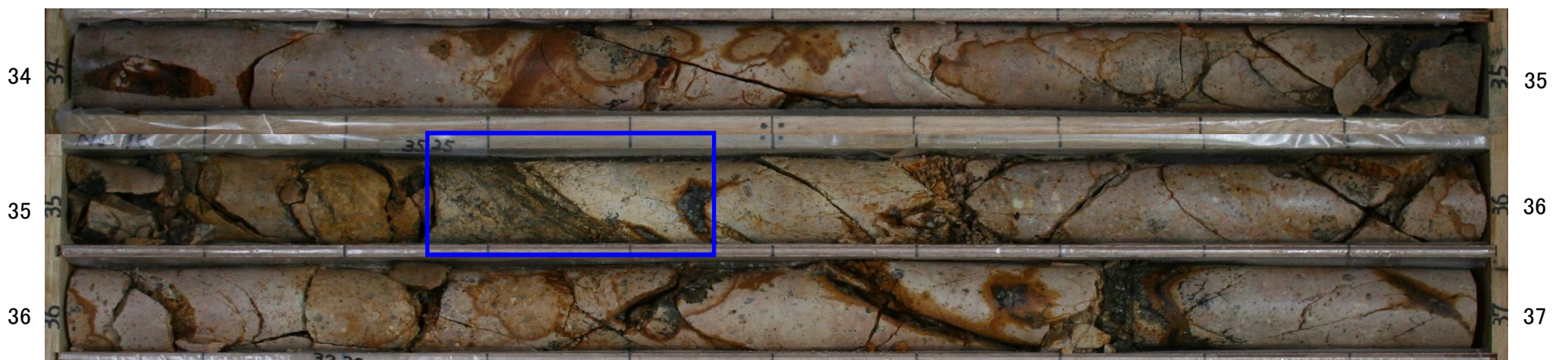


# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No16孔 深度35.35m)

・同系統の割れ目に挟まれた区間に粒子の定向配列が認められることから、破碎部として認定した。  
 大半の区間は固結しており、下端面の粘土状部は連続性に乏しいことから、カタクレーサイトであると判断した(平成20年破碎部再観察結果)。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度35.35m: シーム。傾斜60度。幅7~10mmの暗褐色粘土状。	●35.33~35.35m (f-17)-2破碎帯 ・破碎部である。 ・暗褐色の固結礫状部からなる。	●35.33~35.35m (f-17)-2破碎帯 ・破碎部である。 ・暗褐色の固結礫状部からなる。

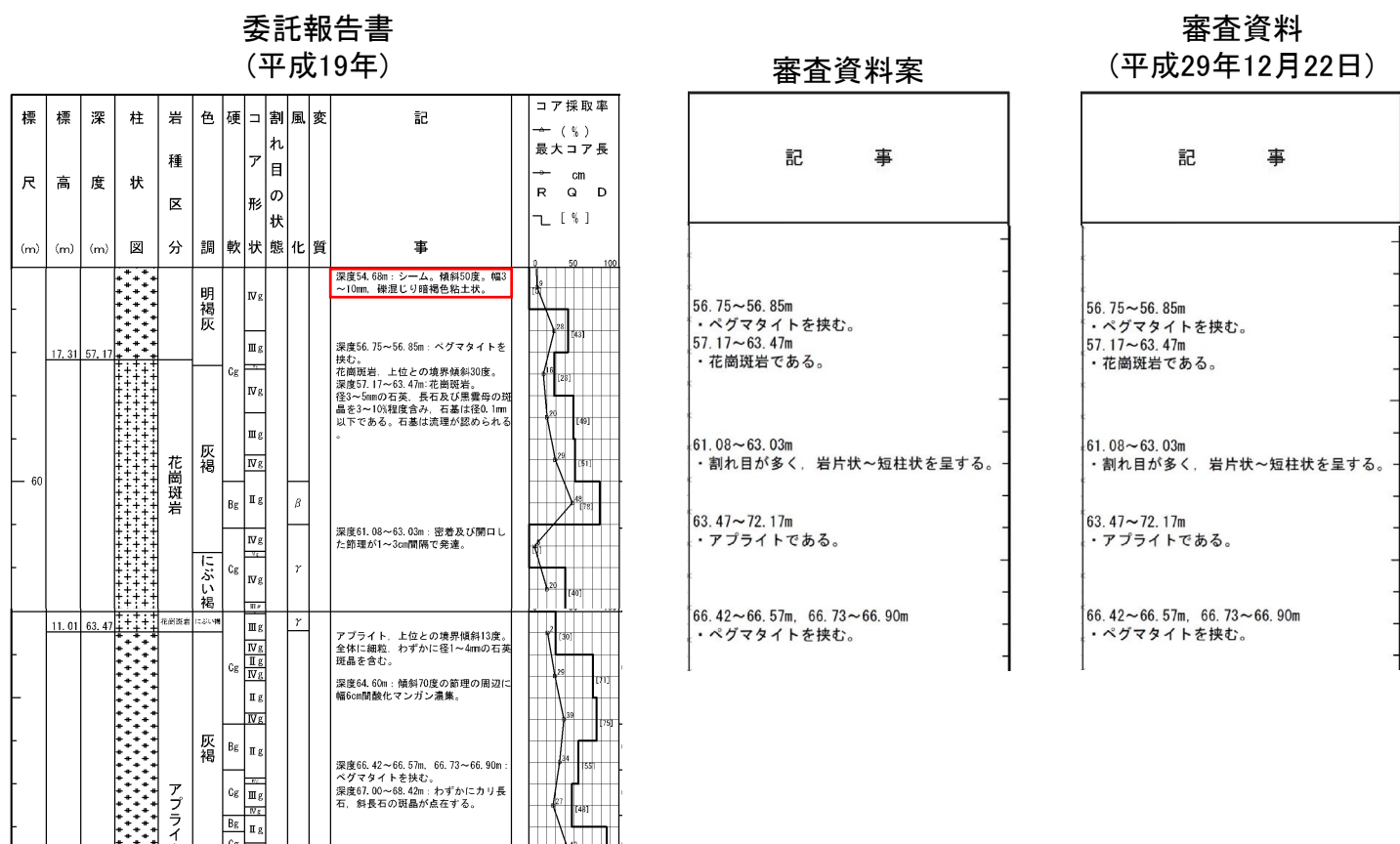


凡例  
 ← : シーム

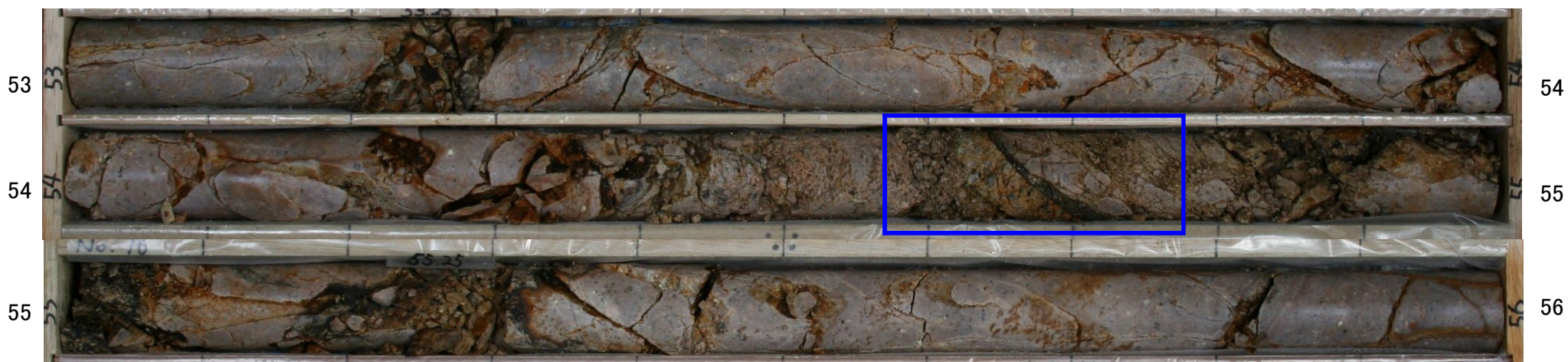
0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.16孔 深度54.68m)

・礫混じり粘土状を呈するが、礫に定向配列は認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度54.68m: シーム。傾斜50度。幅3~10mm。礫混じり暗褐色粘土状。	記載なし	記載なし

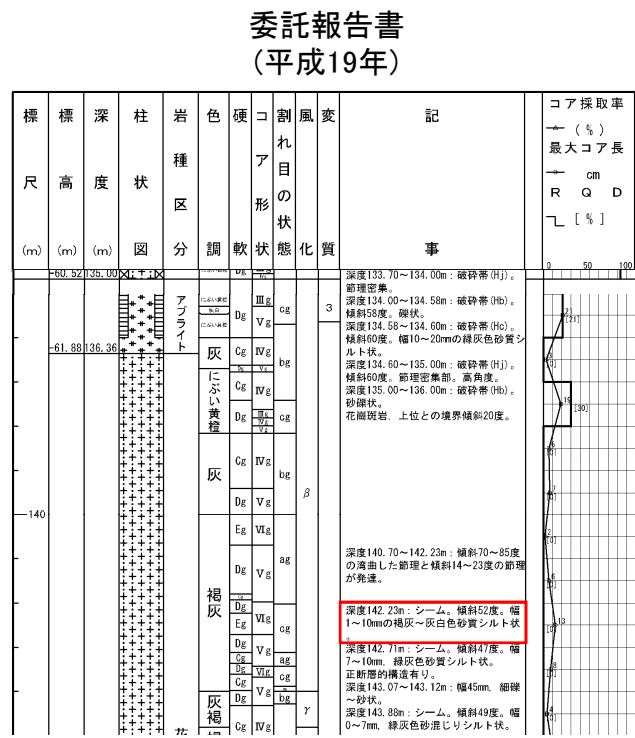


**凡例**  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.16孔 深度142.23m)

・シルト状を呈するが、その分布は途切れており連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●133.70~136.00m</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・にぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。</li> <li>・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm</li> <li>135.00~136.63m</li> <li>・アブライトを挟む。</li> <li>136.00~149.00m</li> <li>・割れ目が多く、土砂~岩片状を呈する。</li> <li>136.36~154.63m</li> <li>・花崗斑岩である。</li> </ul>

審査資料 (平成29年12月22日)

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●133.70~136.00m</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・にぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。</li> <li>・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm</li> <li>135.00~136.63m</li> <li>・アブライトを挟む。</li> <li>136.00~149.00m</li> <li>・割れ目が多く、土砂~岩片状を呈する。</li> <li>136.36~154.63m</li> <li>・花崗斑岩である。</li> </ul>

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度142.23m:シーム。傾斜52度。幅1~10mmの褐灰~灰白色砂質シルト状。	記載なし	記載なし

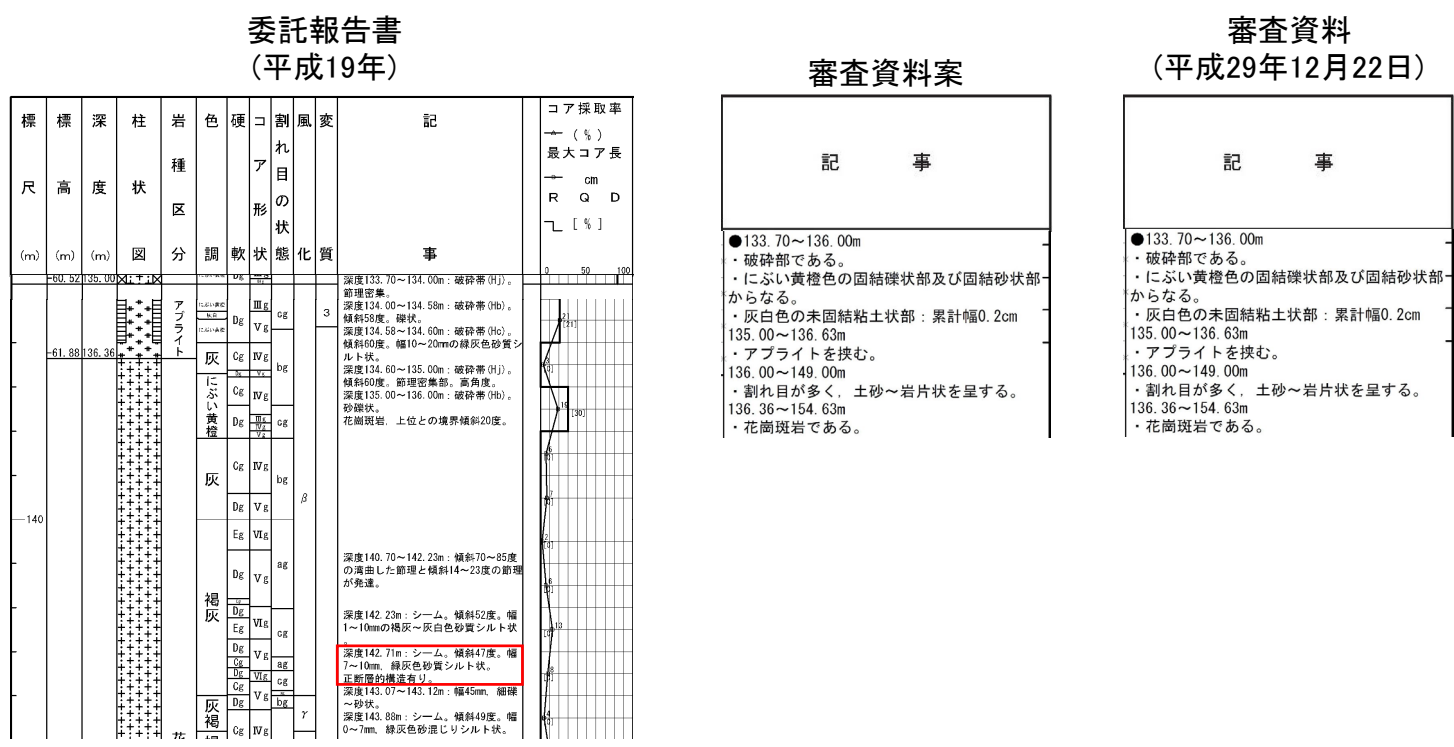


凡例  
← :シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度142.71m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
<p>深度142.71m: シーム。傾斜47度。幅7~10mm。緑灰色砂質シルト状。正断層的構造有り。</p>	<p>記載なし</p>	<p>記載なし</p>

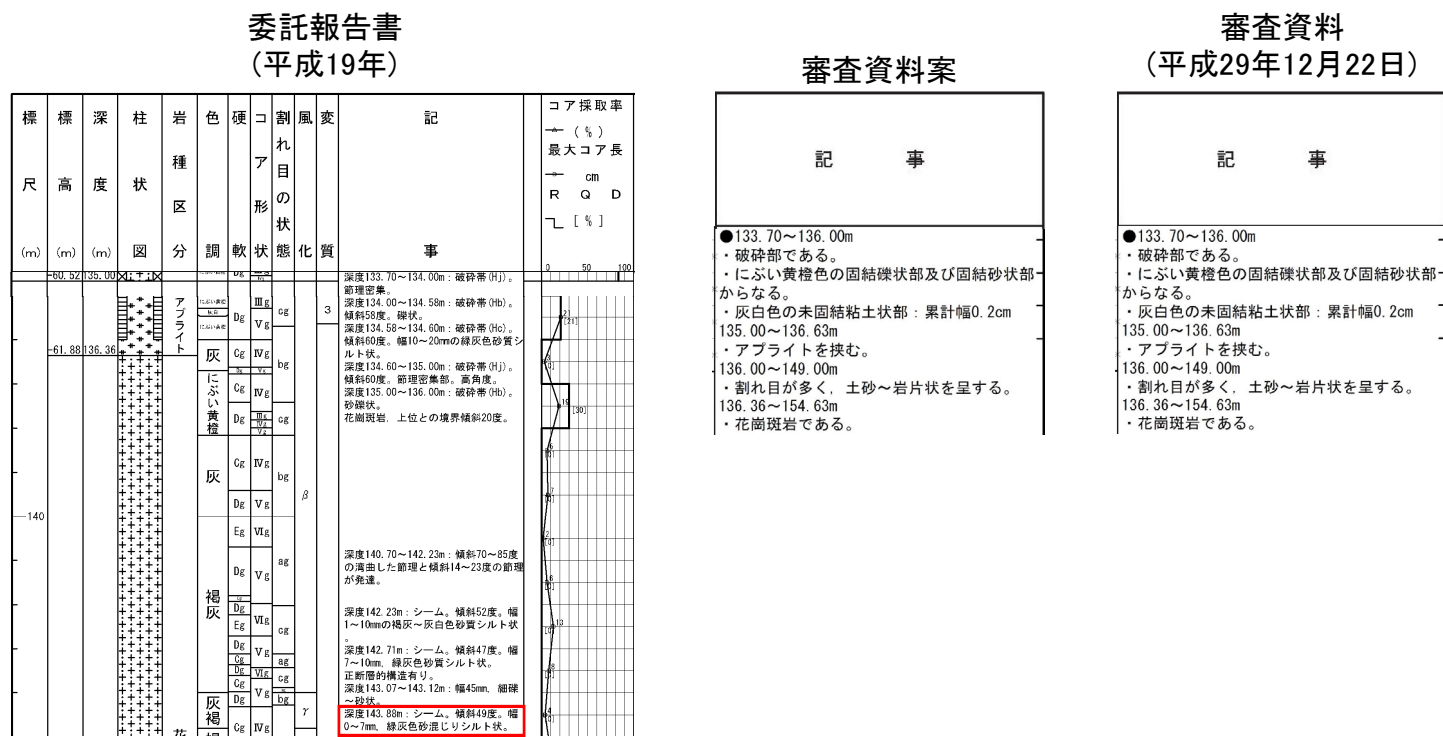


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.16孔 深度143.88m)

・シルト状を呈するが、その分布は屈曲し直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度143.88m: シーム。傾斜49度。幅0~7mm, 緑灰色砂混じりシルト状。	記載なし	記載なし

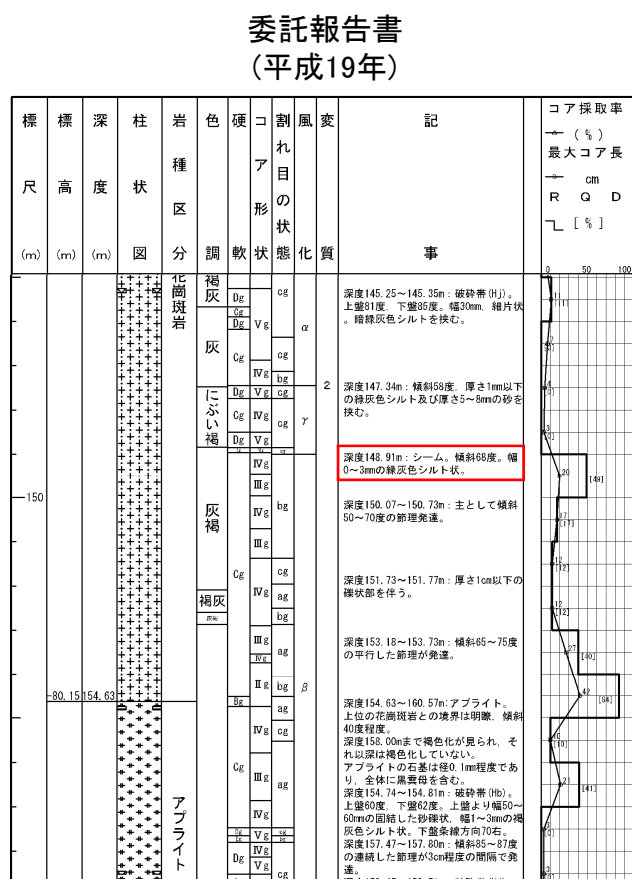


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度148.91m)

・周囲の岩盤にシームと同系統の割れ目が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



**審査資料案**

記事
<p>●145.25～145.35m ・破碎部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は81°、下端境界の傾斜は85°である。</p> <p>153.18～153.73m ・平行した割れ目が分布する。</p> <p>154.63～160.57m ・アプライトである。 ・158.00mまで褐色化している。</p> <p>●154.74～154.81m(D-16破碎帯) ・破碎部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は30°、下端境界の傾斜は62°である。</p> <p>157.47～157.80m ・連続した割れ目が、3cm程度の間隔で分布する。</p>

**審査資料  
(平成29年12月22日)**

記事
<p>●145.25～145.35m ・破碎部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は81°、下端境界の傾斜は85°である。</p> <p>153.18～153.73m ・平行した割れ目が分布する。</p> <p>154.63～160.57m ・アプライトである。 ・158.00mまで褐色化している。</p> <p>●154.74～154.81m(D-16破碎帯) ・破碎部である。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は30°、下端境界の傾斜は62°である。</p> <p>157.47～157.80m ・連続した割れ目が、3cm程度の間隔で分布する。</p>

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度148.91m:シーム。傾斜68度。幅0～3mmの緑灰色シルト状。	記載なし	記載なし



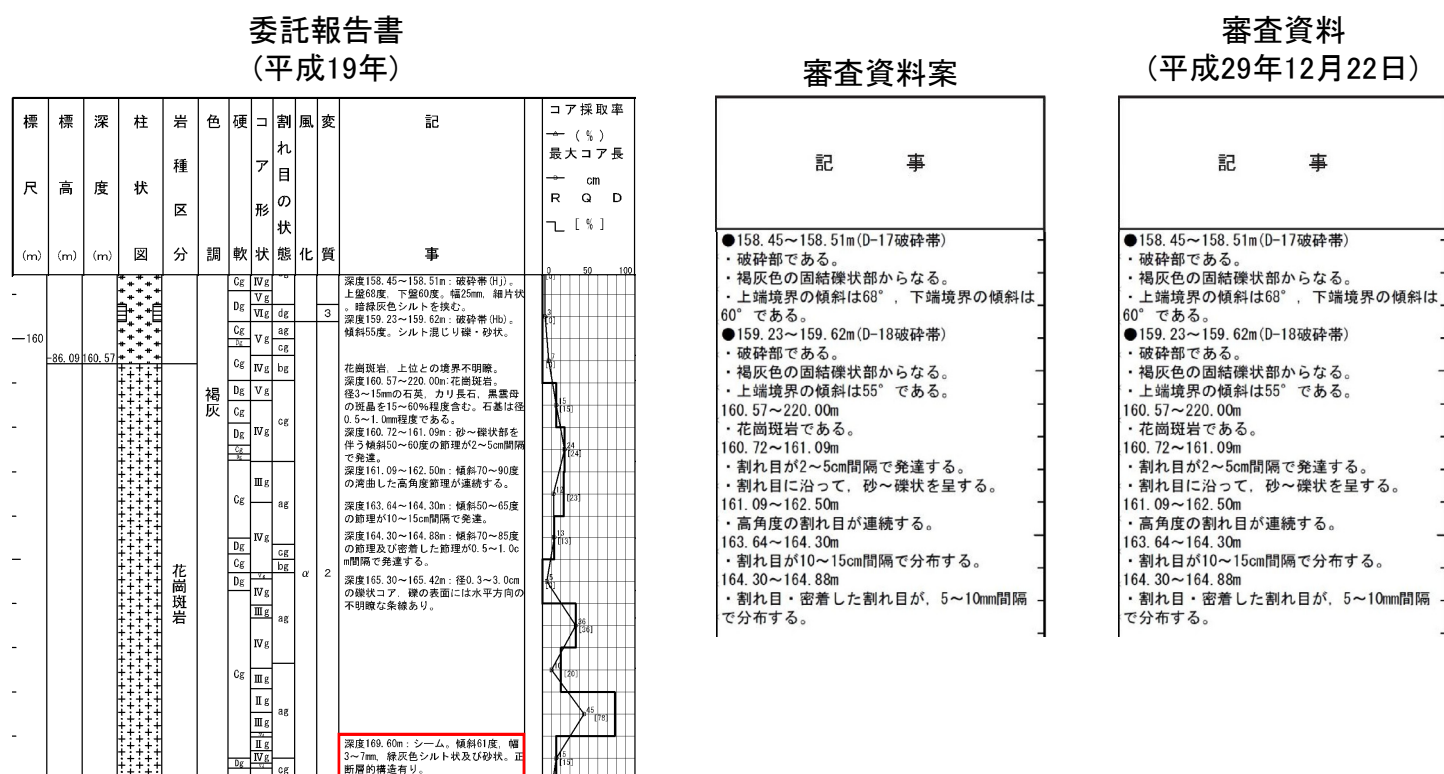
**凡例**

← :シーム

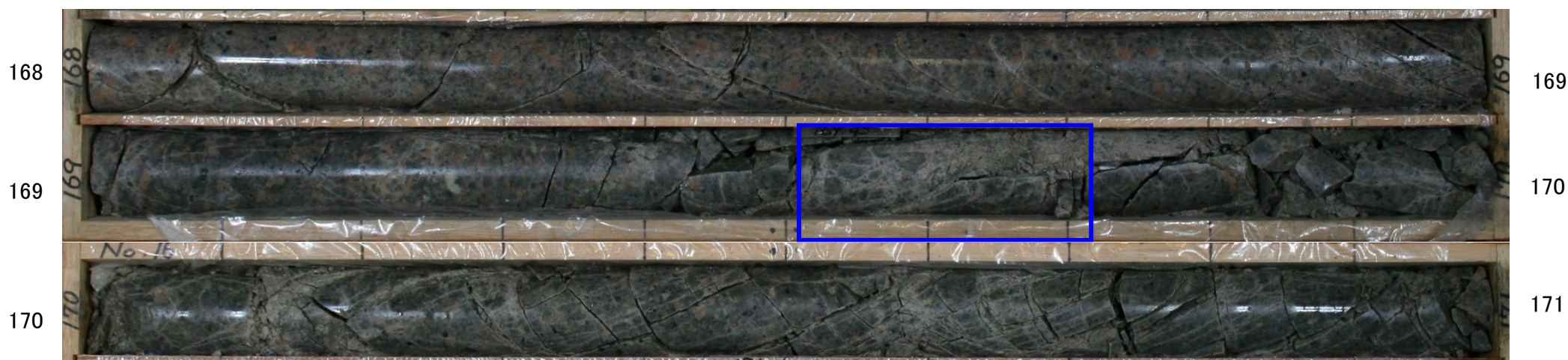
0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度169.60m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度169.60m: シーム。傾斜61度、幅3～7mm、緑灰色シルト状及び砂状。正断層の構造有り。	記載なし	記載なし

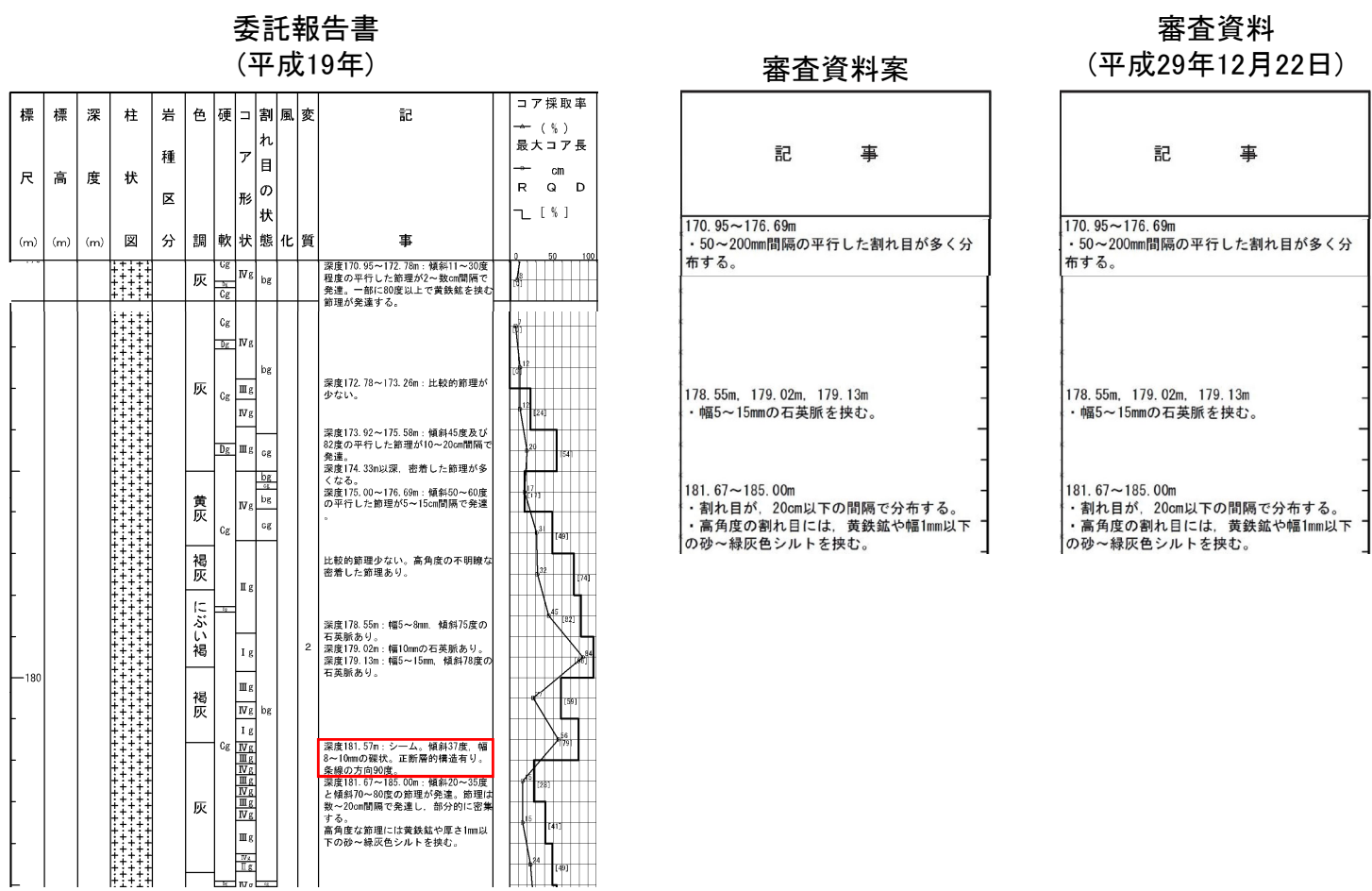


凡例  
← : シーム

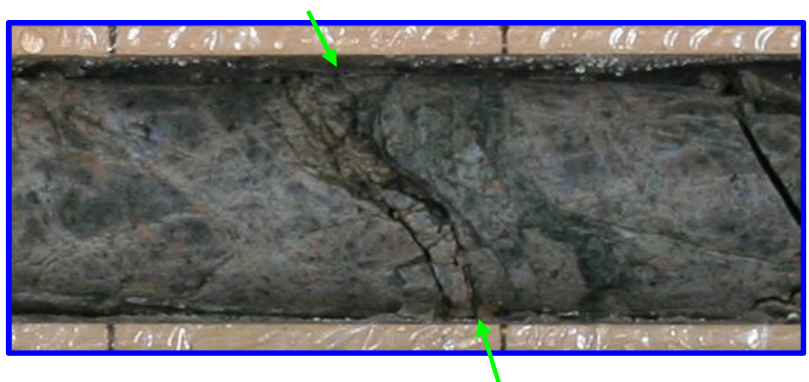
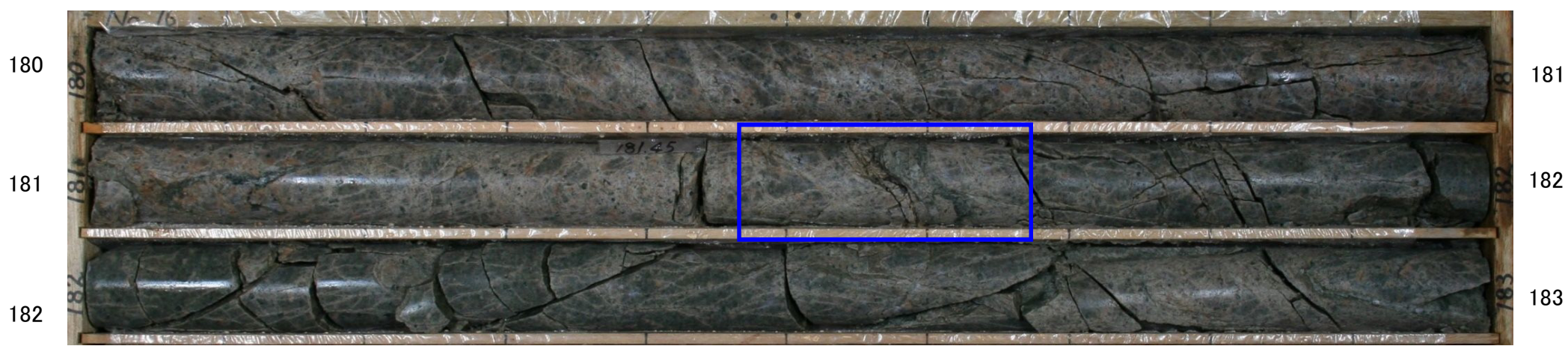
0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度181.57m)

・礫状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
<p>深度181.57m: シーム。傾斜37度、幅8~10mmの礫状。正断層的構造有り。条線の方向90度。</p>	<p>記載なし</p>	<p>記載なし</p>



凡 例

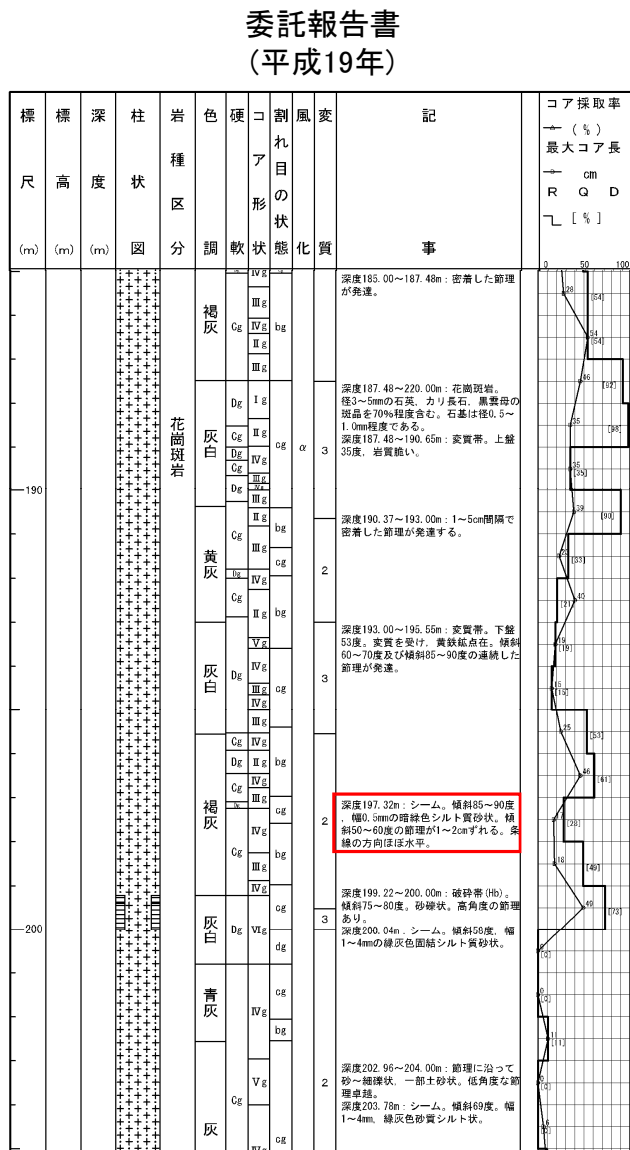
← : シーム

0                      5 cm



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度197.32m)

・砂状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



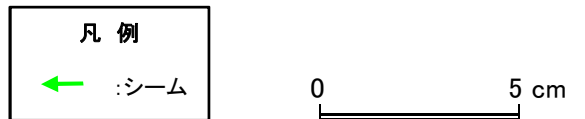
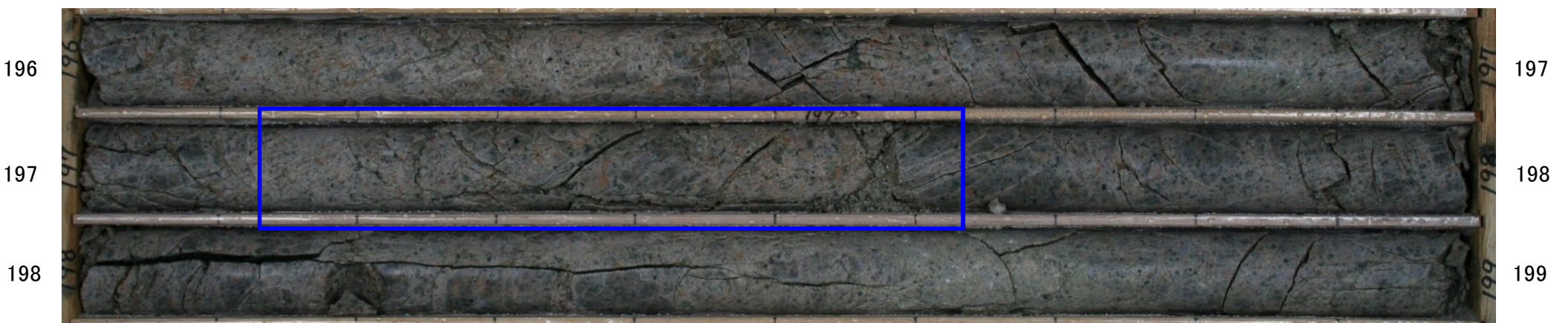
**審査資料案**

記事
185.00~187.48m ・密着した割れ目が分布する。
187.48~220.00m ・花崗斑岩である。 187.48~190.65m ・変質により、軟質化している。
190.37~193.00m ・密着した割れ目が、1~5cm間隔で分布する。
193.00~195.55m ・変質により、軟質化しており、黄鉄鉱が点在する。 ・連続した割れ目が分布する。
●199.22~200.00m ・破碎部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は75°~80°である。
202.96~204.00m ・低角度の割れ目が多く、割れ目に沿って砂~細礫状、一部土砂状を呈する。

**審査資料 (平成29年12月22日)**

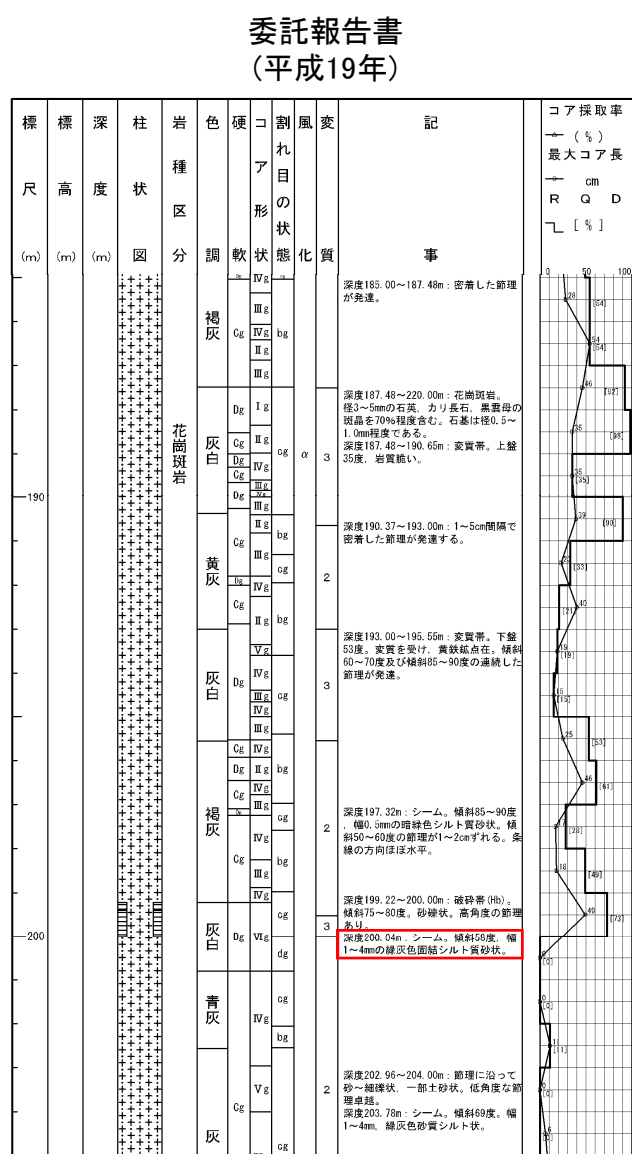
記事
185.00~187.48m ・密着した割れ目が分布する。
187.48~220.00m ・花崗斑岩である。 187.48~190.65m ・変質により、軟質化している。
190.37~193.00m ・密着した割れ目が、1~5cm間隔で分布する。
193.00~195.55m ・変質により、軟質化しており、黄鉄鉱が点在する。 ・連続した割れ目が分布する。
●199.22~200.00m ・破碎部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は75°~80°である。
202.96~204.00m ・低角度の割れ目が多く、割れ目に沿って砂~細礫状、一部土砂状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度197.32m: シーム。傾斜85~90度、幅0.5mmの暗緑色シルト質砂状。傾斜50~60度の節理が1~2cmずれる。条線方向ほぼ水平。	記載なし	記載なし



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度200.04m)

・砂状を呈するが、その分布は膨縮し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案	
記事	
185.00~187.48m	・密着した割れ目が分布する。
187.48~220.00m	・花崗斑岩である。 187.48~190.65m ・変質により、軟質化している。
190.37~193.00m	・密着した割れ目が、1~5cm間隔で分布する。
193.00~195.55m	・変質により、軟質化しており、黄鉄鉱が点在する。 ・連続した割れ目が分布する。
●199.22~200.00m	・破碎部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は75°~80°である。
202.96~204.00m	・低角度の割れ目が多く、割れ目に沿って砂~細礫状、一部土砂状を呈する。

審査資料 (平成29年12月22日)	
記事	
185.00~187.48m	・密着した割れ目が分布する。
187.48~220.00m	・花崗斑岩である。 187.48~190.65m ・変質により、軟質化している。
190.37~193.00m	・密着した割れ目が、1~5cm間隔で分布する。
193.00~195.55m	・変質により、軟質化しており、黄鉄鉱が点在する。 ・連続した割れ目が分布する。
●199.22~200.00m	・破碎部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・上端境界の傾斜は75°~80°である。
202.96~204.00m	・低角度の割れ目が多く、割れ目に沿って砂~細礫状、一部土砂状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度200.04m: シーム。傾斜58度、幅1~4mmの緑灰色固結シルト質砂状。	記載なし	記載なし

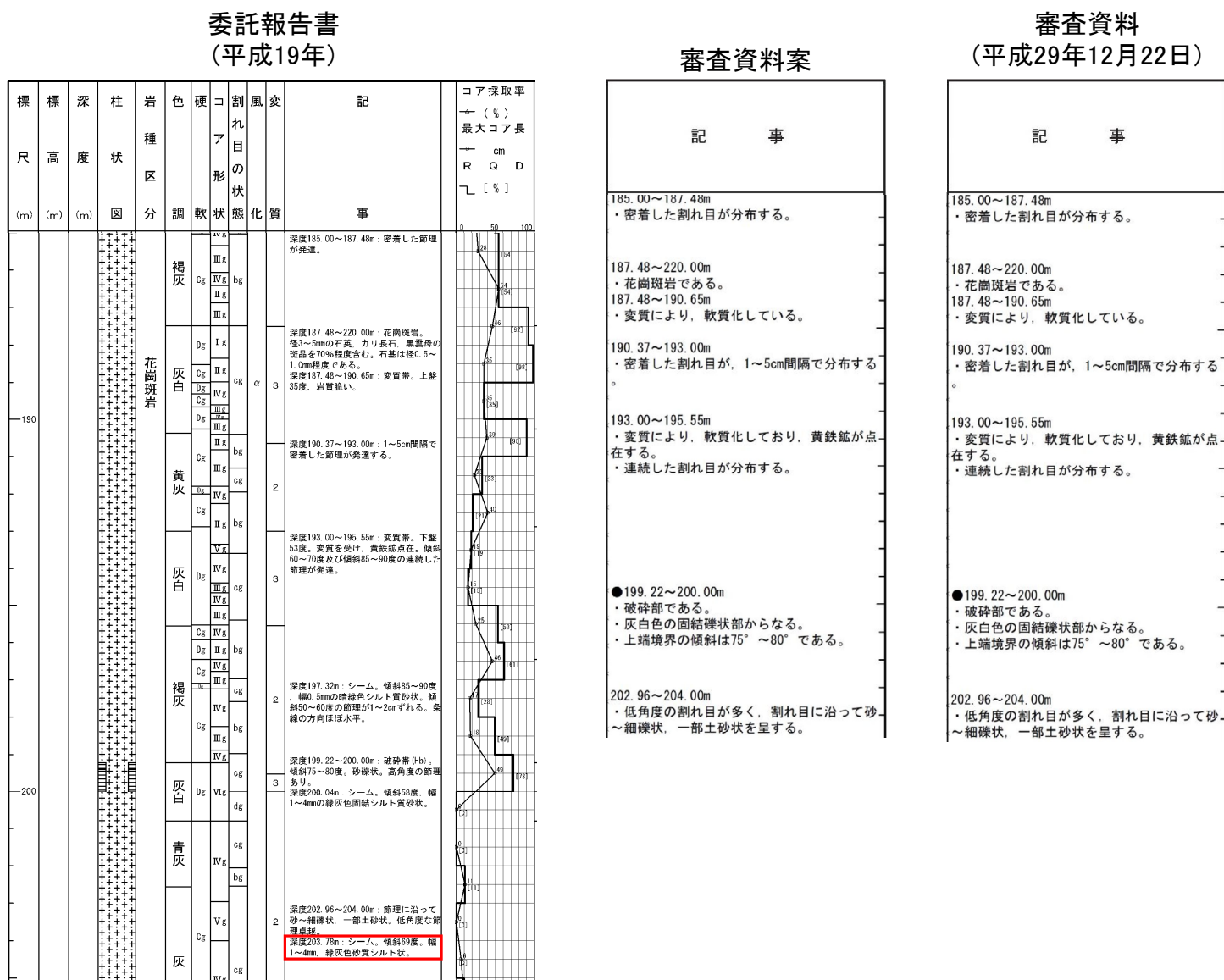


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度203.78m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、シームと同系統の割れ目が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度203.78m: シーム。傾斜69度。幅1~4mm, 緑灰色砂質シルト状。	記載なし	記載なし



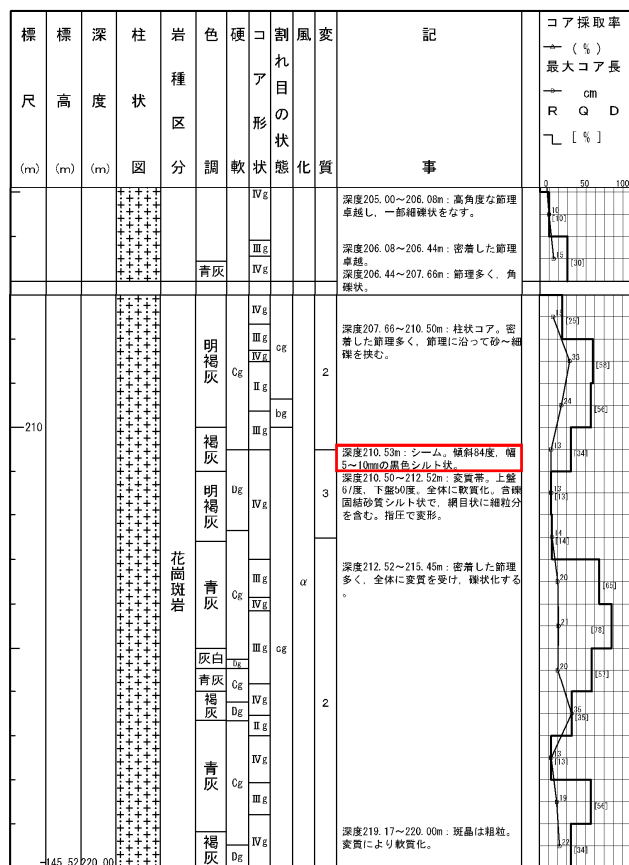
**凡例**  
→ : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.16孔 深度210.53m)

・比較的幅広い粘土状部が、長く連続し、コアを横断していることから、破碎部として認定した。  
粘土状部の連続性が良いことから、断層ガウジであると判断した(平成20年破碎部再観察結果)。

## 委託報告書 (平成19年)



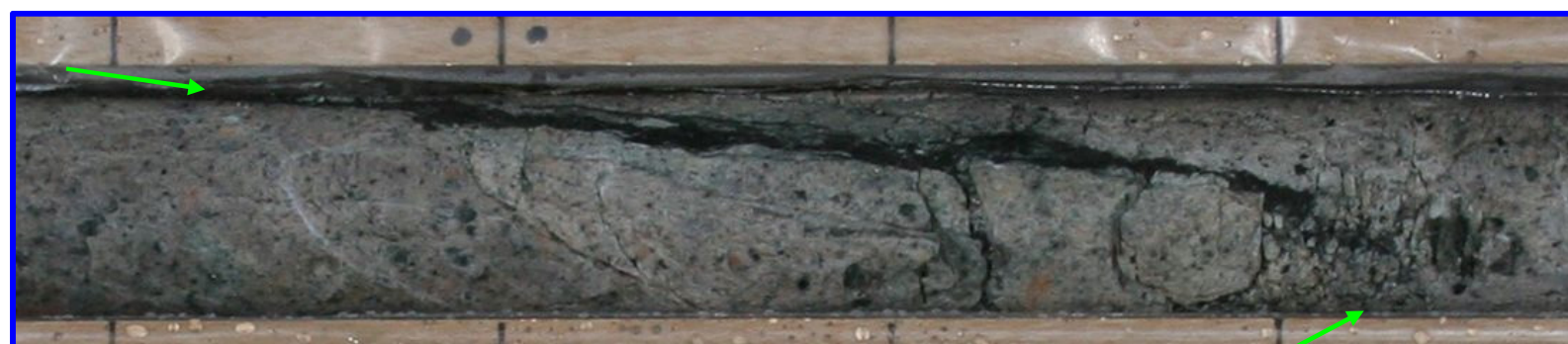
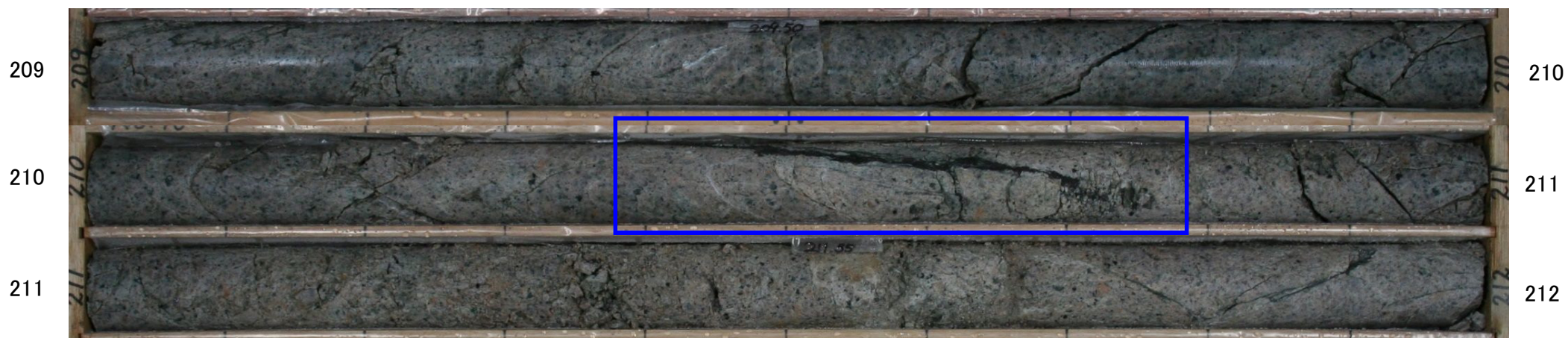
## 審査資料案

記事
205.00~206.08m ・高角度の割れ目が多く、一部細礫状を呈する。
206.08~206.44m ・密着した割れ目が多い。
206.44~207.66m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
207.66~210.50m ・柱状を呈する。
●210.53m ・破碎部である。 ・黒色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。
212.52~215.45m ・密着した割れ目が多い。

## 審査資料 (平成29年12月22日)

記事
205.00~206.08m ・高角度の割れ目が多く、一部細礫状を呈する。
206.08~206.44m ・密着した割れ目が多い。
206.44~207.66m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
207.66~210.50m ・柱状を呈する。
●210.53m ・破碎部である。 ・黒色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。
212.52~215.45m ・密着した割れ目が多い。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度210.53m: シーム。傾斜84度、幅5~10mmの黒色シルト状。	●210.53m ・破碎部である。 ・黒色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。	●210.53m ・破碎部である。 ・黒色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.0cmである。

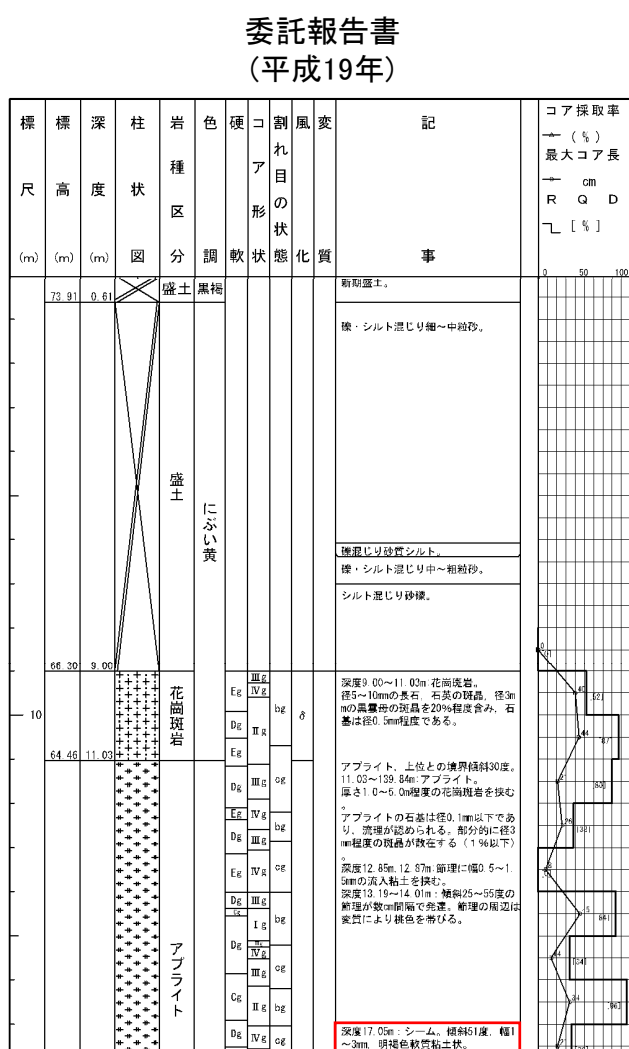


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度17.05m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
0.00～9.00m ・盛土である。 ・塊・シルト混じり砂～シルト混じり砂礫からなる。	0.00～9.00m ・盛土である。 ・塊・シルト混じり砂～シルト混じり砂礫からなる。
9.00～11.03m ・花崗斑岩である。	9.00～11.03m ・花崗斑岩である。
11.03～20.95m ・アムシロインである。	11.03～20.95m ・アムシロインである。
13.19～14.01m ・割れ目が数十mm間隔で分布する。	13.19～14.01m ・割れ目が数十mm間隔で分布する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度17.05m: シーム。傾斜51度。幅1～3mm。明褐色軟質粘土状。	記載なし	記載なし

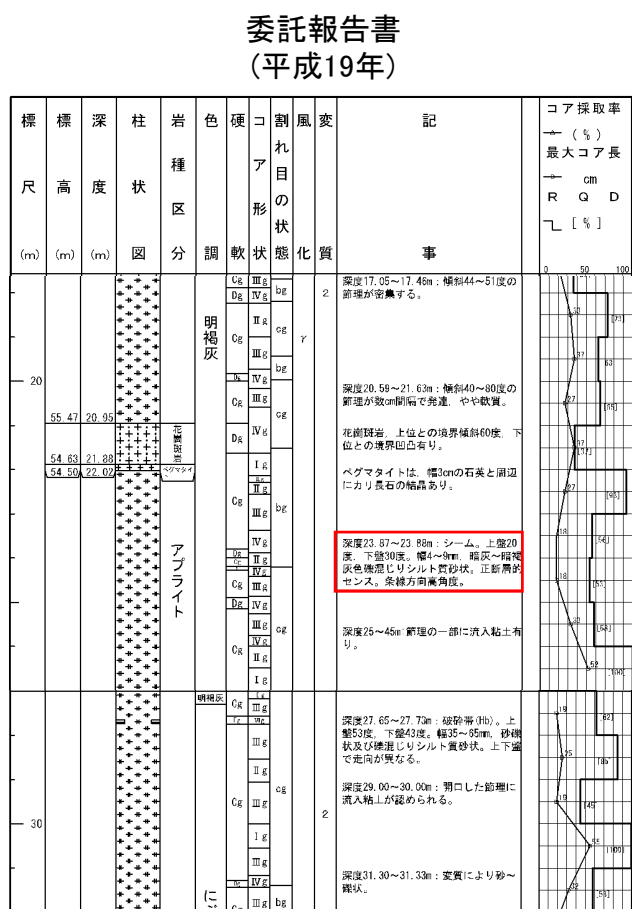


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度23.87~23.88m)

・礫混じりシルト質砂状を呈するが、礫に定向配列は認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



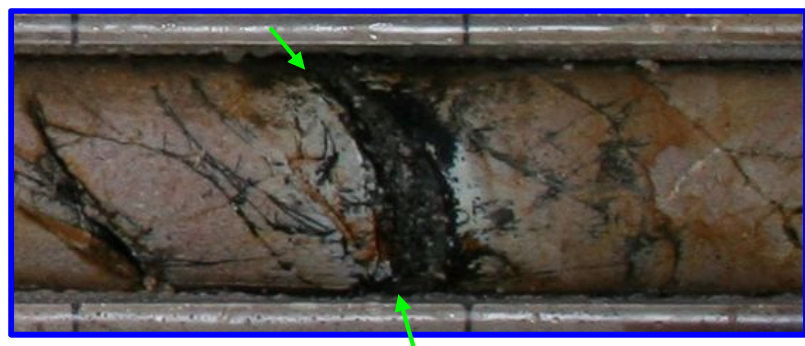
**審査資料案**

記事
17.05~17.46m ・割れ目が密集する。
20.95~21.88m ・花崗閃岩である。 20.59~21.63m ・割れ目が数十mm間隔で分布する。 21.88~22.02m ・ペグマタイトである。
●27.65~27.73m (f-6)-3-2破碎帯 ・破碎部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN34° E57° Wである。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は43°である。

**審査資料 (平成29年12月22日)**

記事
17.05~17.46m ・割れ目が密集する。
20.95~21.88m ・花崗閃岩である。 20.59~21.63m ・割れ目が数十mm間隔で分布する。 21.88~22.02m ・ペグマタイトである。
●27.65~27.73m (f-6)-3-2破碎帯 ・破碎部である。 ・にぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN34° E57° Wである。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は43°である。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度23.87~23.88m: シーム。上盤20度、下盤30度。幅4~9mm。暗灰~暗褐色礫混じりシルト質砂状。正断層のセンス。条線方向高角度。	記載なし	記載なし

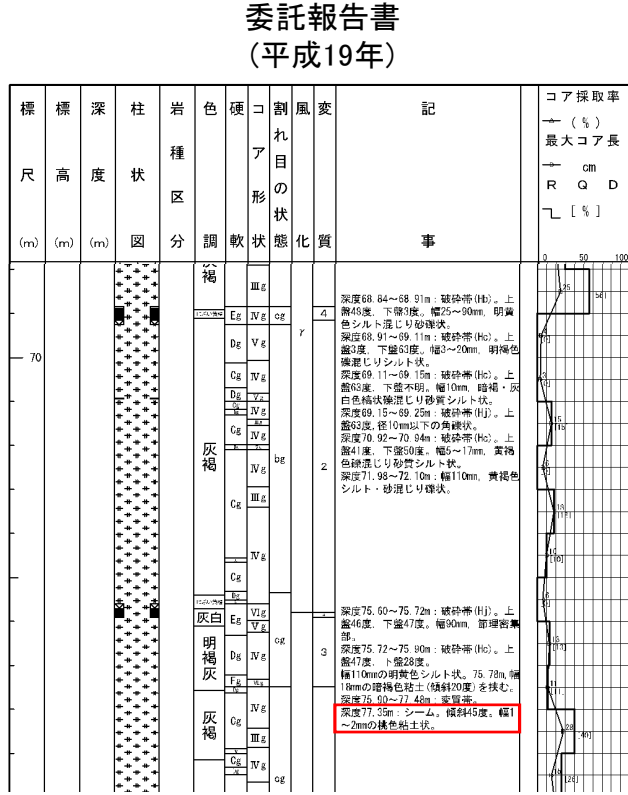


**凡例**  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度77.35m)

・同様の粘土状部が周囲の岩盤の割れ目に沿って網目状に分布していることから、破碎部ではないと判断した。



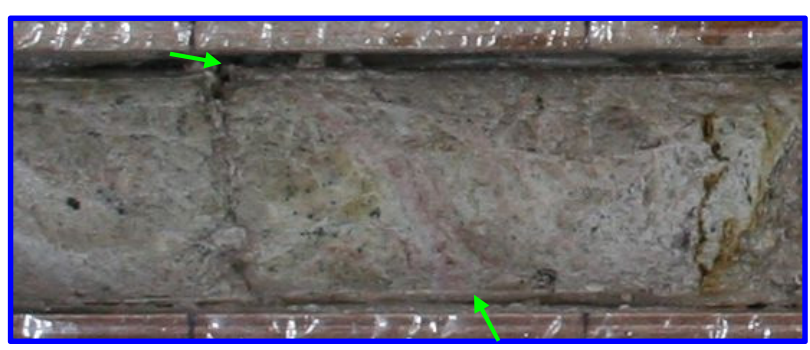
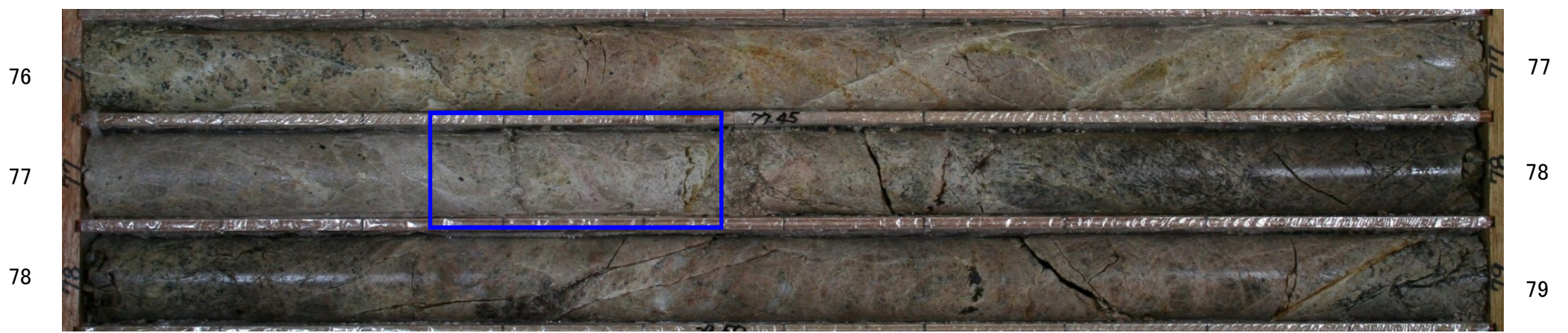
**審査資料案  
(平成29年12月22日)**

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●68.84~69.25m(D-11破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・主に明黄色の固結礫状部からなる。</li> <li>・明褐色の未固結粘土状部: 累計幅2.2cm</li> <li>・走向・傾斜はN10° E62° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は48°である。</li> <li>●70.92~70.94m(D-12破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・黄褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.7cmである。</li> <li>・走向・傾斜はN18° E53° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は41°、下端境界の傾斜は50°である。</li> <li>●75.60~75.90m(D-14破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・主ににぶい黄褐色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。</li> <li>・暗褐色の未固結粘土状部: 累計幅1.8cm</li> <li>・走向・傾斜はN14° E77° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は28°である。</li> <li>75.90~77.48m</li> <li>・変質している。</li> </ul>

**審査資料  
(平成29年12月22日)**

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●68.84~69.25m(D-11破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・主に明黄色の固結礫状部からなる。</li> <li>・明褐色の未固結粘土状部: 累計幅2.2cm</li> <li>・走向・傾斜はN10° E62° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は48°である。</li> <li>●70.92~70.94m(D-12破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・黄褐色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.7cmである。</li> <li>・走向・傾斜はN18° E53° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は41°、下端境界の傾斜は50°である。</li> <li>●75.60~75.90m(D-14破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・主ににぶい黄褐色の固結礫状部及び灰白色の固結粘土状部からなる。</li> <li>・暗褐色の未固結粘土状部: 累計幅1.8cm</li> <li>・走向・傾斜はN14° E77° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は28°である。</li> <li>75.90~77.48m</li> <li>・変質している。</li> </ul>

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度77.35m: シーム。傾斜45度。幅1~2mmの桃色粘土状。	記載なし	記載なし



**凡例**

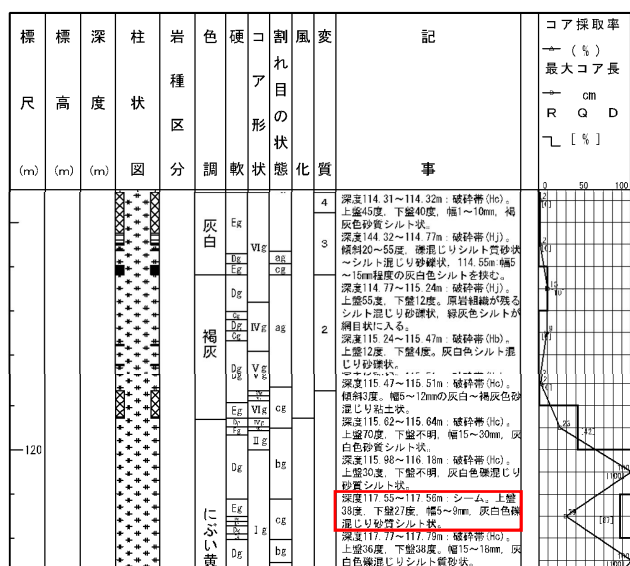
← :シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度117.55~117.56m)

・礫混じり砂質シルト状を呈するが、礫に定向配列は認められず、シルト中の灰白色粘土細脈は不連続である。  
 また、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

## 委託報告書 (平成19年)



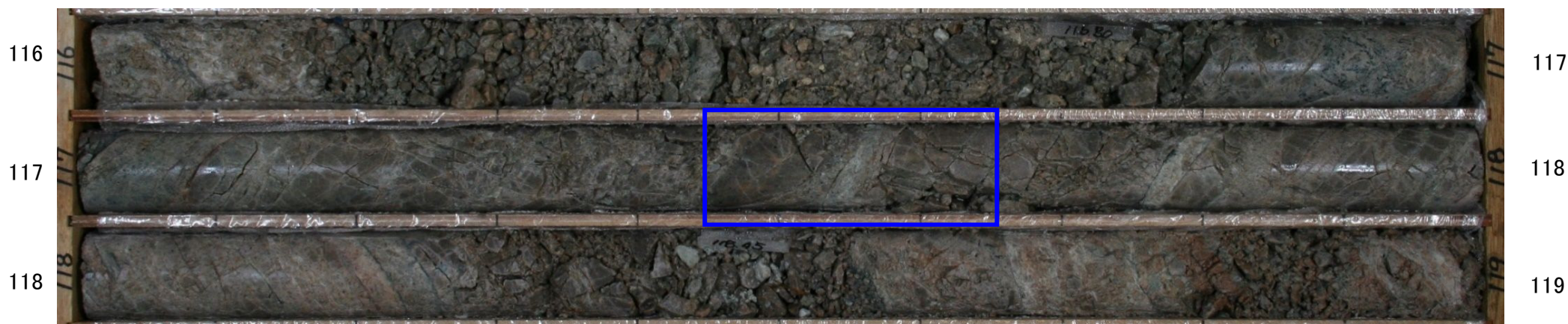
## 審査資料案

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●114.31~115.63m(D-15破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・右ずれ正断層センスである。</li> <li>・主に緑灰色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。</li> <li>・褐灰色の未固結粘土状部：累計幅3.3cm</li> <li>・走向・傾斜はN8° W67° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は51°である。</li> <li>●117.77~117.79m(D-16破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.8cmである。</li> <li>・走向・傾斜はN11° W57° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は36°、下端境界の傾斜は38°である。</li> </ul>

## 審査資料 (平成29年12月22日)

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●114.31~115.63m(D-15破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・右ずれ正断層センスである。</li> <li>・主に緑灰色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。</li> <li>・褐灰色の未固結粘土状部：累計幅3.3cm</li> <li>・走向・傾斜はN8° W67° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は51°である。</li> <li>●117.77~117.79m(D-16破碎帯)</li> <li>・破碎部である。</li> <li>・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.8cmである。</li> <li>・走向・傾斜はN11° W57° Wである。</li> <li>・上端境界の傾斜は36°、下端境界の傾斜は38°である。</li> </ul>

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度117.55~117.56m:シーム、上盤38度、下盤27度、幅5~9mm、灰白色礫混じり砂質シルト状。	記載なし	記載なし



凡例  
 ← :シーム

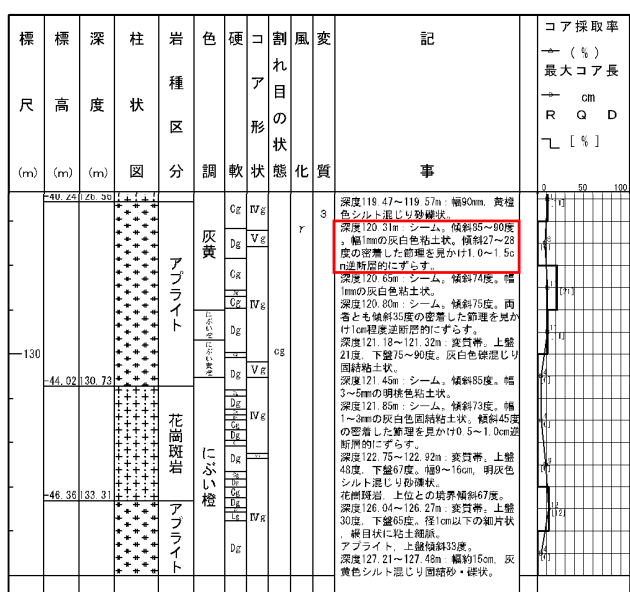
0 5 cm



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度120.31m)

・粘土状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

## 委託報告書 (平成19年)



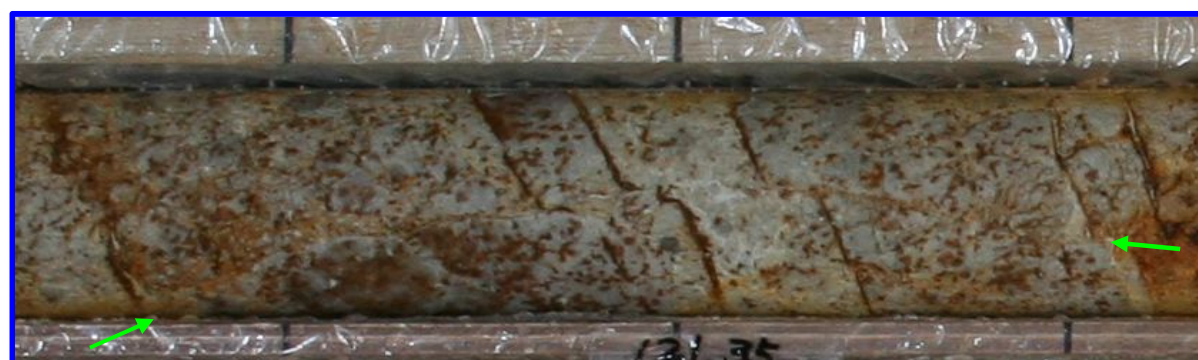
## 審査資料案

記事
121.18~121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。 122.75~122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。 122.98~126.56m ・花崗斑岩である。 126.04~126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し、粘土細脈が網目状に分布する。 126.56~130.73m ・アブライトである。

## 審査資料 (平成29年12月22日)

記事
121.18~121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。 122.75~122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。 122.98~126.56m ・花崗斑岩である。 126.04~126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し、粘土細脈が網目状に分布する。 126.56~130.73m ・アブライトである。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度120.31m: シーム。傾斜85~90度。幅1mmの灰白色粘土状。傾斜27~28度の密着した節理を見かけ1.0~1.5cm逆断層的にずらす。	記載なし	記載なし

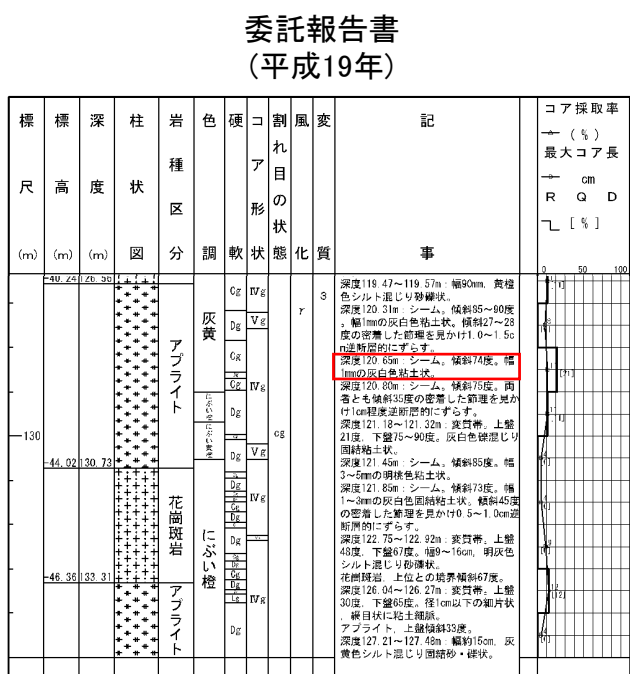


凡例  
← シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度120.65m)

・粘土状を呈するが、その分布は局所的かつ端部を他の割れ目にさえぎられ連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



**審査資料案  
(平成29年12月22日)**

記事
121.18~121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。
122.75~122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。
122.98~126.56m ・花崗斑岩である。
126.04~126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し、粘土細脈が網目状に分布する。
126.56~130.73m ・アプライトである。

**審査資料  
(平成29年12月22日)**

記事
121.18~121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。
122.75~122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。
122.98~126.56m ・花崗斑岩である。
126.04~126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し、粘土細脈が網目状に分布する。
126.56~130.73m ・アプライトである。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度120.65m: シーム。傾斜74度。幅1mmの灰白色粘土状。	記載なし	記載なし



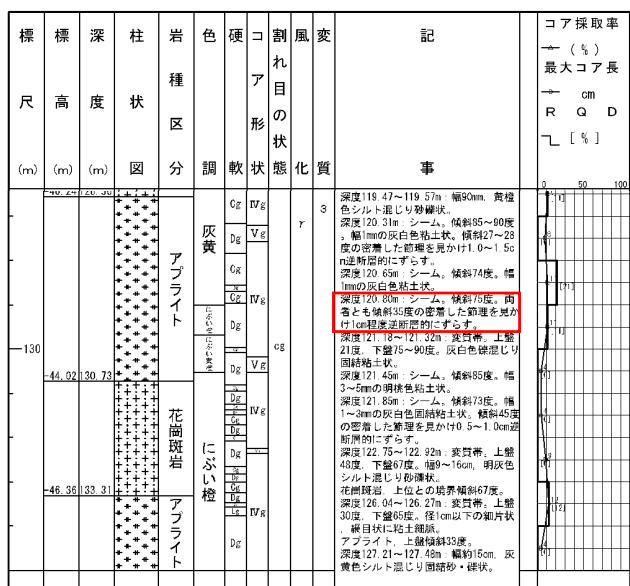
**凡例**  
← : シーム

0 ————— 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度120.80m)

・該当の割れ目は端部を他の割れ目にさえぎられ連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

## 委託報告書 (平成19年)



## 審査資料案

記事
121.18~121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。
122.75~122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。
122.98~126.56m ・花崗斑岩である。
126.04~126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し、粘土細脈が網目状に分布する。
126.56~130.73m ・アブライトである。

## 審査資料 (平成29年12月22日)

記事
121.18~121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。
122.75~122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。
122.98~126.56m ・花崗斑岩である。
126.04~126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し、粘土細脈が網目状に分布する。
126.56~130.73m ・アブライトである。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度120.80m: シーム。傾斜75度。両者とも傾斜35度の密着した節理を見かけ1cm程度逆断層的にずらす。	記載なし	記載なし



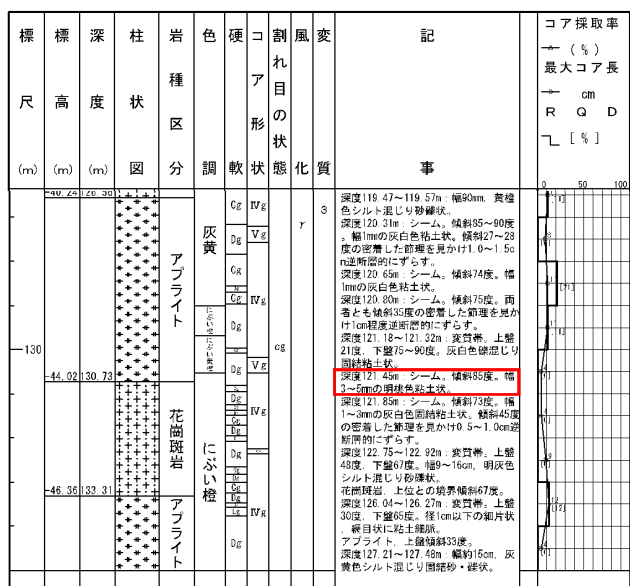
凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度121.45m)

・粘土状を呈するが、その分布は湾曲し直線性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

## 委託報告書 (平成19年)



## 審査資料案

記事
121.18~121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。 122.75~122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。 122.98~126.56m ・花崗斑岩である。 126.04~126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し、粘土細脈が網目状に分布する。 126.56~130.73m ・アブライトである。

## 審査資料 (平成29年12月22日)

記事
121.18~121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。 122.75~122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。 122.98~126.56m ・花崗斑岩である。 126.04~126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し、粘土細脈が網目状に分布する。 126.56~130.73m ・アブライトである。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度121.45m: シーム。傾斜85度。幅3~5mmの明桃色粘土状。	記載なし	記載なし



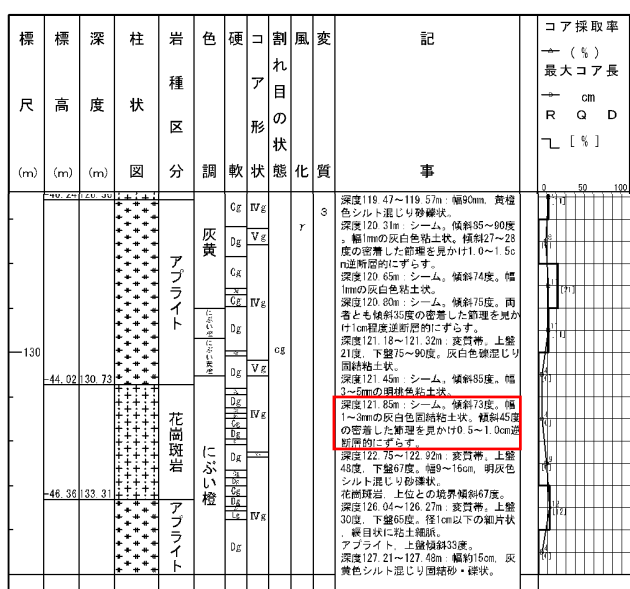
凡例  
← :シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度121.85m)

・粘土状を呈するが、その分布は殫滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

## 委託報告書 (平成19年)



## 審査資料案

記事
121.18~121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。 122.75~122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。 122.98~126.56m ・花崗斑岩である。 126.04~126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し、粘土細脈が網目状に分布する。 126.56~130.73m ・アブライトである。

## 審査資料 (平成29年12月22日)

記事
121.18~121.32m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり固結粘土状を呈する。 122.75~122.92m ・変質している。 ・明灰色のシルト混じり砂礫状を呈する。 122.98~126.56m ・花崗斑岩である。 126.04~126.27m ・変質している。 ・灰黄色の細片状を呈し、粘土細脈が網目状に分布する。 126.56~130.73m ・アブライトである。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度121.85m: シーム。傾斜73度。幅1~3mmの灰白色固結粘土状。傾斜45度の密着した節理を見かけ0.5~1.0cm逆断層的に不ずらす。	記載なし	記載なし



凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度132.25m)

・シルト状を呈するが、その分布は湾曲し直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

**委託報告書  
(平成19年)**

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]
(m)	(m)	(m)	図	区分						事	
				アブライト						深度128.56~129.59m 変質帯、上盤42度 下盤30度、固結砂状。 深度129.25~129.30m 変質帯、上盤38度 下盤32度、固結砂状。 深度129.76~129.78m 変質帯、下盤29度 固結砂状。 花崗斑岩、上位との境界部移移的。 深度132.07~132.19m 変質帯、上盤42度 下盤35度、暗黒灰色固結状。 深度132.25m シーム、傾斜31度、幅1~3mmの灰オリーブ色固結シルト状。 深度132.32~132.62m 変質帯、上盤52度 下盤25度、砂状。 アブライト、上位との境界部移移的。 深度133.21~133.52m 傾斜16度、灰白色シルト混じり固結砂状。 深度133.43m シーム、傾斜40度、幅0~3mm、灰白色シルト質砂状。 深度133.59~133.76m 変質帯、下盤85度 固結砂状。 深度135.00~138.45m 亀裂多く、コアは断片~短柱状をなす。	

**審査資料案  
(平成29年12月22日)**

記事
130.73~133.31m ・花崗斑岩である。 133.31~139.84m ・アブライトである。 133.59~133.76m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

**審査資料  
(平成29年12月22日)**

記事
130.73~133.31m ・花崗斑岩である。 133.31~139.84m ・アブライトである。 133.59~133.76m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度132.25m: シーム。傾斜31度。幅1~3mmの灰オリーブ色固結シルト状。	記載なし	記載なし



**凡例**

← シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度133.43m)

・砂状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

**委託報告書  
(平成19年)**

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	L [%]
140	52.78	39.84		安山岩	明褐色	Dg				深度128.56~129.58m: 変質帯。上層42度。下層30度。固結砂状。 深度129.75~129.30m: 変質帯。上層38度。下層32度。固結砂状。 深度129.76~129.79m: 変質帯。下層29度。固結砂状。 花崗斑岩。上位との境界線不明。 深度132.07~132.18m: 変質帯。上層42度。下層35度。暗灰色砂状。 深度132.26m: シーム。傾斜31度。幅1~3mmの灰白色シルト質砂状。 深度132.52~132.62m: 変質帯。上層52度。下層25度。砂状。 アブライト。上位との境界線不明。 深度133.21~133.52m: 幅約16mm。灰白色シルト質固結砂状。 深度133.43m: シーム。傾斜40度。幅0~3mm。灰白色シルト質砂状。 深度133.59~133.76m: 変質帯。下層85度。固結砂状。 深度135.00~138.45m: 亀裂多く。コアは断片~短柱状をなす。	0	50	100			

**審査資料案  
(平成29年12月22日)**

記事
130.73~133.31m ・花崗斑岩である。 133.31~139.84m ・アブライトである。 133.59~133.76m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

**審査資料  
(平成29年12月22日)**

記事
130.73~133.31m ・花崗斑岩である。 133.31~139.84m ・アブライトである。 133.59~133.76m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度133.43m: シーム。傾斜40度。幅0~3mm。灰白色シルト質砂状。	記載なし	記載なし



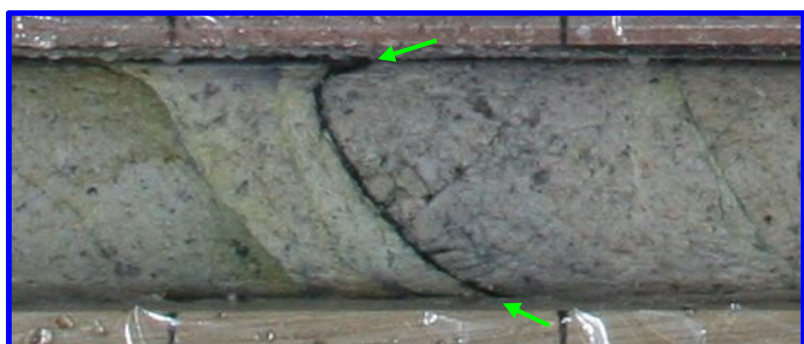
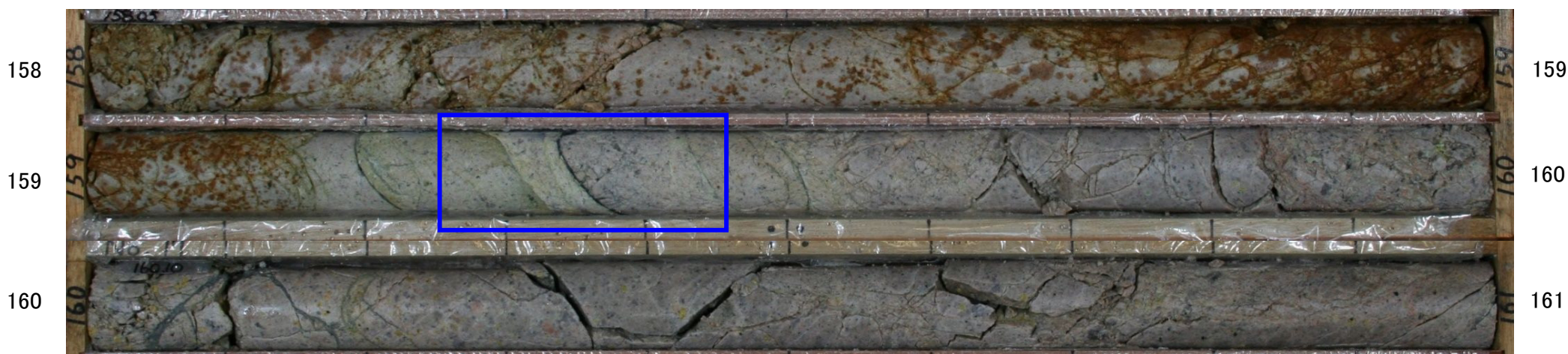
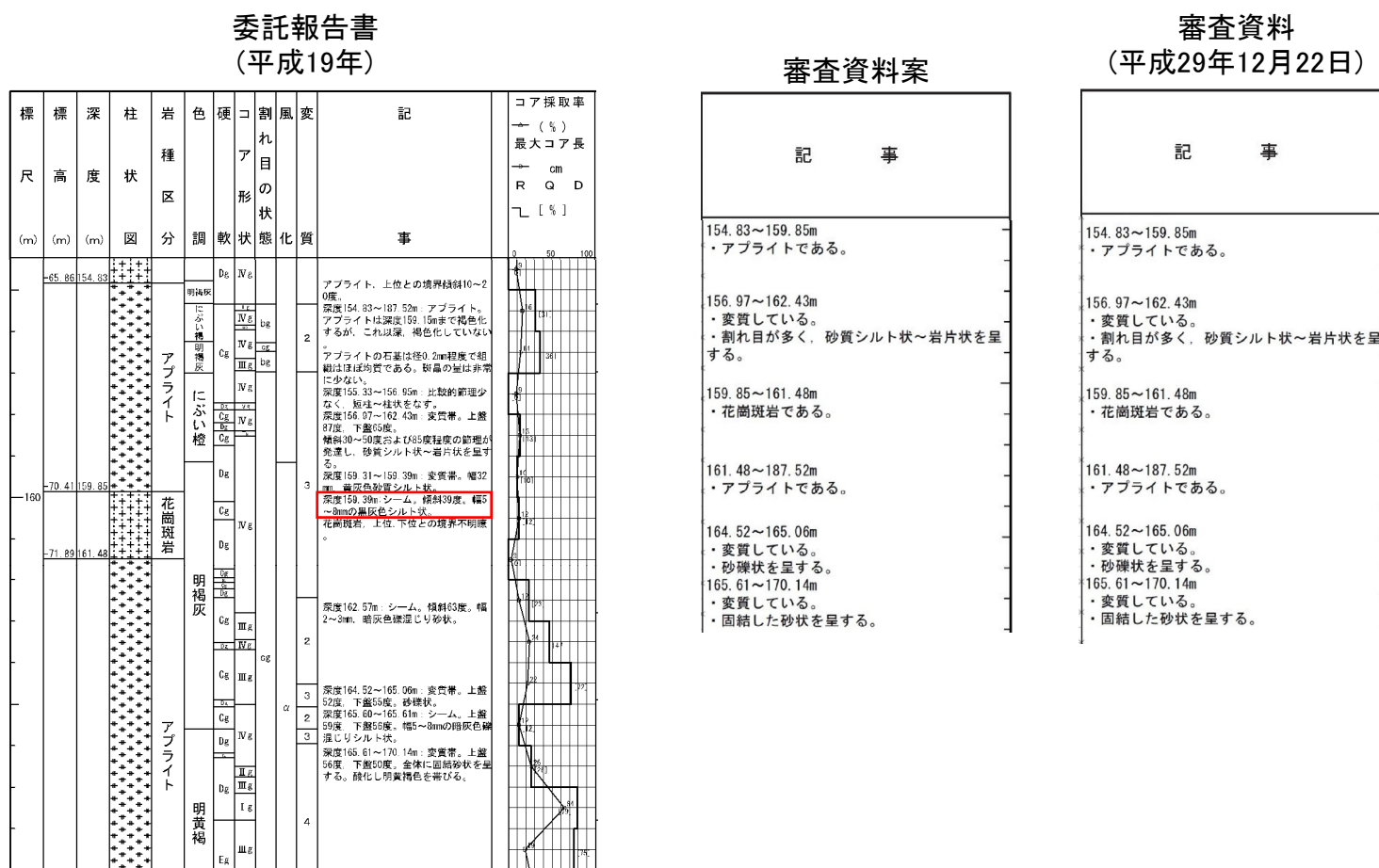
**凡例**

← : シーム

0 ————— 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度159.39m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



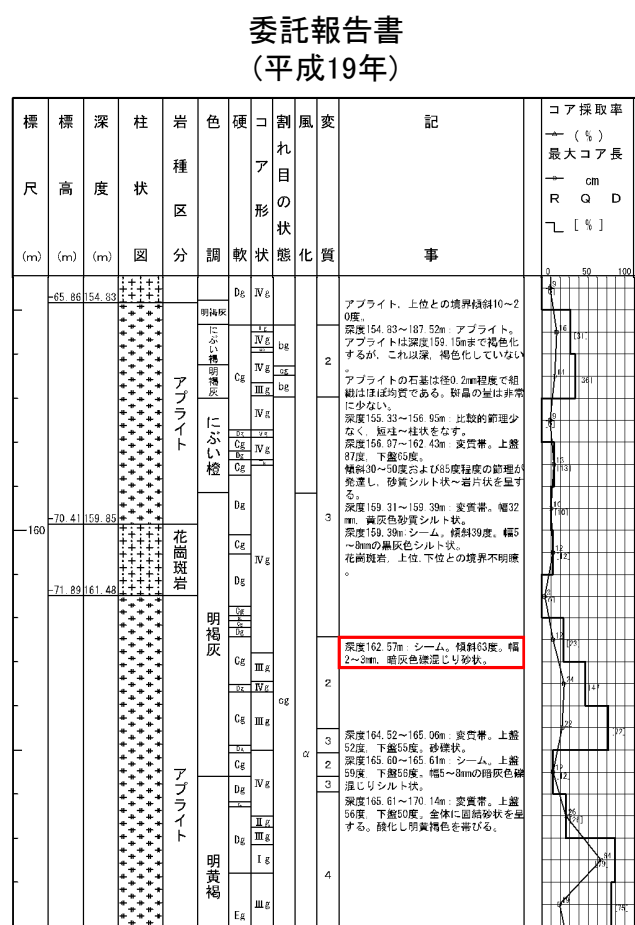
凡例  
← : シーム

0 5 cm



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度162.57m)

・礫混じり砂状を呈するが、礫に定向配列は認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



## 審査資料案

記事
154.83~159.85m ・アブライトである。
156.97~162.43m ・変質している。 ・割れ目が多く、砂質シルト状~岩片状を呈する。
159.85~161.48m ・花崗斑岩である。
161.48~187.52m ・アブライトである。
164.52~165.06m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。
165.61~170.14m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

## 審査資料 (平成29年12月22日)

記事
154.83~159.85m ・アブライトである。
156.97~162.43m ・変質している。 ・割れ目が多く、砂質シルト状~岩片状を呈する。
159.85~161.48m ・花崗斑岩である。
161.48~187.52m ・アブライトである。
164.52~165.06m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。
165.61~170.14m ・変質している。 ・固結した砂状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度162.57m: シーム。傾斜63度。幅2~3mm、暗灰色礫混じり砂状。	記載なし	記載なし

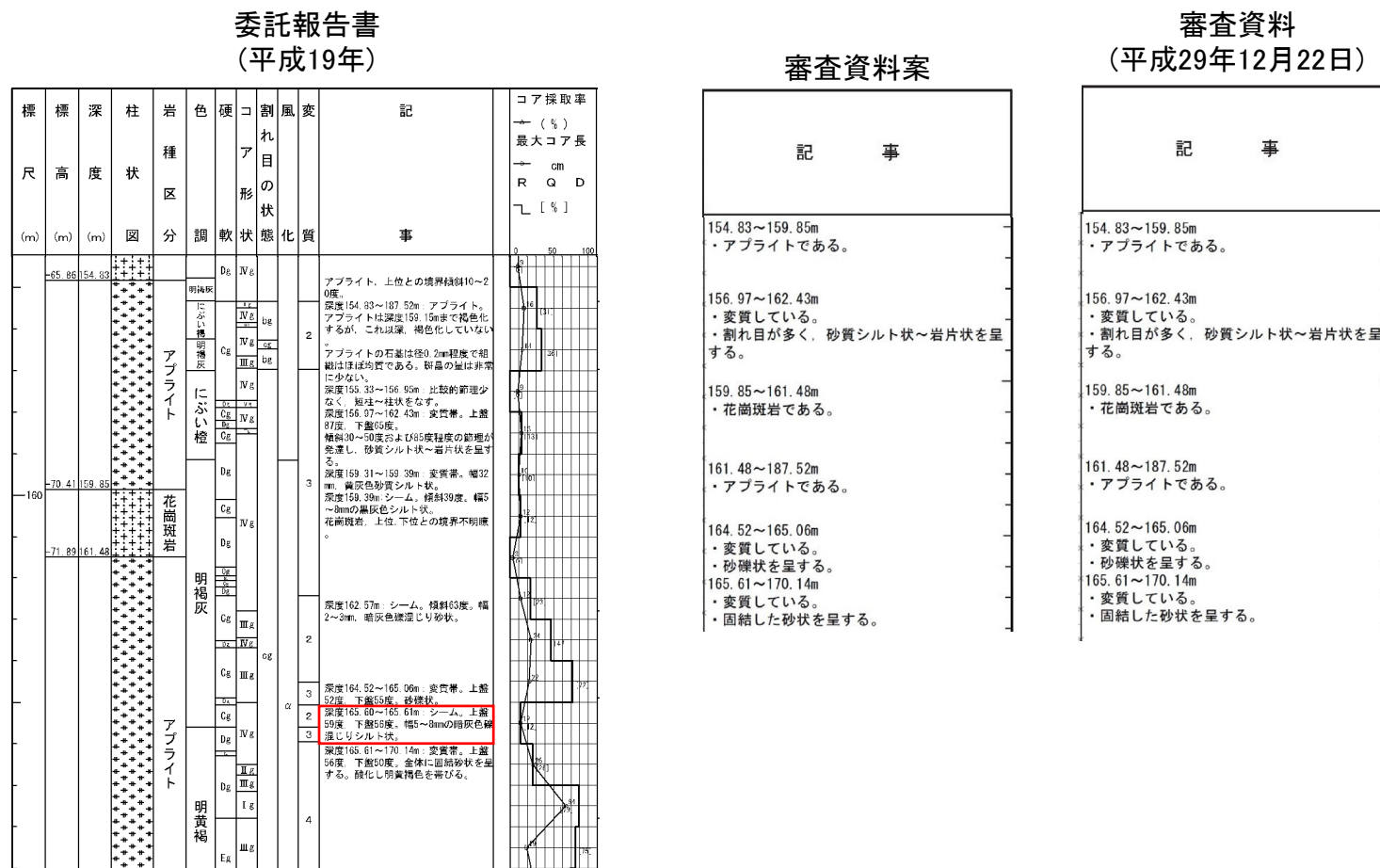


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度165.60~165.61m)

・シルト状を呈するが、上下端境界は凹凸が見られ直線性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度165.60~165.61m: シーム。上盤59度、下盤56度。幅5~8mmの暗灰色礫混じりシルト状。	記載なし	記載なし

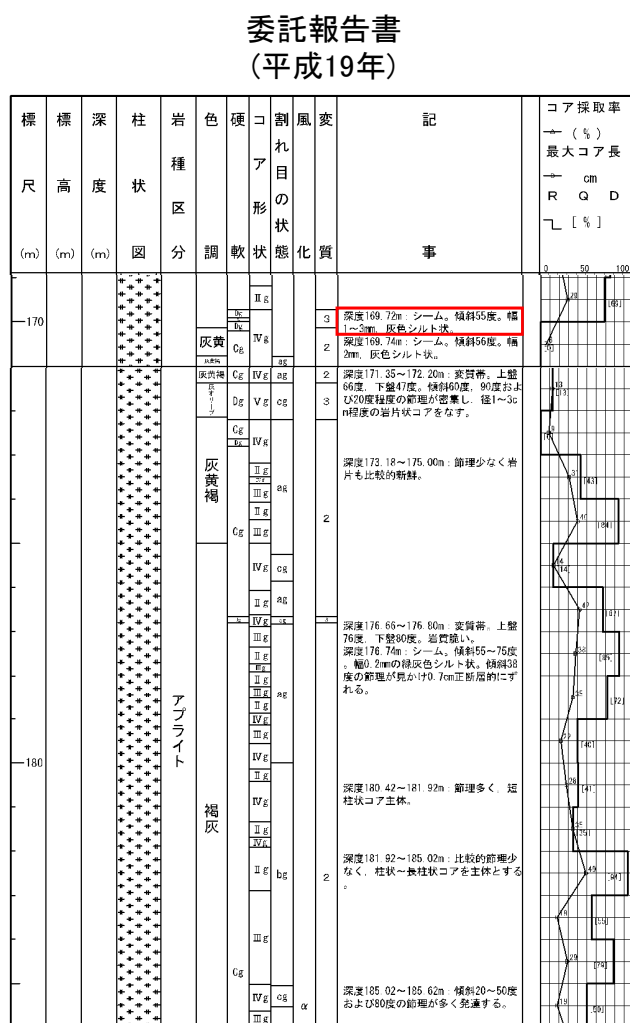


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度169.72m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
<p>記事</p> <p>171.35~172.20m ・変質している。 ・割れ目が密集し、岩片状を呈する。</p> <p>176.66~176.80m ・変質している。 ・岩質は脆い。</p> <p>181.92~185.02m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。</p>	<p>記事</p> <p>171.35~172.20m ・変質している。 ・割れ目が密集し、岩片状を呈する。</p> <p>176.66~176.80m ・変質している。 ・岩質は脆い。</p> <p>181.92~185.02m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。</p>

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度169.72m: シーム。傾斜55度。幅1~3mm, 灰色シルト状。	記載なし	記載なし

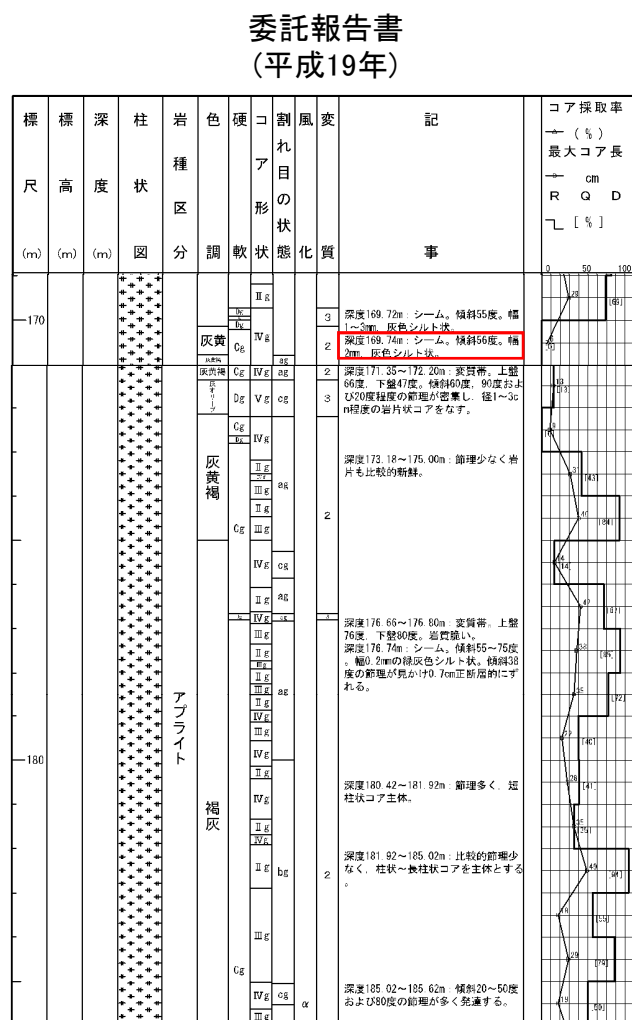


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度169.74m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



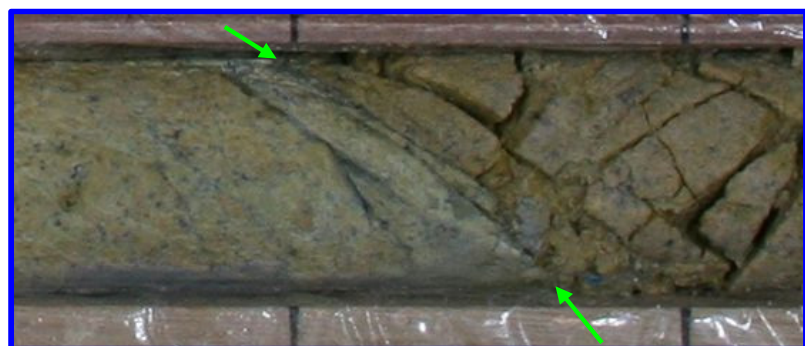
**審査資料案**

記事
171.35~172.20m ・変質している。 ・割れ目が密集し、岩片状を呈する。
176.66~176.80m ・変質している。 ・岩質は脆い。
181.92~185.02m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。

**審査資料 (平成29年12月22日)**

記事
171.35~172.20m ・変質している。 ・割れ目が密集し、岩片状を呈する。
176.66~176.80m ・変質している。 ・岩質は脆い。
181.92~185.02m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度169.74m: シーム。傾斜56度。幅2mm。灰色シルト状。	記載なし	記載なし

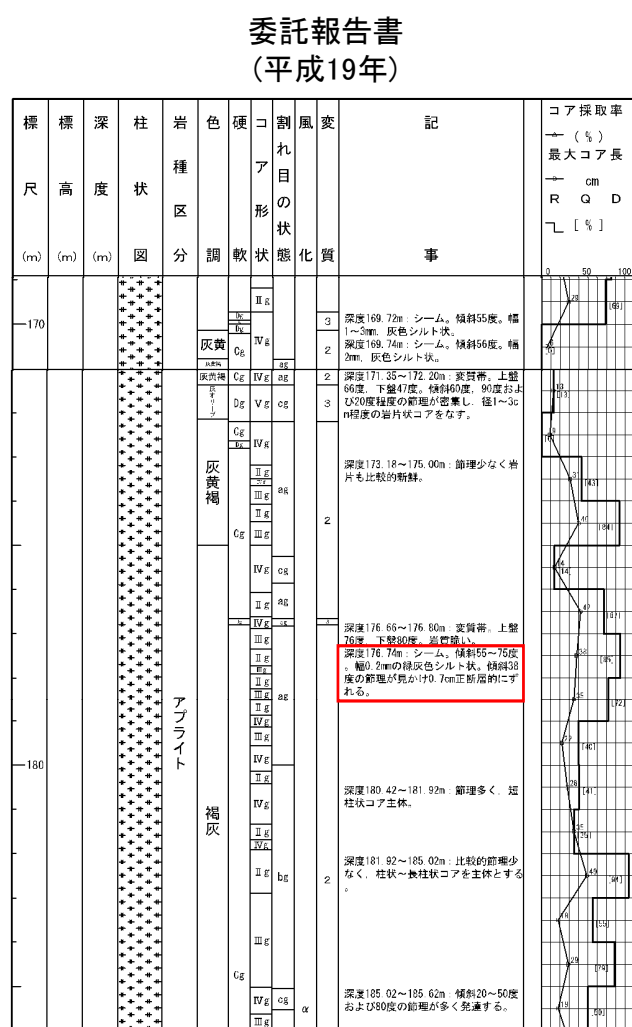


**凡例**  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.17孔 深度176.74m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記 事
171.35~172.20m ・変質している。 ・割れ目が密集し、岩片状を呈する。
176.66~176.80m ・変質している。 ・岩質は脆い。
181.92~185.02m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。

審査資料 (平成29年12月22日)

記 事
171.35~172.20m ・変質している。 ・割れ目が密集し、岩片状を呈する。
176.66~176.80m ・変質している。 ・岩質は脆い。
181.92~185.02m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成29年12月22日)
深度176.74m: シーム。傾斜55~75度。幅0.2mmの緑灰色シルト状。傾斜38度の節理が見かけ0.7cm正断層的にずれる。	記載なし	記載なし

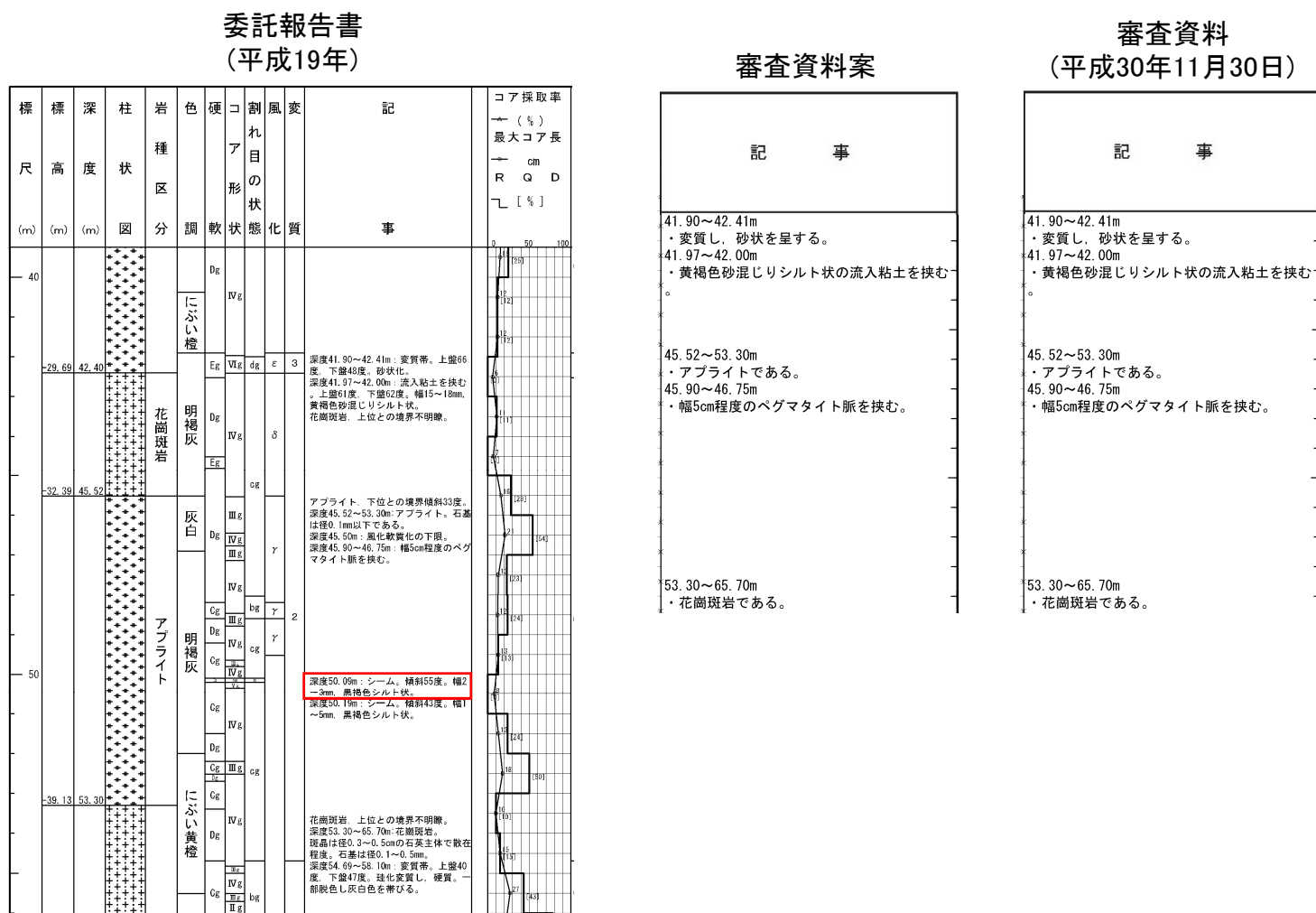


凡 例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.18孔 深度50.09m)

一部で礫混じりシルト状を呈するが、礫に定向配列は認められず、その分布は湾曲し直線性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度50.09m: シーム。傾斜55度。幅2~3mm。黒褐色シルト状。	記載なし	記載なし

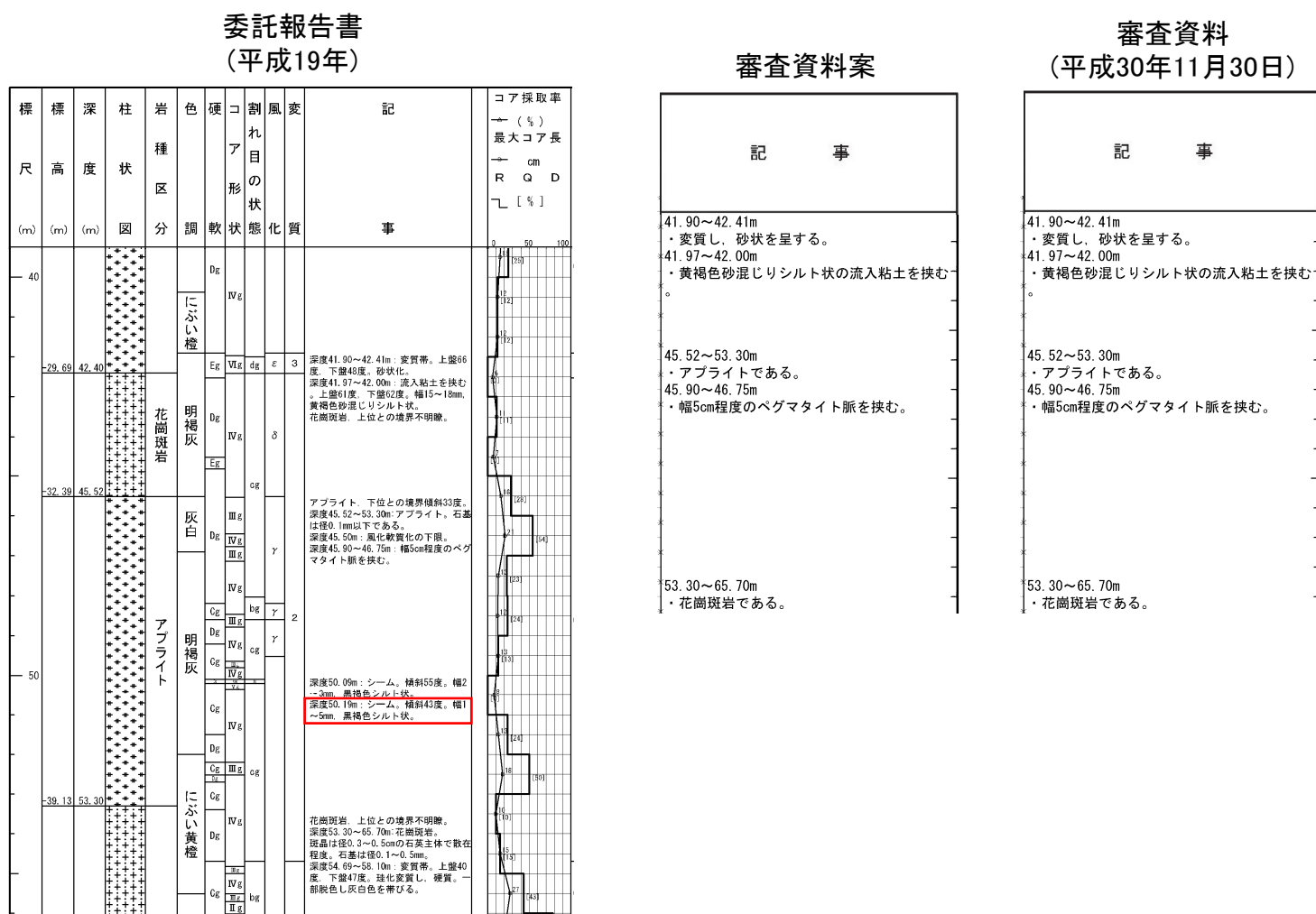


凡例  
← : シーム

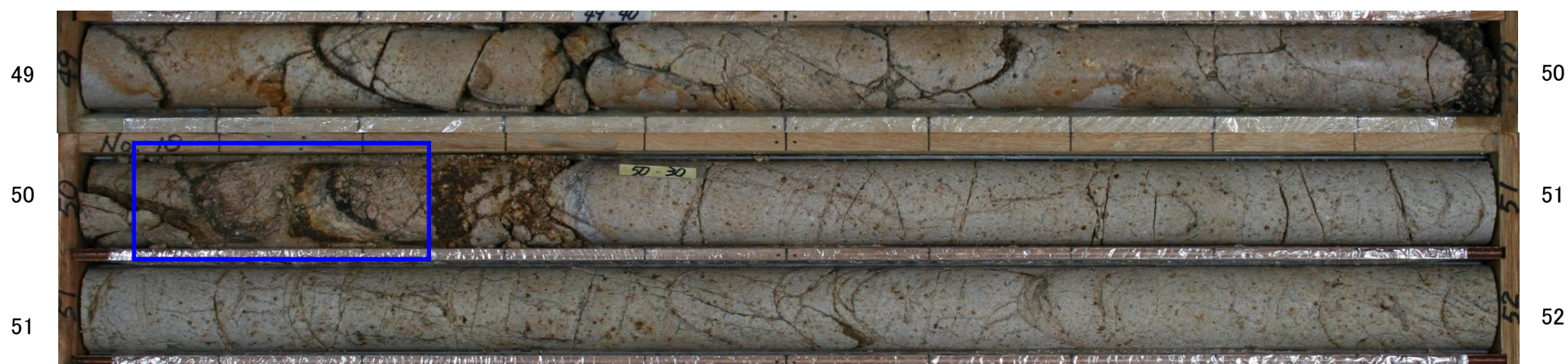
0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.18孔 深度50.19m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度50.19m: シーム、傾斜43度、幅1~5mm、黒褐色シルト状。	記載なし	記載なし

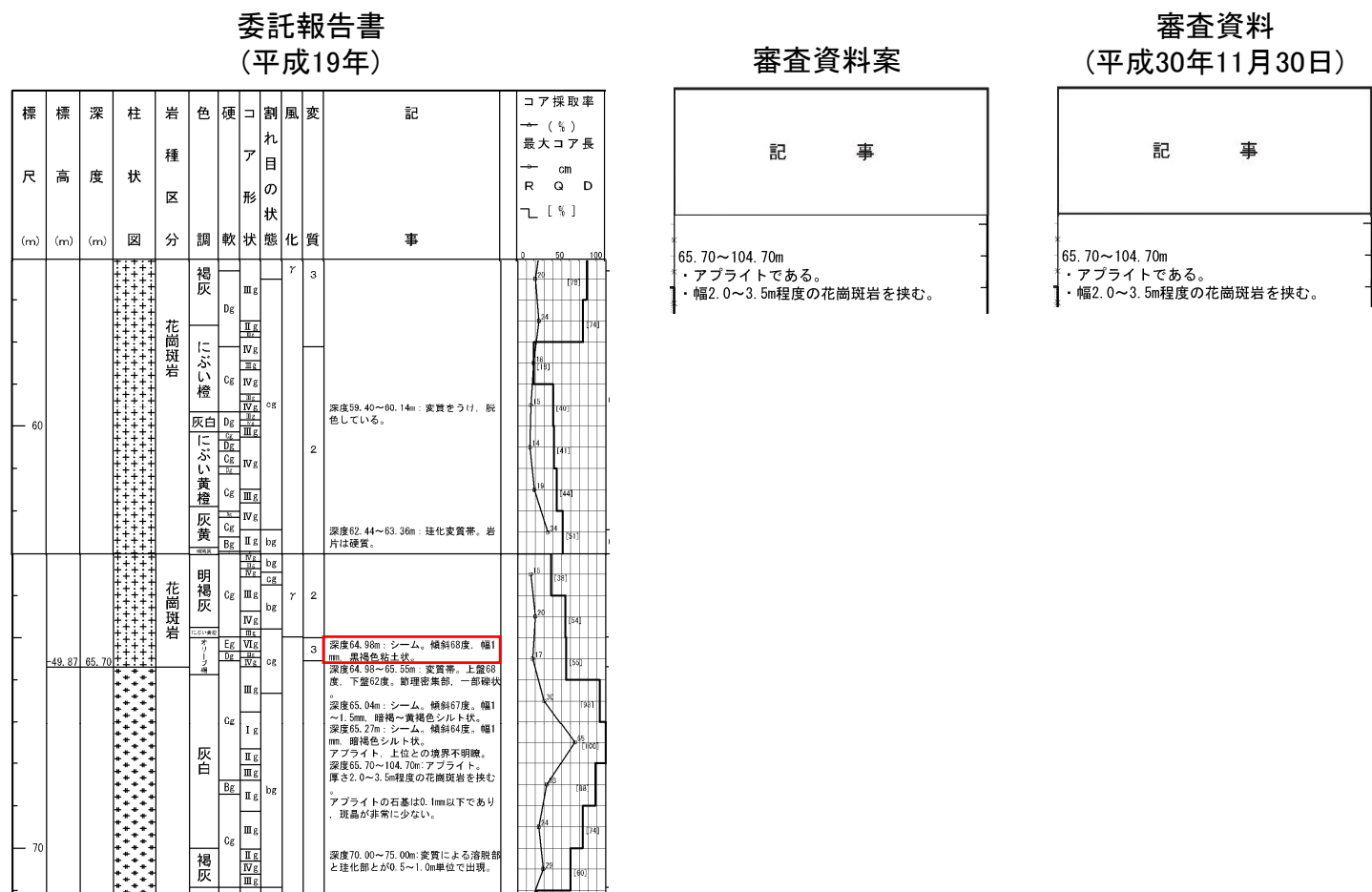


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.18孔 深度64.98m)

・周囲の岩盤は割れ目が多く、一部で礫状を呈するが、礫の定向配列は認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度64.98m: シーム。傾斜68度, 幅1mm, 黒褐色粘土状。	記載なし	記載なし



凡例  
← : シーム

0 ————— 5 cm



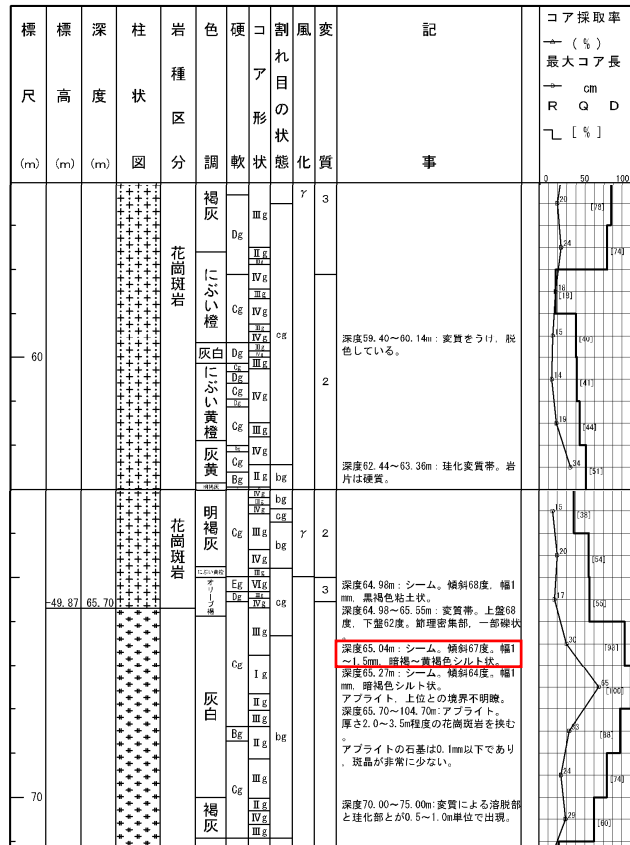
# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.18孔 深度65.04m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

## 委託報告書 (平成19年)

## 審査資料案

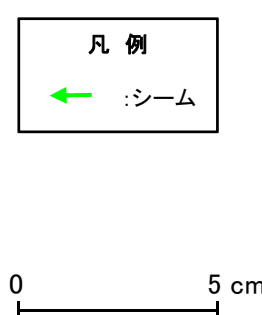
## 審査資料 (平成30年11月30日)



記事
65.70~104.70m ・アプライトである。 ・幅2.0~3.5m程度の花崗斑岩を挟む。

記事
65.70~104.70m ・アプライトである。 ・幅2.0~3.5m程度の花崗斑岩を挟む。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度65.04m: シーム。傾斜67度。幅1~1.5mm, 暗褐~黄褐色シルト状。	記載なし	記載なし



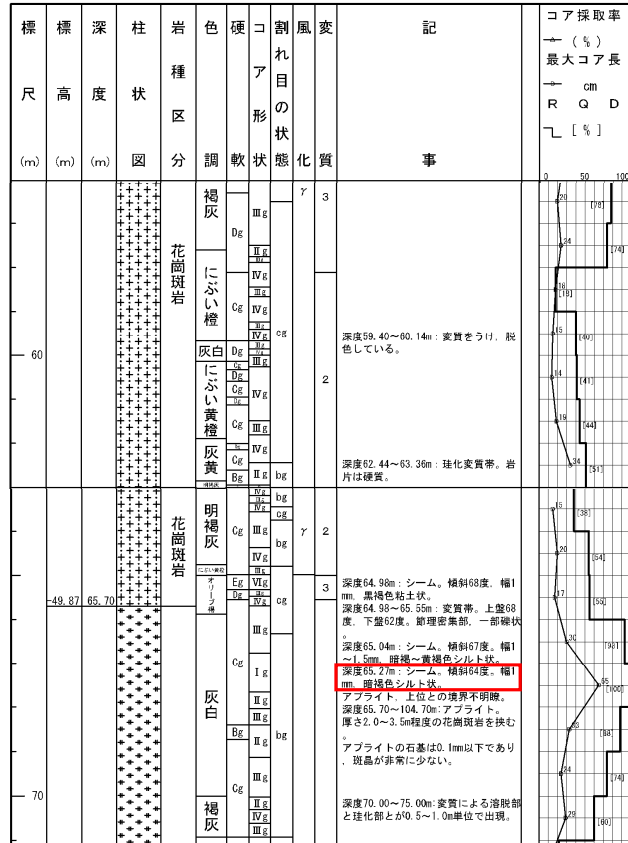
# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.18孔 深度65.27m)

・シルト状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

## 委託報告書 (平成19年)

## 審査資料案

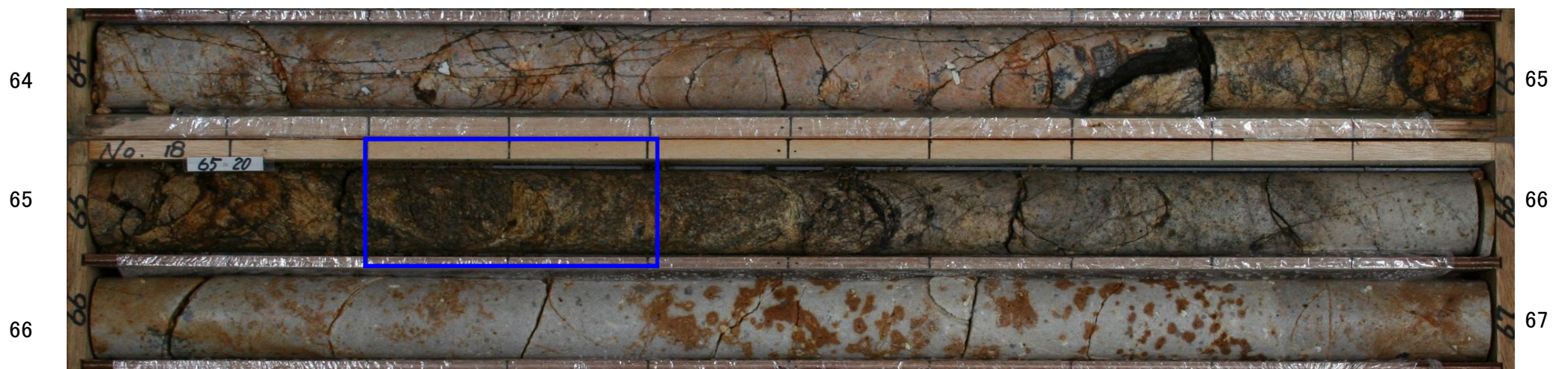
## 審査資料 (平成30年11月30日)



記事
65.70~104.70m ・アプライトである。 ・幅2.0~3.5m程度の花崗斑岩を挟む。

記事
65.70~104.70m ・アプライトである。 ・幅2.0~3.5m程度の花崗斑岩を挟む。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度65.27m: シーム。傾斜64度。幅1mm、暗褐色シルト状。	記載なし	記載なし

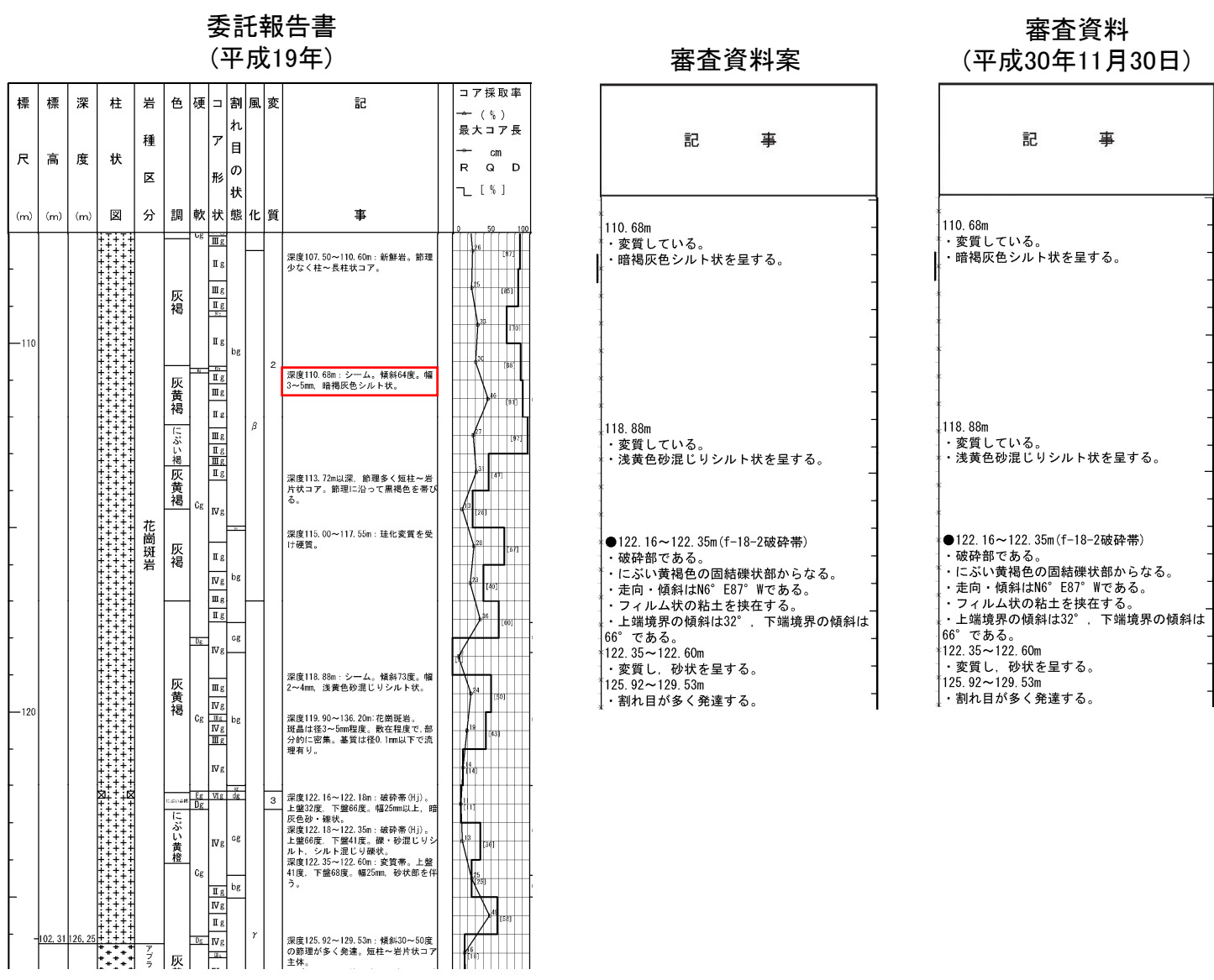


凡例  
← : シーム

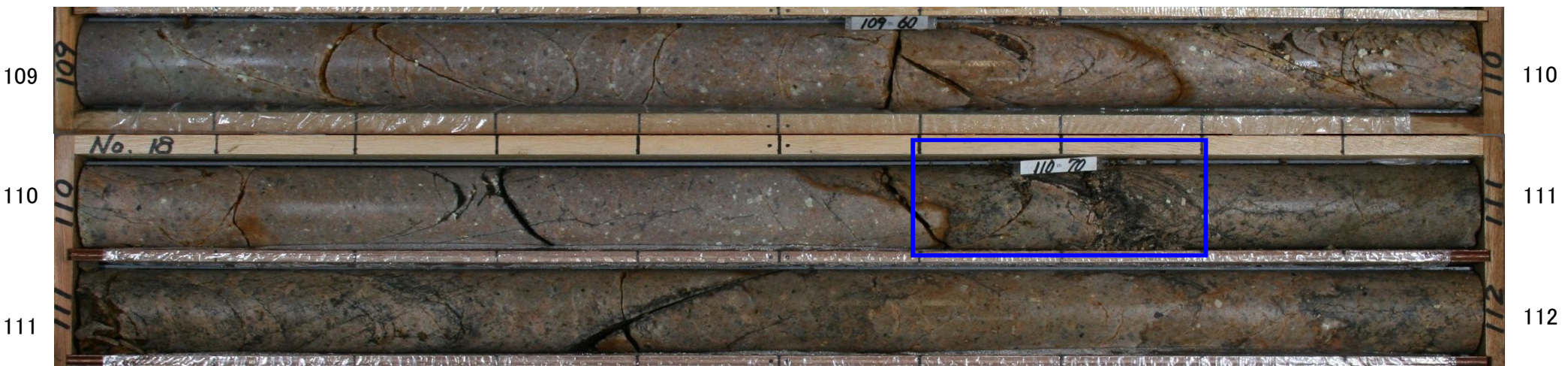
0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.18孔 深度110.68m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。下盤側の岩盤は機械割れにより乱れている。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度110.68m: シーム。傾斜64度。幅3~5mm。暗褐色シルト状。	110.68m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。	110.68m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。

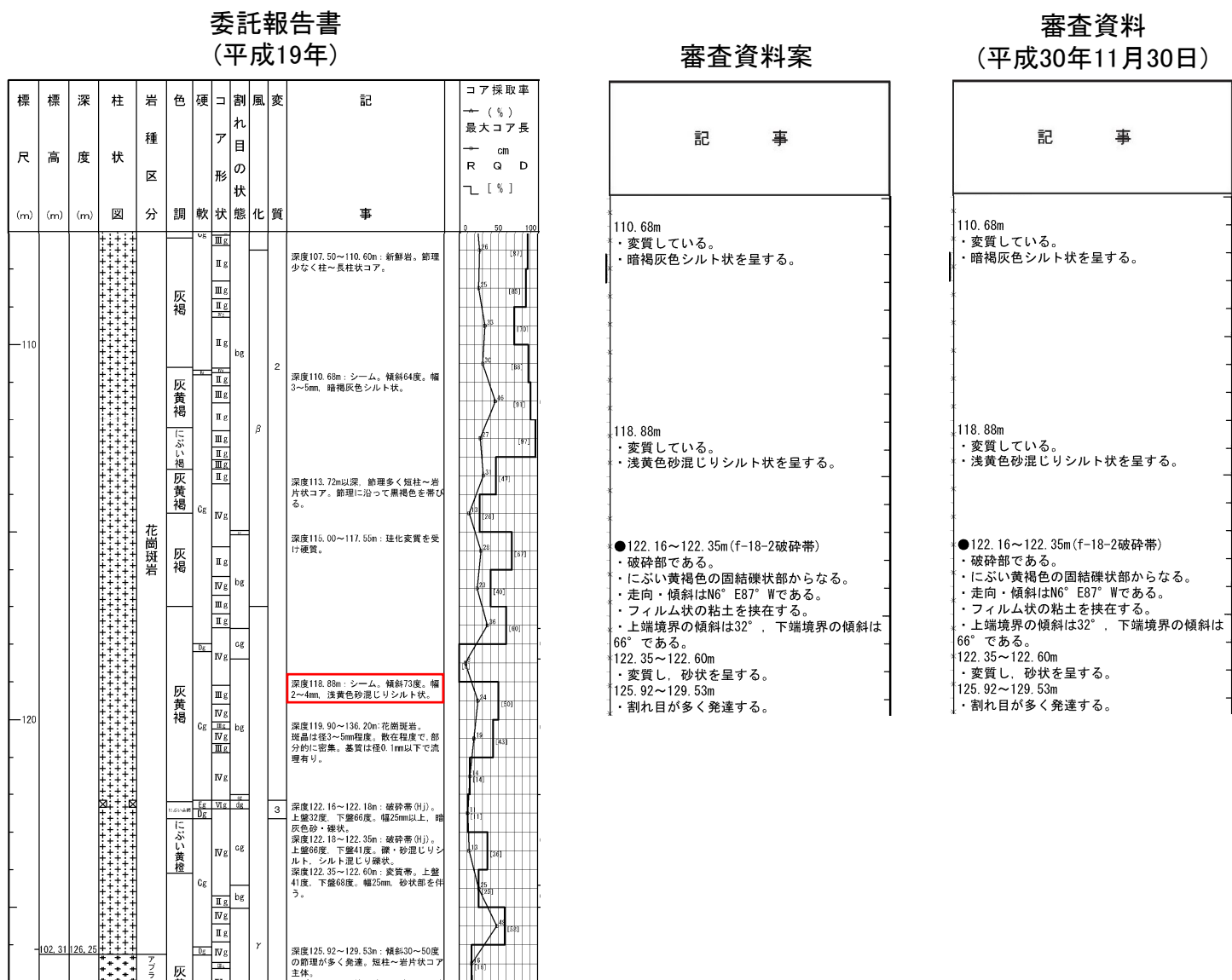


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.18孔 深度118.88m)

・周囲の岩盤は割れ目が多く、一部で礫状を呈するが、礫の定向配列は認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度118.88m: シーム。傾斜73度。幅2~4mm。浅黄色砂混じりシルト状。	118.88m ・変質している。 ・浅黄色砂混じりシルト状を呈する。	118.88m ・変質している。 ・浅黄色砂混じりシルト状を呈する。



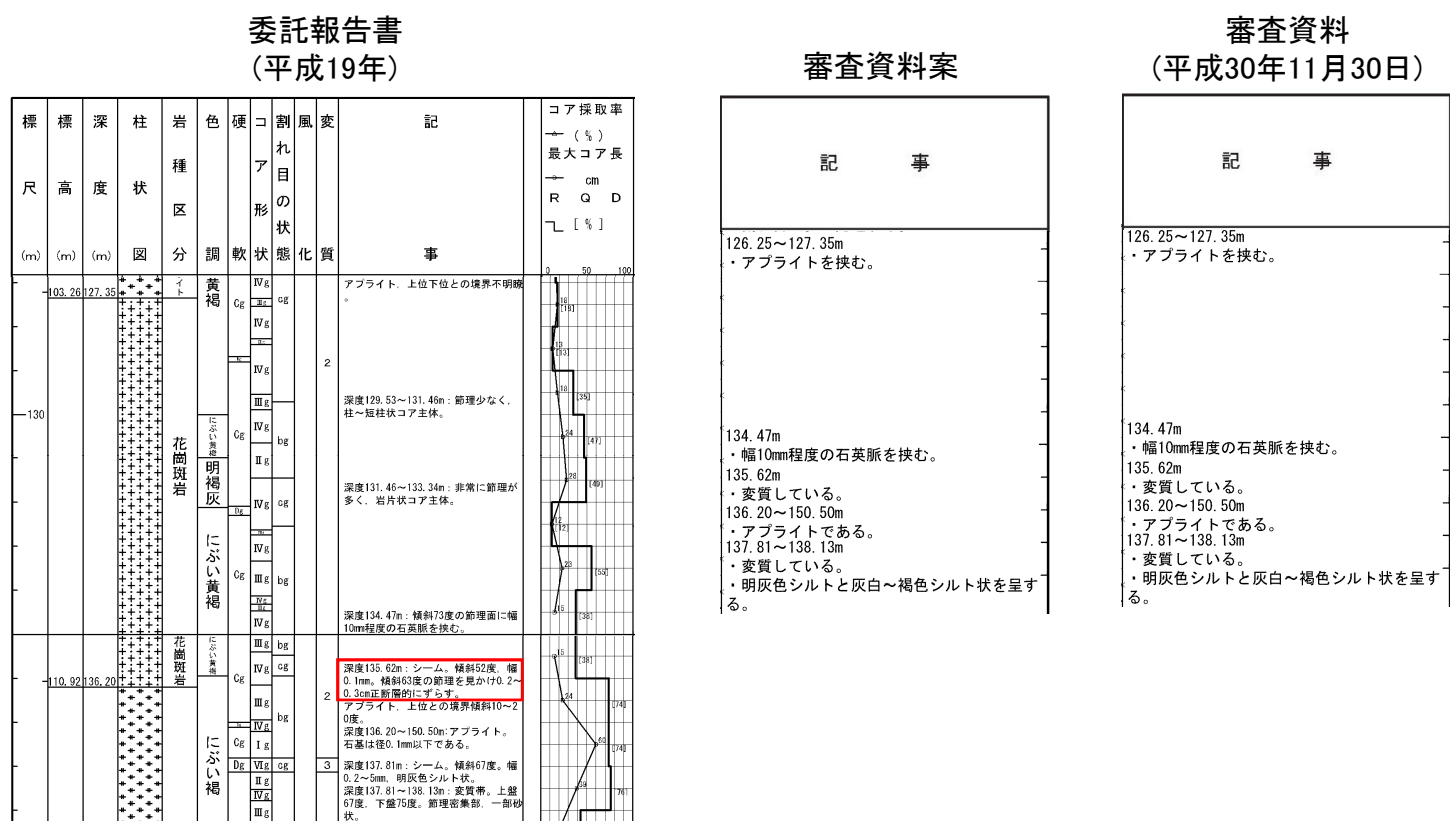
**凡 例**

← : シーム

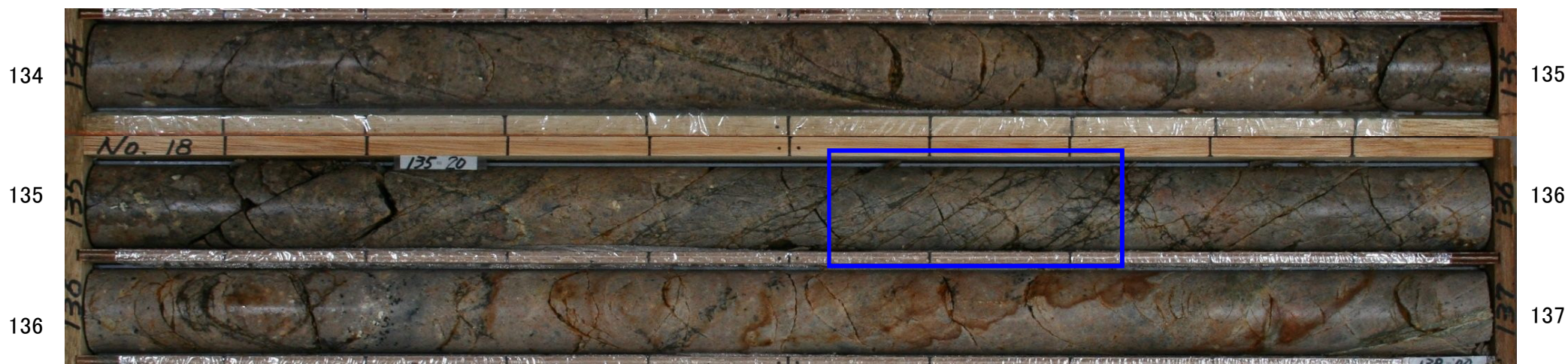
0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.18孔 深度135.62m)

・該当の挟在物の分布は局所的であり連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度135.62m: シーム。傾斜52度。幅0.1mm。傾斜63度の節理を見かけ0.2~0.3cm正断層的にずらす。	135.62m ・変質している。	135.62m ・変質している。

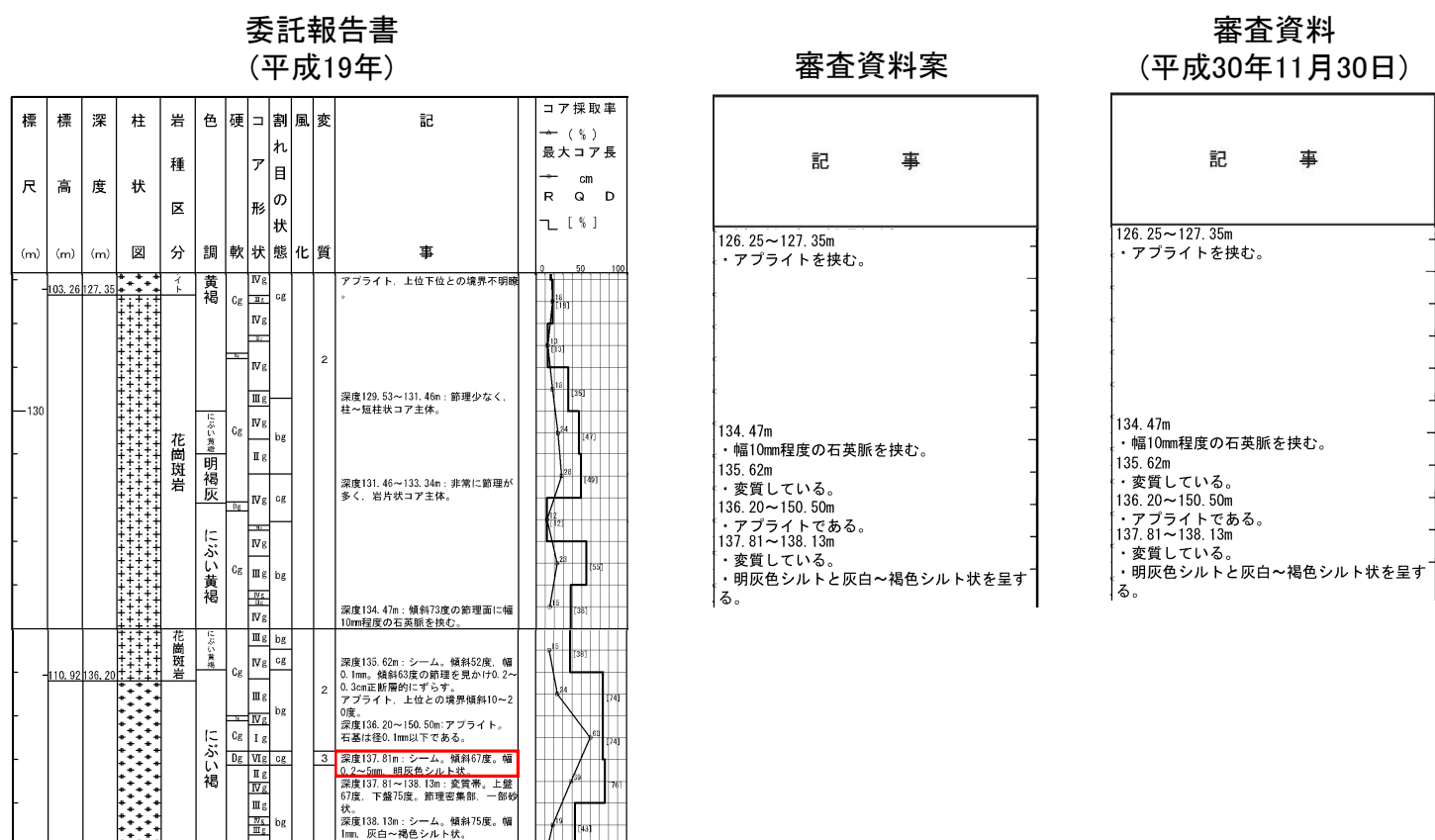


凡例  
← : シーム

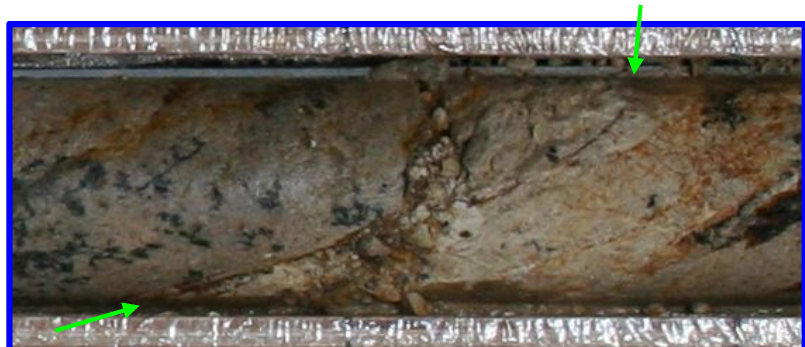
0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.18孔 深度137.81m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。  
 一部の岩盤は機械割れにより乱れている。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度137.81m: シーム、傾斜67度、幅0.2~5mm。明灰色シルト状。 深度137.81~138.13m: 変質帯。上盤67度、下盤75度。節理密集部、一部砂状。 深度138.13m: シーム、傾斜75度、幅1mm。灰白~褐色シルト状。	137.81~138.13m ・変質している。 ・明灰色シルトと灰白~褐色シルト状を呈する。	137.81~138.13m ・変質している。 ・明灰色シルトと灰白~褐色シルト状を呈する。

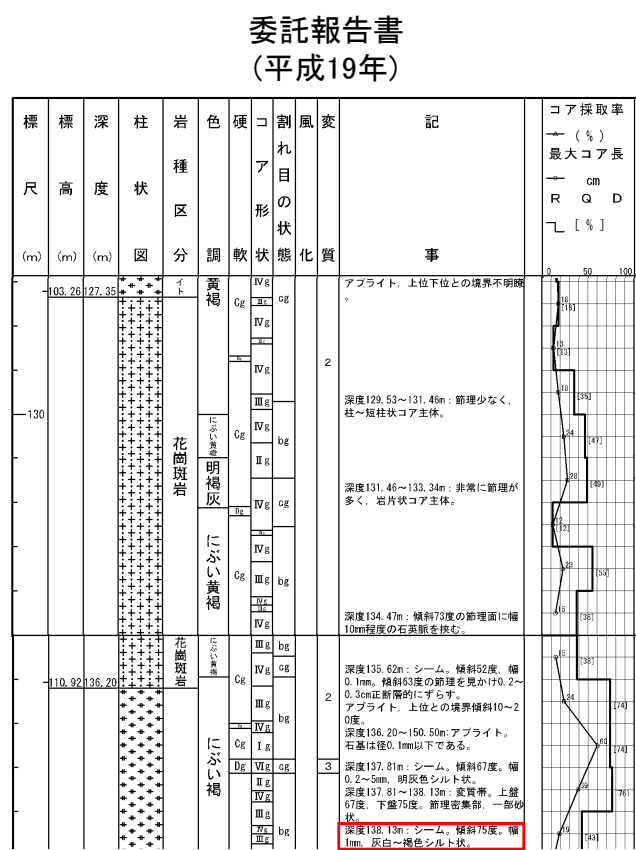


凡例  
 ← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.18孔 深度138.13m)

・シルト状を呈するが、その分布は湾曲・殲滅し直線性・連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



**審査資料案**

記事
126.25~127.35m ・アフライトを挟む。
134.47m ・幅10mm程度の石英脈を挟む。
135.62m ・変質している。
136.20~150.50m ・アフライトである。
137.81~138.13m ・変質している。
・明灰色シルトと灰白~褐色シルト状を呈する。

**審査資料  
(平成30年11月30日)**

記事
126.25~127.35m ・アフライトを挟む。
134.47m ・幅10mm程度の石英脈を挟む。
135.62m ・変質している。
136.20~150.50m ・アフライトである。
137.81~138.13m ・変質している。
・明灰色シルトと灰白~褐色シルト状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度137.81m: シーム。傾斜67度。幅0.2~5mm。明灰色シルト状。 深度137.81~138.13m: 変質帯。上盤67度。下盤75度。節理密集部。一部砂状。 深度138.13m: シーム。傾斜75度。幅1mm。灰白~褐色シルト状。	137.81~138.13m ・変質している。 ・明灰色シルトと灰白~褐色シルト状を呈する。	137.81~138.13m ・変質している。 ・明灰色シルトと灰白~褐色シルト状を呈する。



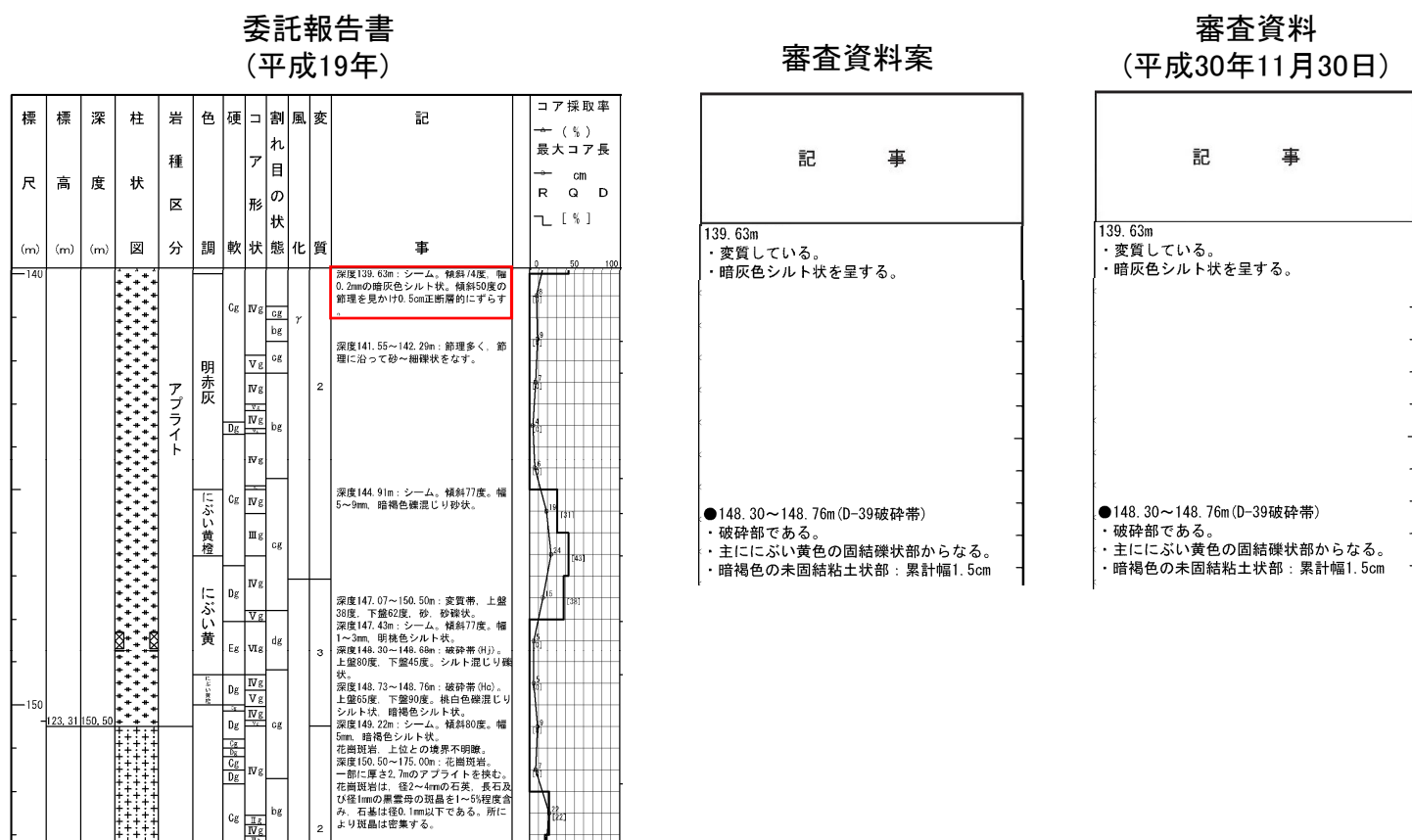
**凡例**

← シーム

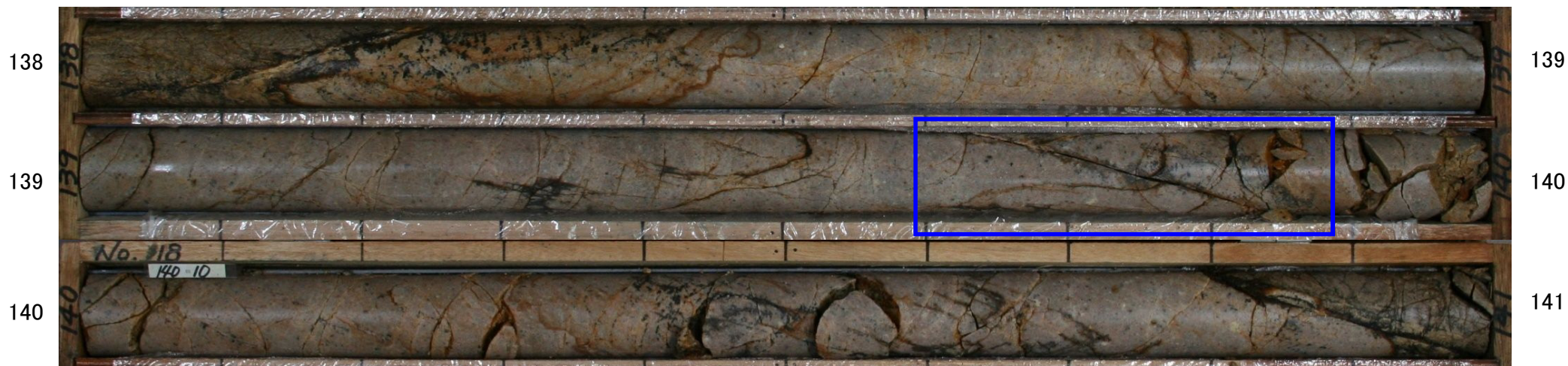
0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.18孔 深度139.63m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度139.63m: シーム。傾斜74度。幅0.2mmの暗灰色シルト状。傾斜50度の節理を見かけ0.5cm正断層的にずらす。	139.63m ・変質している。 ・暗灰色シルト状を呈する。	139.63m ・変質している。 ・暗灰色シルト状を呈する。



凡例  
← : シーム

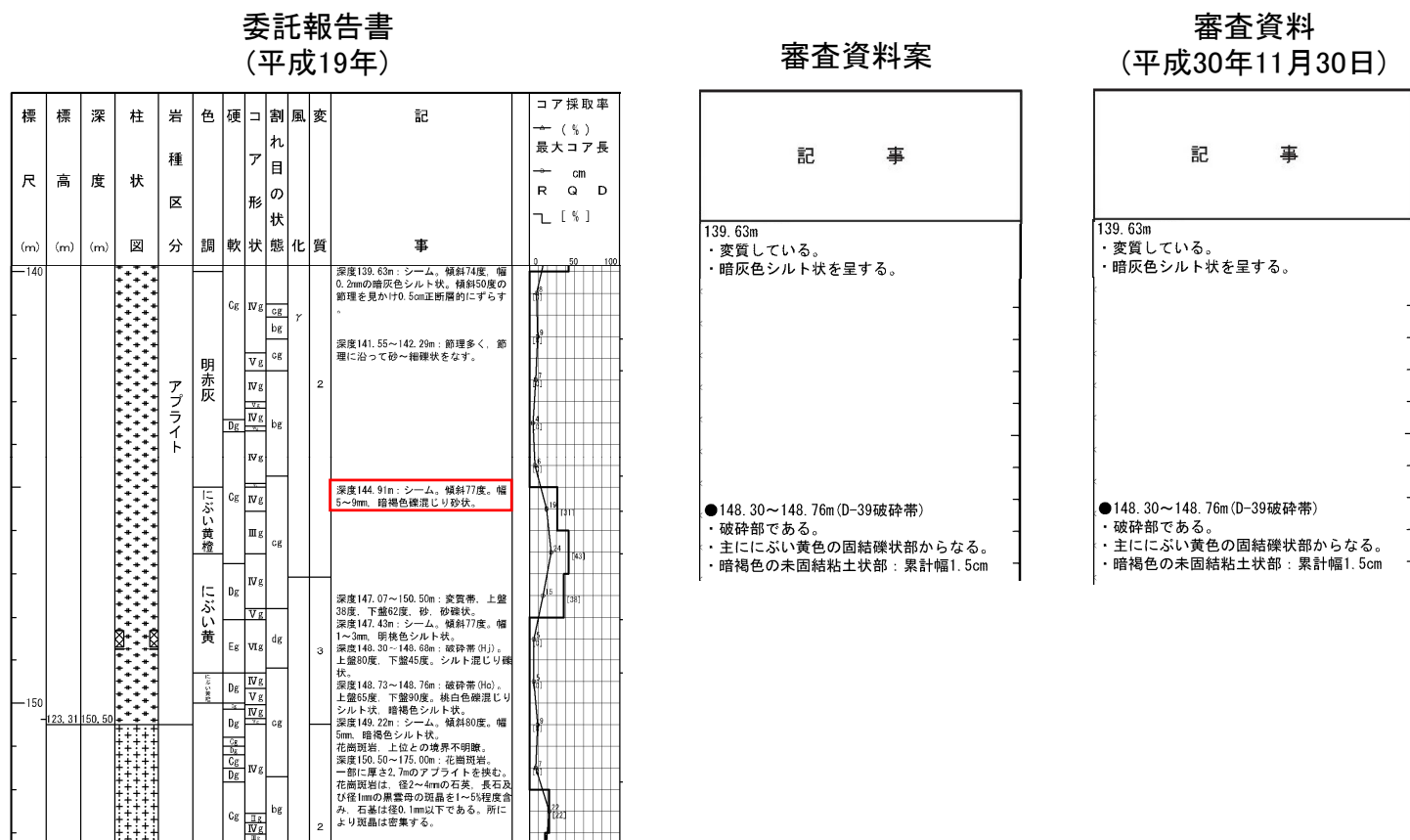
0 5 cm

※ 今回の審査資料作成の過程で、委託報告書のシームの深度が誤記であることを確認した。  
次回の審査資料で修正版を提示する。  
(誤)139.63m ⇒ (正)139.73m



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.18孔 深度144.91m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

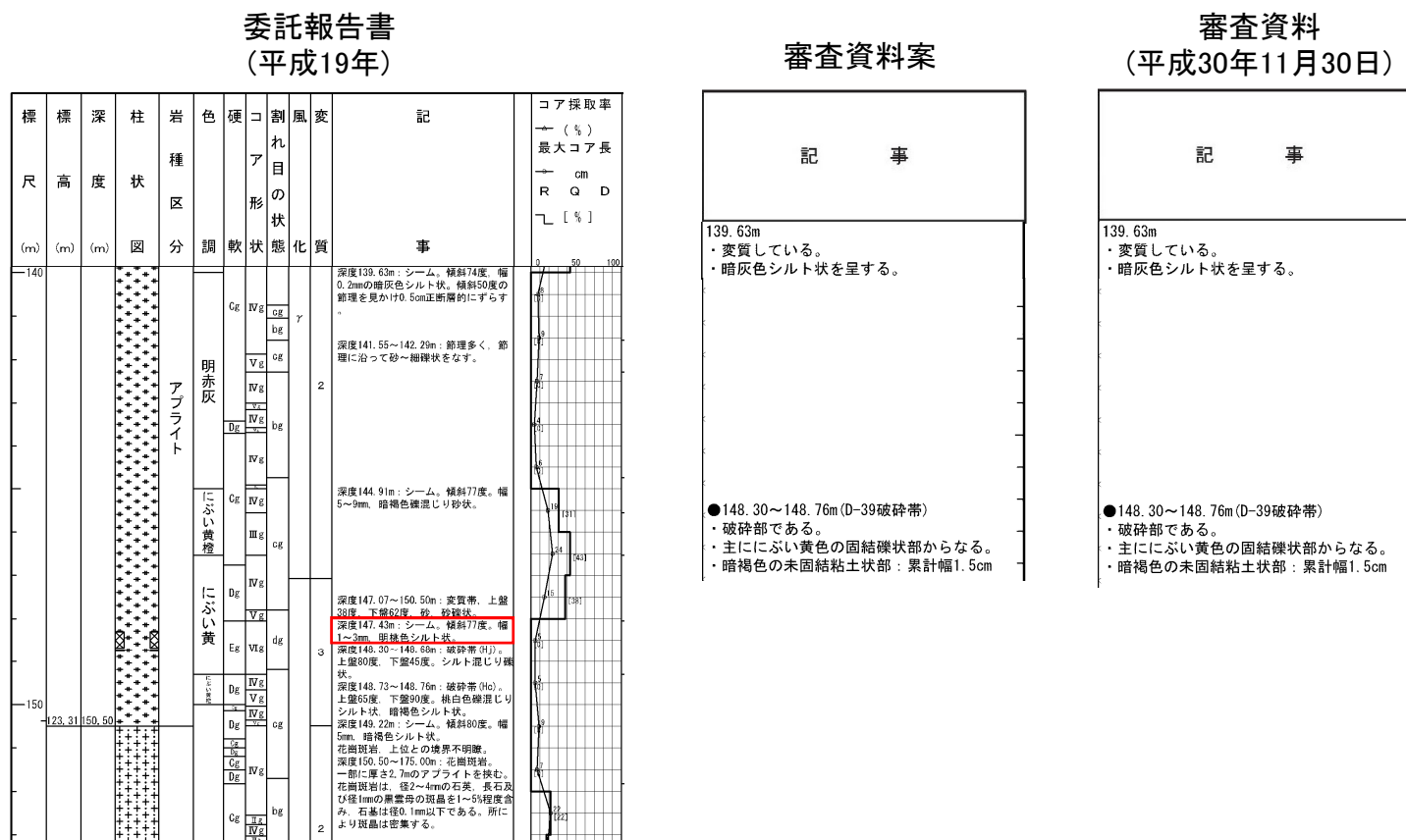


委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
<p>深度144.91m: シーム。傾斜77度。幅5~9mm, 暗褐色礫混じり砂状。</p>	<p>記載なし</p>	<p>記載なし</p>

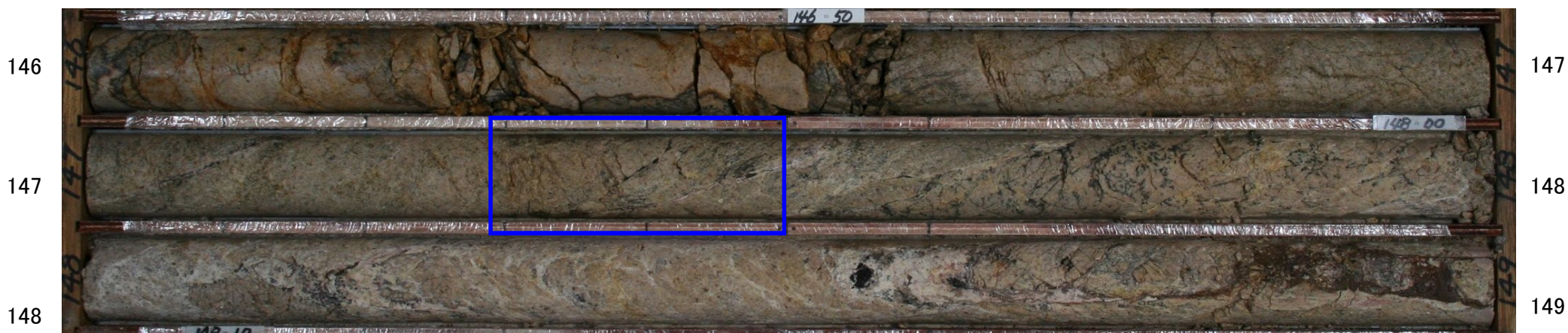


# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.18孔 深度147.43m)

・シルト状を呈するが、その分布は膨縮し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度147.43m: シーム。傾斜77度。幅1~3mm, 明桃色シルト状。	記載なし	記載なし

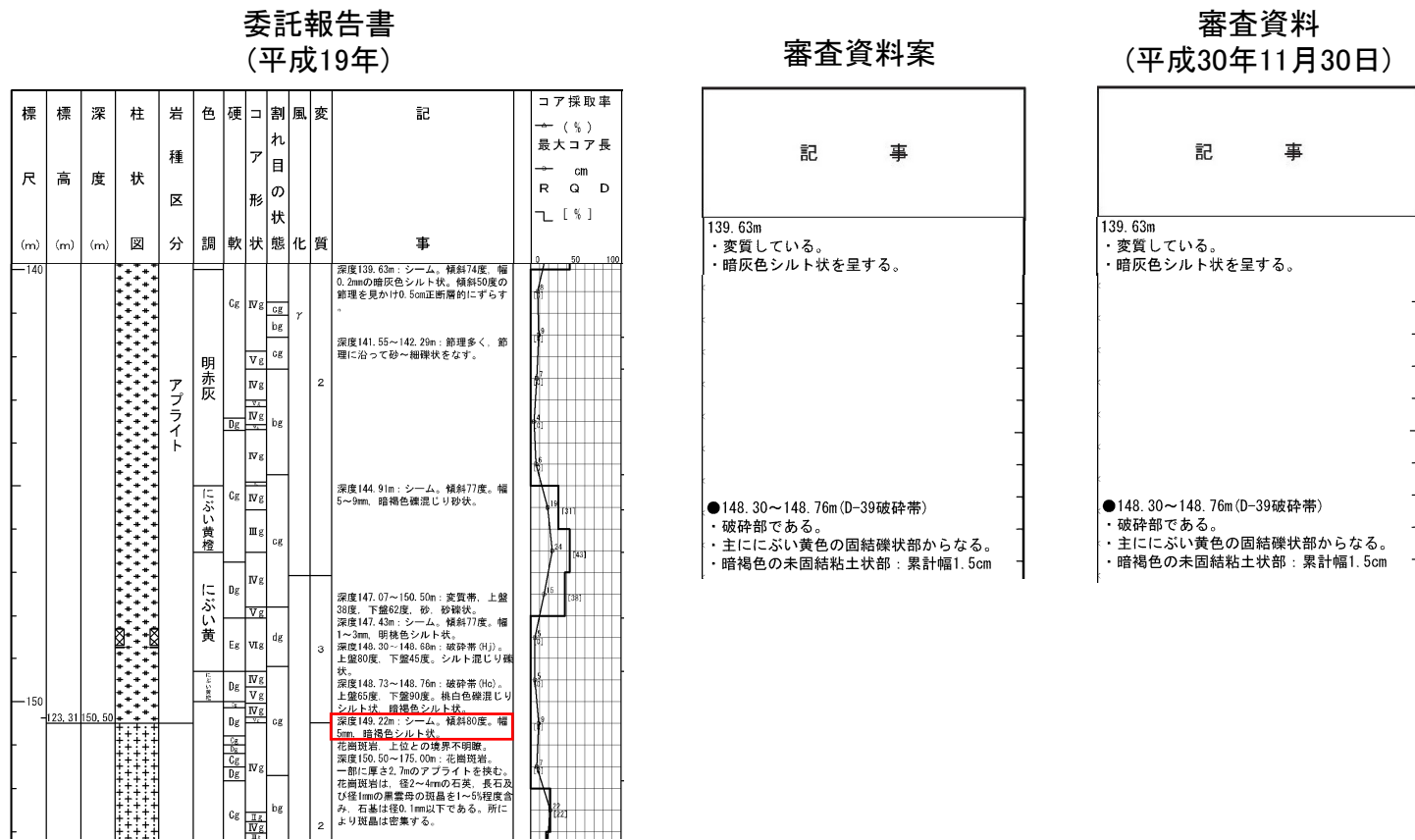


凡例  
← : シーム

0                      5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No18孔 深度149.22m)

・シルト状を呈するが、その分布は湾曲し直線性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度149.22m: シーム。傾斜80度。幅5mm。暗褐色シルト状。	記載なし	記載なし

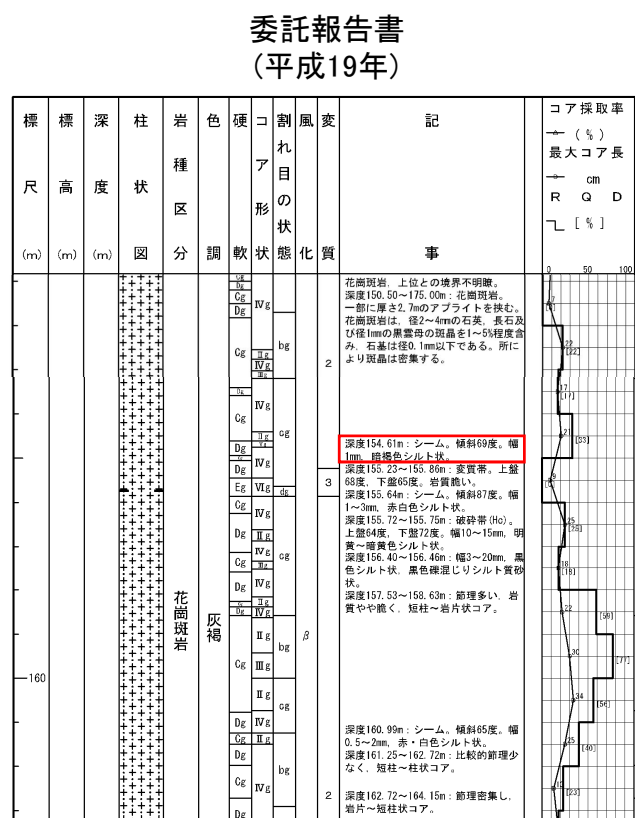


凡例  
← : シーム

0 ————— 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.18孔 深度154.61m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



**審査資料案**

記 事
150.50~175.00m ・花崗斑岩である。
154.61m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。
155.64m ・変質している。 ・赤白色シルト状を呈する。 ●155.72~155.75m ・破碎部である。 ・主に暗黄色の固結粘土状部からなる。 ・明黄色の未固結粘土状部: 累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN36° E76° Wである。 ・上端境界の傾斜は64°、下端境界の傾斜は72°である。

**審査資料  
(平成30年11月30日)**

記 事
150.50~175.00m ・花崗斑岩である。
154.61m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。
155.64m ・変質している。 ・赤白色シルト状を呈する。 ●155.72~155.75m ・破碎部である。 ・主に暗黄色の固結粘土状部からなる。 ・明黄色の未固結粘土状部: 累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN36° E76° Wである。 ・上端境界の傾斜は64°、下端境界の傾斜は72°である。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度154.61m: シーム。傾斜69度。幅1mm。暗褐色シルト状。	154.61m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。	154.61m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。

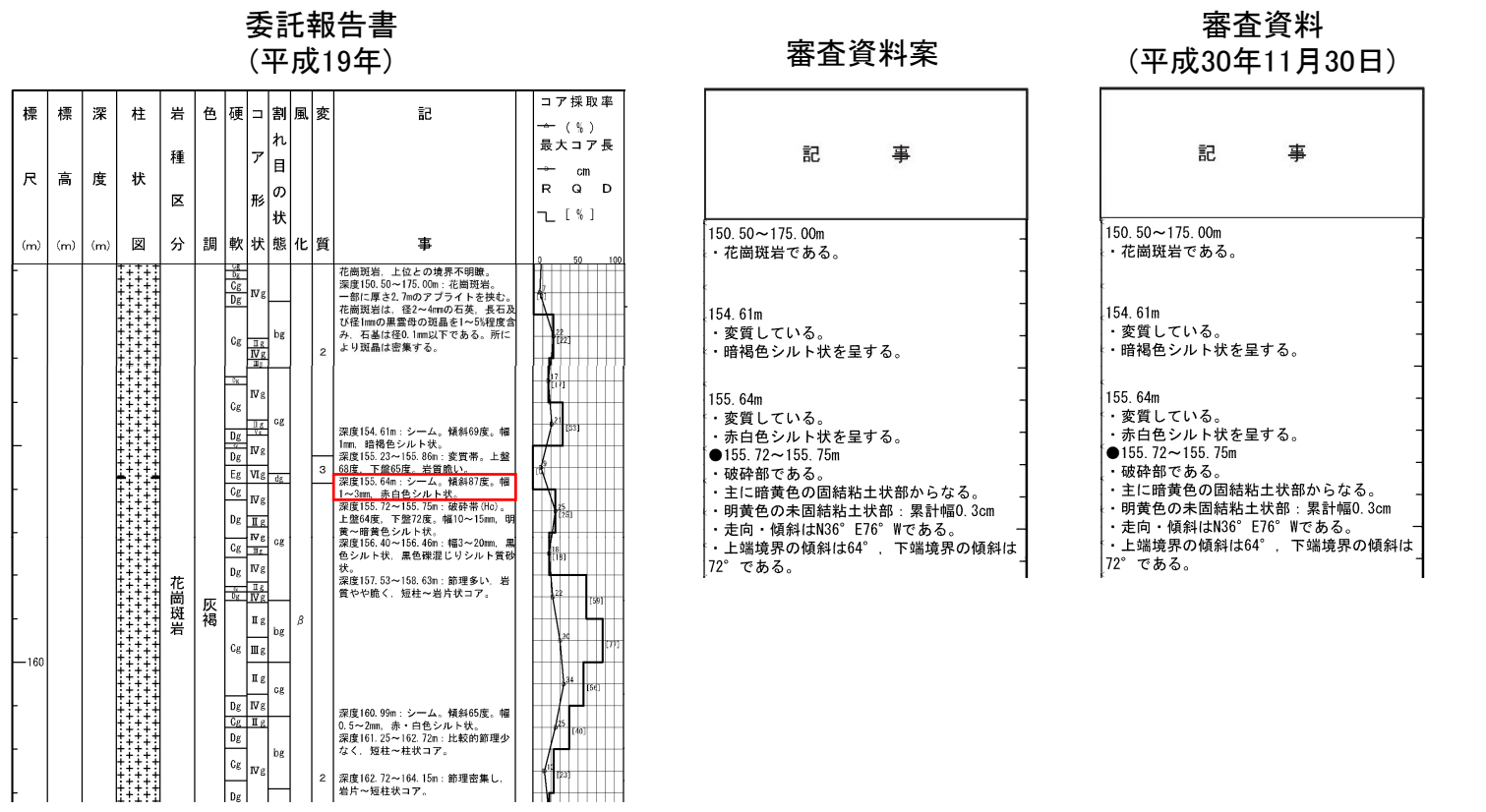


凡 例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.18孔 深度155.64m)

・シルト状を呈するが、その分布は湾曲し直線性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度155.64m: シーム。傾斜87度。幅1~3mm, 赤白色シルト状。	155.64m ・変質している。 ・赤白色シルト状を呈する。	155.64m ・変質している。 ・赤白色シルト状を呈する。

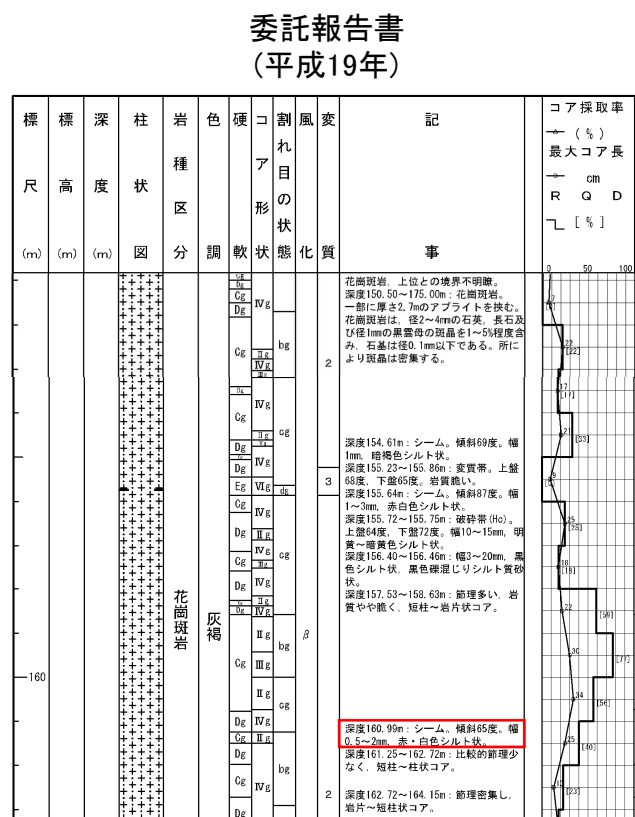


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.18孔 深度160.99m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



**審査資料案**

記 事
150.50~175.00m ・花崗斑岩である。
154.61m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。
155.64m ・変質している。 ・赤白色シルト状を呈する。 ●155.72~155.75m ・破碎部である。 ・主に暗黄色の固結粘土状部からなる。 ・明黄色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN36° E76° Wである。 ・上端境界の傾斜は64°、下端境界の傾斜は72°である。

**審査資料 (平成30年11月30日)**

記 事
150.50~175.00m ・花崗斑岩である。
154.61m ・変質している。 ・暗褐色シルト状を呈する。
155.64m ・変質している。 ・赤白色シルト状を呈する。 ●155.72~155.75m ・破碎部である。 ・主に暗黄色の固結粘土状部からなる。 ・明黄色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN36° E76° Wである。 ・上端境界の傾斜は64°、下端境界の傾斜は72°である。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度160.99m: シーム。傾斜65度。幅0.5~2mm。赤・白色シルト状。	記載なし	記載なし



凡 例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.19孔 深度37.72m)

・シーム近傍の岩盤中に粒子の定向配列は認められないことから、破碎部ではないと判断した。

## 委託報告書 (平成19年)

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↓ [%]
				花崗斑岩	黄緑	硬	円筒	δ			深度22.44~22.46m: 破碎部(0)。上盤46度、下盤49度。幅20mmの黄灰・褐色粘土質層状。 深度23.70~24.03m: 破碎部(0)。上盤58度、下盤32度。やや締まったシルト質砂状。 深度24.03~24.67m: 変質帯。やや締まったシルト質砂状。 深度24.67~25.50m: 破碎部(0)。上盤19度、下盤38度。やや締まった黄褐色シルト質砂状。原岩不明。 深度25.50~29.26m: 破碎部(0)。上盤38度、下盤34度。硬質シリシルト質砂状。網目状に褐色シルトを挟む。 深度29.26~29.50m: 破碎部(0)。上盤34度、下盤55度。褐色粘土を挟む灰白色粘質シルト状。 深度29.50~31.71m: 破碎部(0)。上盤18度、下盤25度。黄褐色砂質シルト状~シルト質砂状。 深度31.71~31.75m: 破碎部(0)。上盤25度、下盤20度。幅45mmの灰色と褐色のシルトの層状。 深度31.75~32.04m: 破碎部(0)。上盤20度、下盤16度。砂質シルト状~シルト質砂状。 深度32.04~35.11m: 破碎部(0)。上盤29度、下盤59度。にふい黄色を呈する砂質シルト状。石英粒子が多く残る。 深度32.49m: 幅15mmの褐色シルト。深度34.13m幅3~5mmの灰白色シルトを挟む。 深度35.11~35.14m: 破碎部(0)。上盤59度、下盤66度。幅15~18mmの褐色粘土状。 深度35.14~35.33m: 変質帯。傾斜50~66度。浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状。 深度35.33~36.25m: 変質帯。上盤50度、下盤40度。原岩を礫状に残し、網目状に褐色・灰白色シルト~粘土を挟む。 深度36.25~38.85m: 変質帯。上盤40度、下盤53度。角礫~細礫状。シームを挟む。 深度37.72m: シーム。傾斜50度。幅1mmの褐色粘土状。 深度38.06m: シーム。傾斜55度。幅2mmの褐色粘土状。 深度38.85m: シーム。傾斜53度。幅0.5mmの灰白色粘土状。	0 50 100

## 審査資料案

記事
●22.44~22.46m ・破碎部である。 ・黄灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。 ・走向・傾斜はN34° W72° Eである。 ・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は49°である。
●23.70~35.14m(浦底断層) ・破碎部である。 ・左ずれ逆断層センスである。 ・主に褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部: 累計幅1.8cm ・走向・傾斜はN41° W87° NEである。
35.14~38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状。網目状の褐色・灰白色シルト~粘土状。角礫~細礫状を呈する。

## 審査資料 (平成30年11月30日)

記事
●22.44~22.46m ・破碎部である。 ・黄灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。 ・走向・傾斜はN34° W72° Eである。 ・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は49°である。
●23.70~35.14m(浦底断層) ・破碎部である。 ・左ずれ逆断層センスである。 ・主に褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部: 累計幅1.8cm ・走向・傾斜はN41° W87° NEである。
35.14~38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状。網目状の褐色・灰白色シルト~粘土状。角礫~細礫状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度35.14~35.33m: 変質帯。傾斜50度~66度。浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状。 深度35.33~36.25m: 変質帯。上盤50度、下盤40度。原岩を礫状に残し、網目状に褐色・灰白色シルト~粘土を挟む。 深度36.25~38.85m: 変質帯。上盤40度、下盤53度。角礫~細礫状。シームを挟む。 深度37.72m: シーム。傾斜50度。幅1mmの褐色粘土状。 深度38.06m: シーム。傾斜55度。幅2mmの褐色粘土状。 深度38.85m: シーム。傾斜53度。幅0.5mmの灰白色粘土状。	35.14~38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状。網目状の褐色・灰白色シルト~粘土状。角礫~細礫状を呈する。	35.14~38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状。網目状の褐色・灰白色シルト~粘土状。角礫~細礫状を呈する。



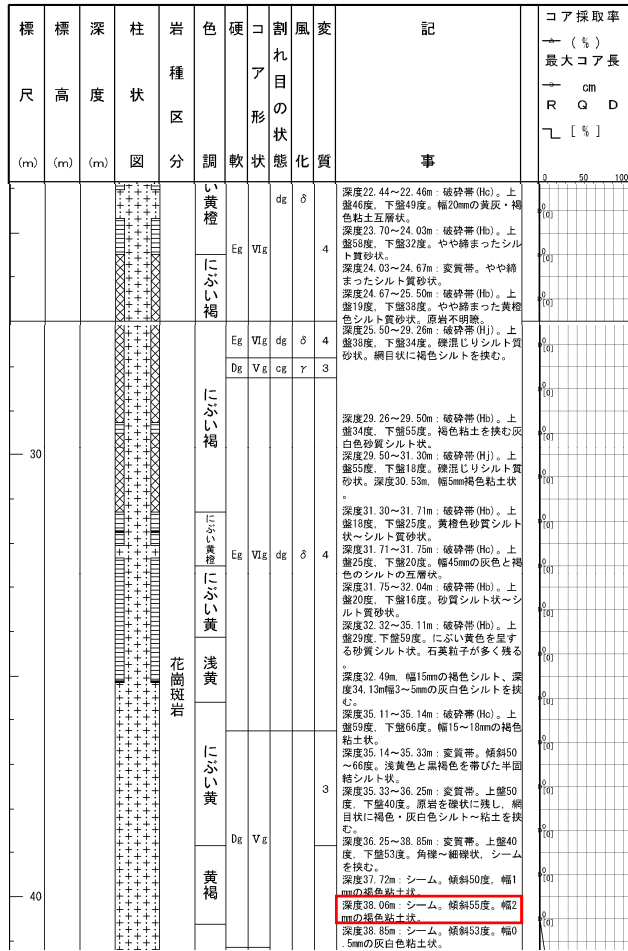
凡例  
← シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.19孔 深度38.06m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

## 委託報告書 (平成19年)



## 審査資料案

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●22.44~22.46m                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・破碎部である。</li> <li>・黄灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。</li> <li>・走向・傾斜はN34° W72° Eである。</li> <li>・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は49°である。</li> </ul> </li> <li>●23.70~35.14m(浦底断層)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・破碎部である。</li> <li>・左ずれ逆断層センスである。</li> <li>・主に褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。</li> <li>・褐色の未固結粘土状部：累計幅1.8cm</li> <li>・走向・傾斜はN41° W87° NEである。</li> </ul> </li> <li>35.14~38.85m                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・変質している。</li> <li>・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状、網目状の褐色・灰白色シルト~粘土状、角礫~細礫状を呈する。</li> </ul> </li> </ul>

## 審査資料 (平成30年11月30日)

記事
<ul style="list-style-type: none"> <li>●22.44~22.46m                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・破碎部である。</li> <li>・黄灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。</li> <li>・走向・傾斜はN34° W72° Eである。</li> <li>・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は49°である。</li> </ul> </li> <li>●23.70~35.14m(浦底断層)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・破碎部である。</li> <li>・左ずれ逆断層センスである。</li> <li>・主に褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。</li> <li>・褐色の未固結粘土状部：累計幅1.8cm</li> <li>・走向・傾斜はN41° W87° NEである。</li> </ul> </li> <li>35.14~38.85m                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・変質している。</li> <li>・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状、網目状の褐色・灰白色シルト~粘土状、角礫~細礫状を呈する。</li> </ul> </li> </ul>

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度35.14~35.33m: 変質帯。傾斜50度~66度。浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状。 深度35.33~36.25m: 変質帯。上盤50度、下盤40度。原岩を礫状に残し、網目状に褐色・灰白色シルト~粘土を挟む。 深度36.25~38.85m: 変質帯。上盤40度、下盤53度。角礫~細礫状、シームを挟む。 深度37.72m: シーム。傾斜50度。幅1mmの褐色粘土状。 深度38.06m: シーム。傾斜55度。幅2mmの褐色粘土状。 深度38.85m: シーム。傾斜53度。幅0.5mmの灰白色粘土状。	35.14~38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状、網目状の褐色・灰白色シルト~粘土状、角礫~細礫状を呈する。	35.14~38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状、網目状の褐色・灰白色シルト~粘土状、角礫~細礫状を呈する。



凡例  
← : シーム

0 5 cm



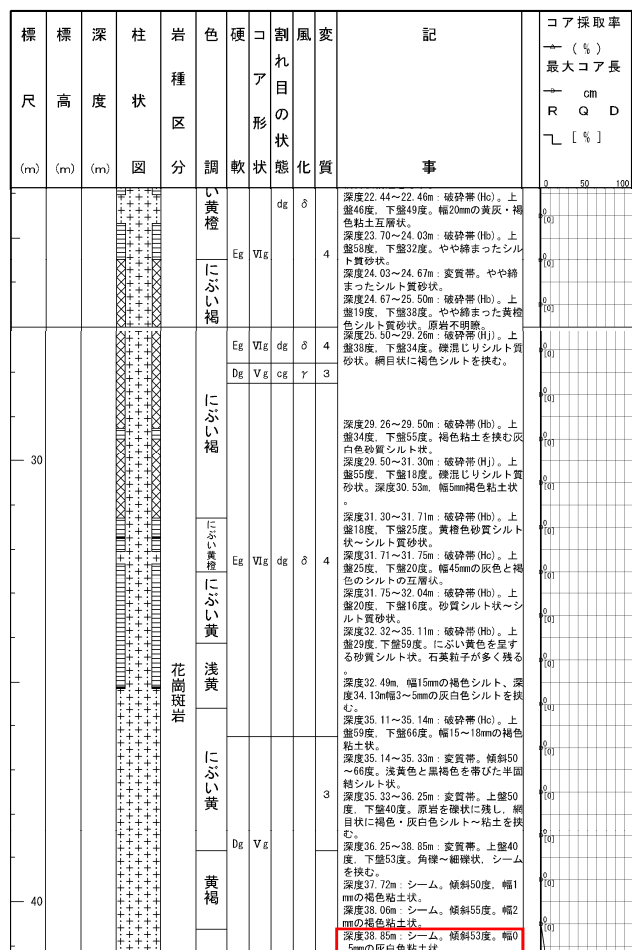
# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.19孔 深度38.85m)

・シルト状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

## 委託報告書 (平成19年)

## 審査資料案

## 審査資料 (平成30年11月30日)



●22.44~22.46m  
・破碎部である。  
・黄灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。  
・走向・傾斜はN34° W72° Eである。  
・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は49°である。  
●23.70~35.14m (浦底断層)  
・破碎部である。  
・左ずれ逆断層センスである。  
・主に褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。  
・褐色の未固結粘土状部：累計幅1.8cm  
・走向・傾斜はN41° W87° NEである。  
35.14~38.85m  
・変質している。  
・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状、網目状の褐色・灰白色シルト~粘土状、角礫~細礫状を呈する。

●22.44~22.46m  
・破碎部である。  
・黄灰色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は2.0cmである。  
・走向・傾斜はN34° W72° Eである。  
・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は49°である。  
●23.70~35.14m (浦底断層)  
・破碎部である。  
・左ずれ逆断層センスである。  
・主に褐色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。  
・褐色の未固結粘土状部：累計幅1.8cm  
・走向・傾斜はN41° W87° NEである。  
35.14~38.85m  
・変質している。  
・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状、網目状の褐色・灰白色シルト~粘土状、角礫~細礫状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度35.14~35.33m: 変質帯。傾斜50度~66度。浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状。 深度35.33~36.25m: 変質帯。上盤50度、下盤40度。原岩を礫状に残し、網目状に褐色・灰白色シルト~粘土を挟む。 深度36.25~38.85m: 変質帯。上盤40度、下盤53度。角礫~細礫状、シームを挟む。 深度37.72m: シーム。傾斜50度。幅1mmの褐色粘土状。 深度38.06m: シーム。傾斜55度。幅2mmの褐色粘土状。 深度38.85m: シーム。傾斜53度。幅0.5mmの灰白粘土状。	35.14~38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状、網目状の褐色・灰白色シルト~粘土状、角礫~細礫状を呈する。	35.14~38.85m ・変質している。 ・浅黄色と黒褐色を帯びた半固結シルト状、網目状の褐色・灰白色シルト~粘土状、角礫~細礫状を呈する。

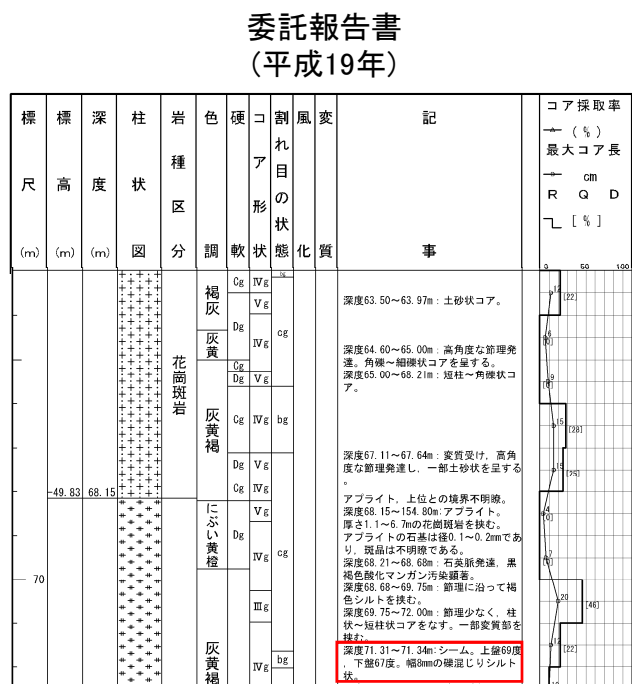


凡例  
← シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.19孔 深度71.31~71.34m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事

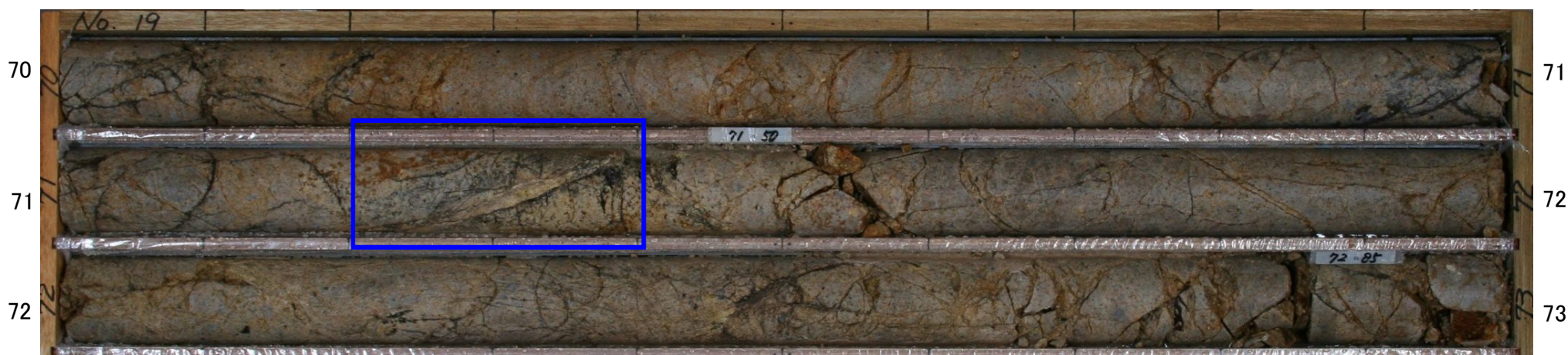
67.11~67.64m  
・割れ目が多く、一部土砂状を呈する。  
68.15~137.60m  
・アフライトである。  
・幅1.1~6.7mの花崗斑岩を挟む。  
68.21~68.68m  
・石英脈が発達し、黒褐色酸化マンガン汚染が顕著である。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事

67.11~67.64m  
・割れ目が多く、一部土砂状を呈する。  
68.15~137.60m  
・アフライトである。  
・幅1.1~6.7mの花崗斑岩を挟む。  
68.21~68.68m  
・石英脈が発達し、黒褐色酸化マンガン汚染が顕著である。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度71.31~71.34m: シーム。上盤69度、下盤67度。幅8mmの礫混じりシルト状。	記載なし	記載なし

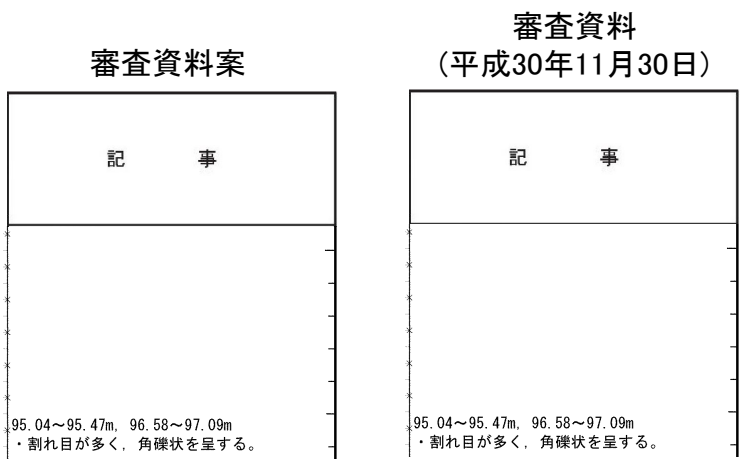
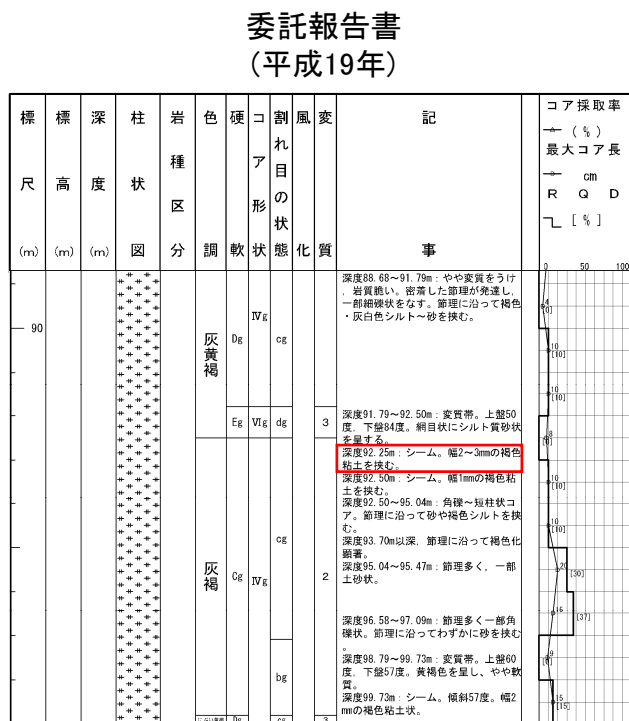


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.19孔 深度92.25m)

・粘土状を呈するが、その分布は湾曲し直線性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度92.25m: シーム。幅2~3mmの褐色粘土を挟む。	記載なし	記載なし

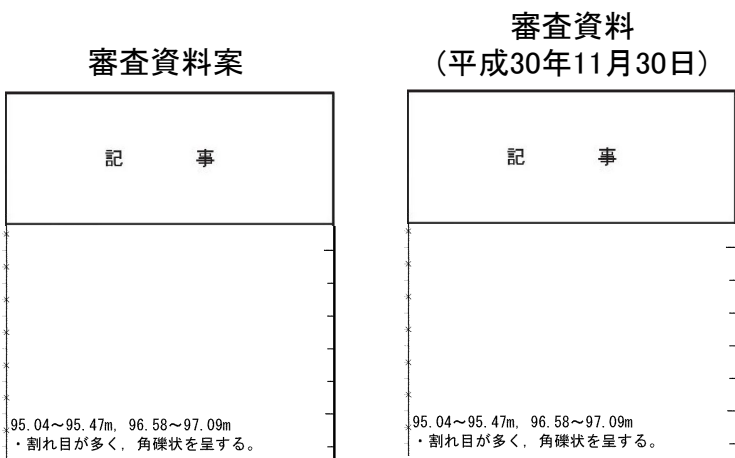
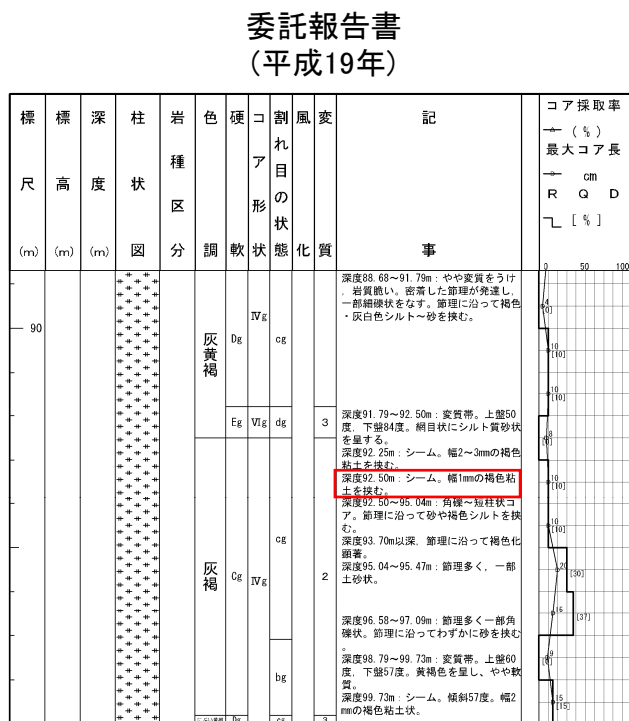


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.19孔 深度92.50m)

・粘土状を呈するが、その分布は湾曲・殲滅し直線性・連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度92.50m: シーム。幅1mmの褐色粘土を挟む。	記載なし	記載なし



凡 例  
← シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.19孔 深度99.73m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

**委託報告書  
(平成19年)**

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D └─ [ % ]
		90		灰黄褐		IVg	cg			深度88.65~91.70m: やや変質をうけ、岩質脆い。密着した節理が発達し、一部角礫状をなす。節理に沿って褐色・灰白色シルト~砂を挟む。	
				灰褐		Eg	VIg	dg	3	深度91.79~92.50m: 変質帯。上盤50度、下盤54度。網目状にシルト質砂状を呈する。 深度92.25m: シーム。幅2~3mmの褐色粘土を挟む。 深度92.50m: シーム。幅1mmの褐色粘土を挟む。 深度92.50~95.04m: 角礫~短柱状コア。節理に沿って砂や褐色シルトを挟む。 深度93.70m以深: 節理に沿って褐色化顕著。 深度95.04~95.47m: 節理多く、一部土砂状。 深度96.58~97.09m: 節理多く一部角礫状。節理に沿ってわずかに砂を挟む。 深度98.79~99.73m: 変質帯。上盤60度、下盤57度。黄褐色を呈し、やや軟質。 深度99.73m: シーム。傾斜57度。幅2mmの褐色粘土状。	

**審査資料案**

記事
95.04~95.47m, 96.58~97.09m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

**審査資料  
(平成30年11月30日)**

記事
95.04~95.47m, 96.58~97.09m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度99.73m: シーム。傾斜57度。幅2mmの褐色粘土状。	記載なし	記載なし



**凡例**

← シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.19孔 深度106.16m)

・粘土状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

**委託報告書  
(平成19年)**

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記	コア採取率
(m)	(m)	(m)	図	区分						事	(%) 最大コア長 cm R Q D [ % ]
100				アフライト	灰褐	Dg	細	3		深度99.73~100.76m: 節理多く、一部変質により軟質化する。	100
	-82.30	102.70		花崗斑岩	灰褐	Dg	粗	2		深度100.76~102.15m: 変質をうけ、全体に細い、高角度の節理発達し、節理に沿って褐色・灰白色シルトを挟む。	90
	-83.24	103.70		アフライト	褐灰	Cg	細	2		花崗斑岩、上位との境界不明瞭。深度102.70~103.00m: 花崗斑岩。粒2~10mmの石英、長石、黒雲母の碎屑を1~10%程度含み、石英は径0.1m以下である。深度103.94~104.03m: 変質をうけ軟質化し、層状をなす。	80
	-84.32	104.85		花崗斑岩	灰黄	Vg	粗	3		花崗斑岩、上位との境界傾斜41度。	70
	-87.28	108.00		花崗斑岩	褐灰	Cg	粗	2		深度106.16m: シーム。傾斜28度。幅1~2mmの褐色粘土状。	60
				花崗斑岩	灰黄	Vg	粗	3		深度106.16~106.84m: 変質帯。上盤28度、下盤45度。灰黄色を呈しやや軟質。	50
				花崗斑岩	褐灰	Cg	粗	2		深度106.16~106.27m: 確認じり砂質シルト状。	40
				アフライト	灰褐	Dg	細	3		アフライト、上位との境界傾斜45度。	30

**審査資料案**

記	事
99.73~100.76m	・割れ目が多く、短柱状を呈する。
100.76~102.15m	・変質している。
102.70~103.70m, 104.85~108.00m	・花崗斑岩を挟む。
103.94~104.03m	・変質している。
	・細礫状を呈する。

**審査資料  
(平成30年11月30日)**

記	事
99.73~100.76m	・割れ目が多く、短柱状を呈する。
100.76~102.15m	・変質している。
102.70~103.70m, 104.85~108.00m	・花崗斑岩を挟む。
103.94~104.03m	・変質している。
	・細礫状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度106.16m: シーム。傾斜28度。幅1~2mmの褐色粘土状。	記載なし	記載なし



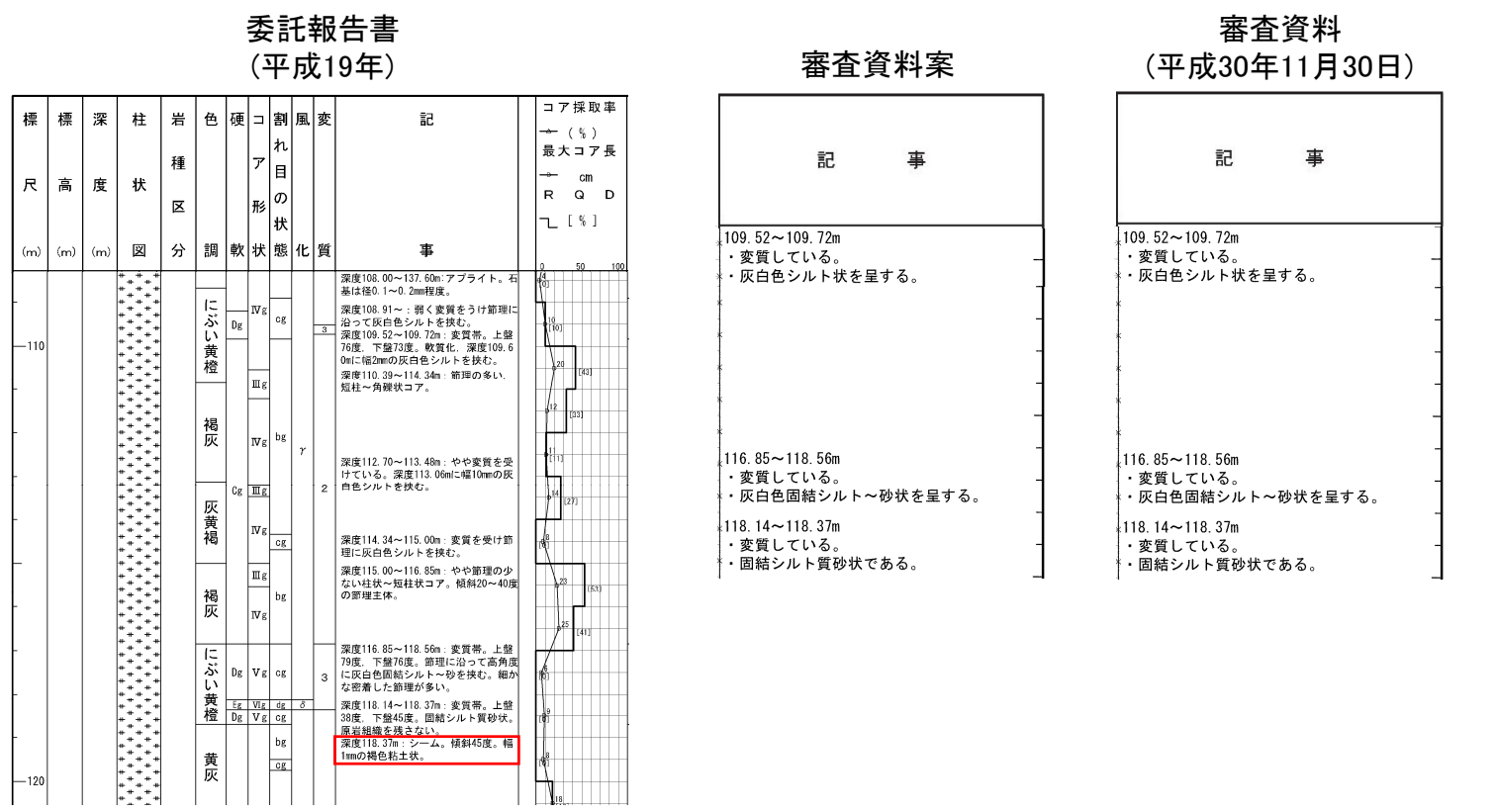
**凡例**

← シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.19孔 深度118.37m)

・シーム近傍の岩盤中に粒子の定向配列は認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度118.37m:シーム。傾斜45度。幅1mmの褐色粘土状。	記載なし	記載なし

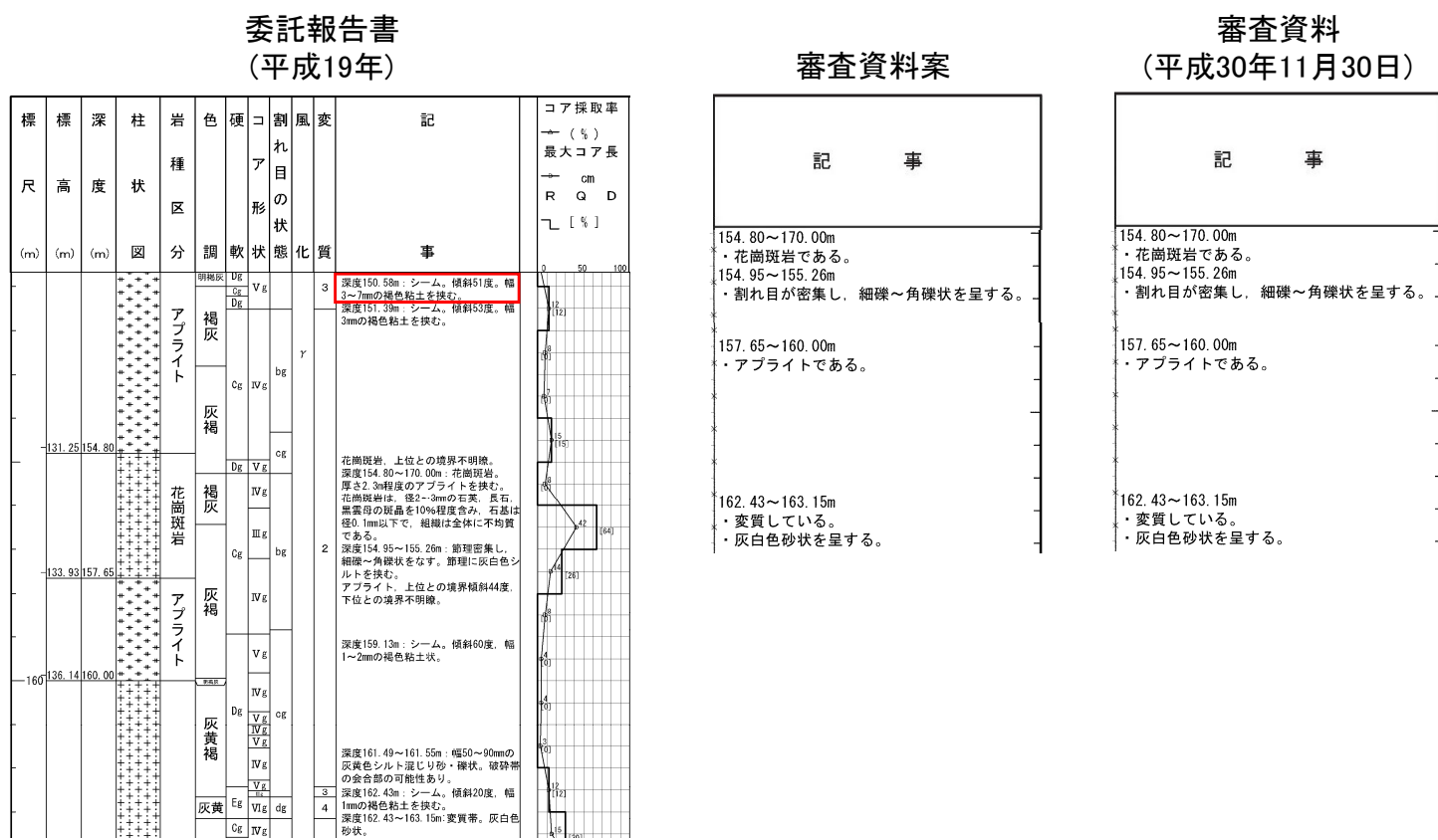


凡例  
← :シーム

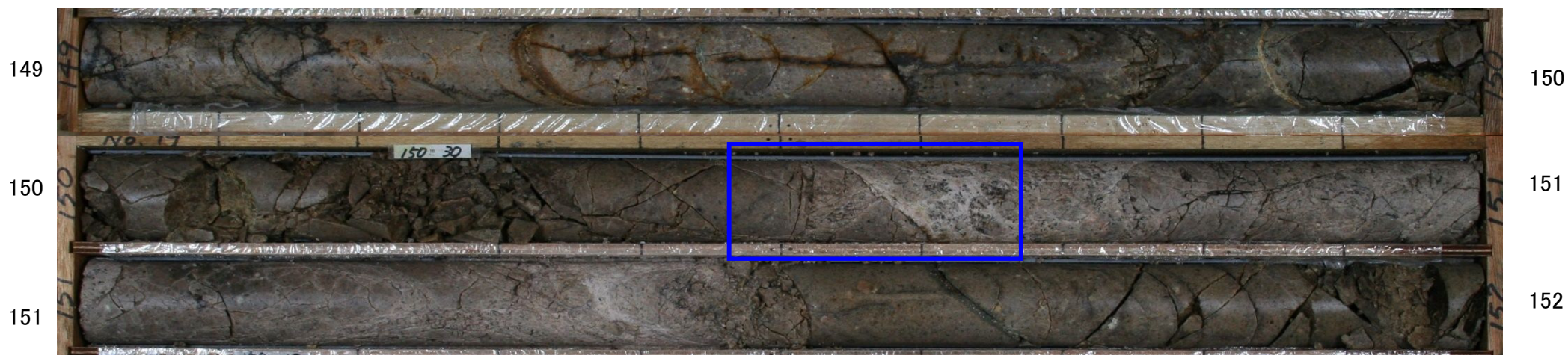
0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.19孔 深度150.58m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度150.58m: シーム。傾斜51度。幅3~7mmの褐色粘土を挟む。	記載なし	記載なし



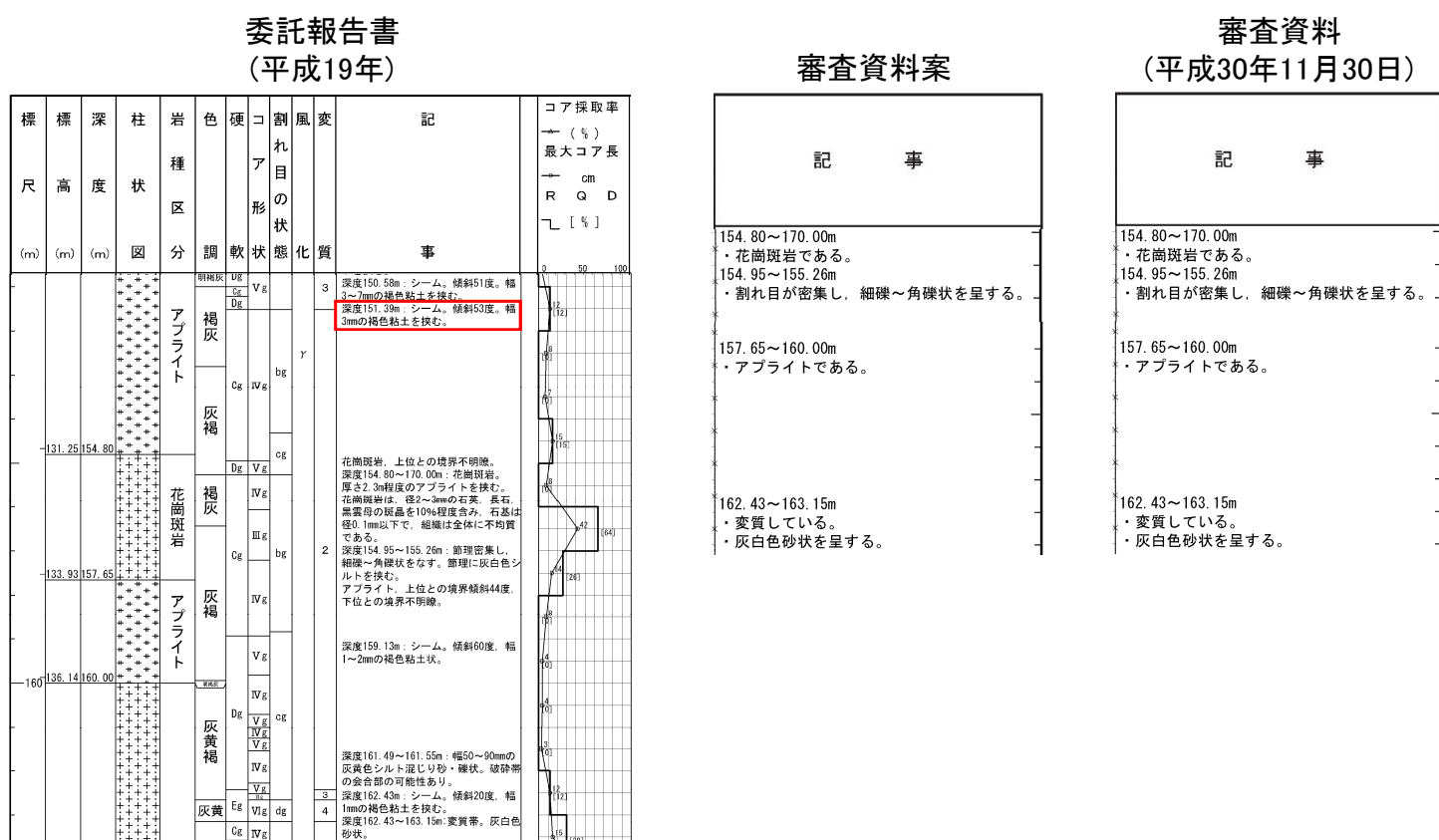
凡例  
← : シーム

0 5 cm



# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.19孔 深度151.39m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度151.39m: シーム。傾斜53度。幅3mmの褐色粘土を挟む。	記載なし	記載なし

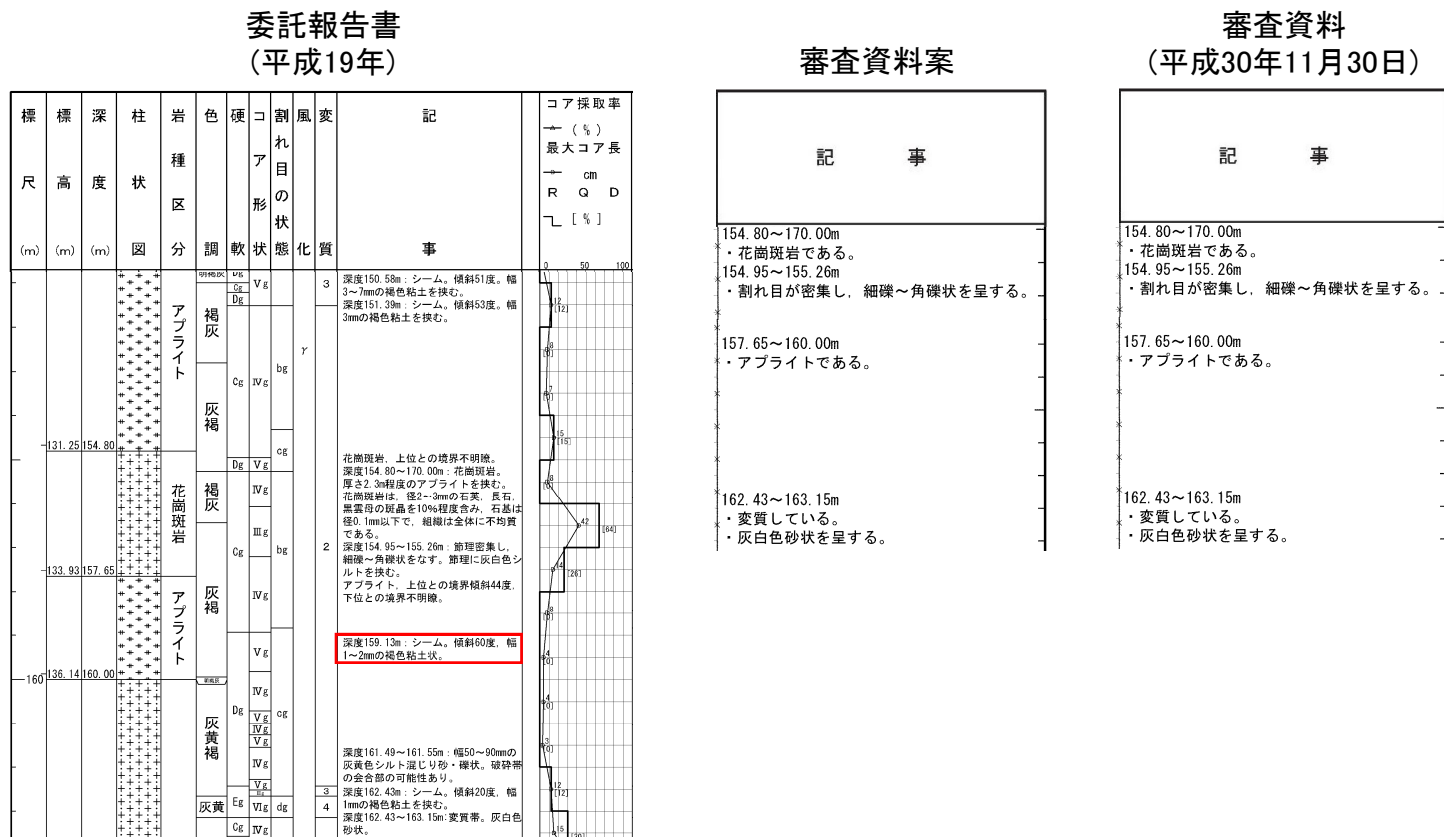


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.19孔 深度159.13m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

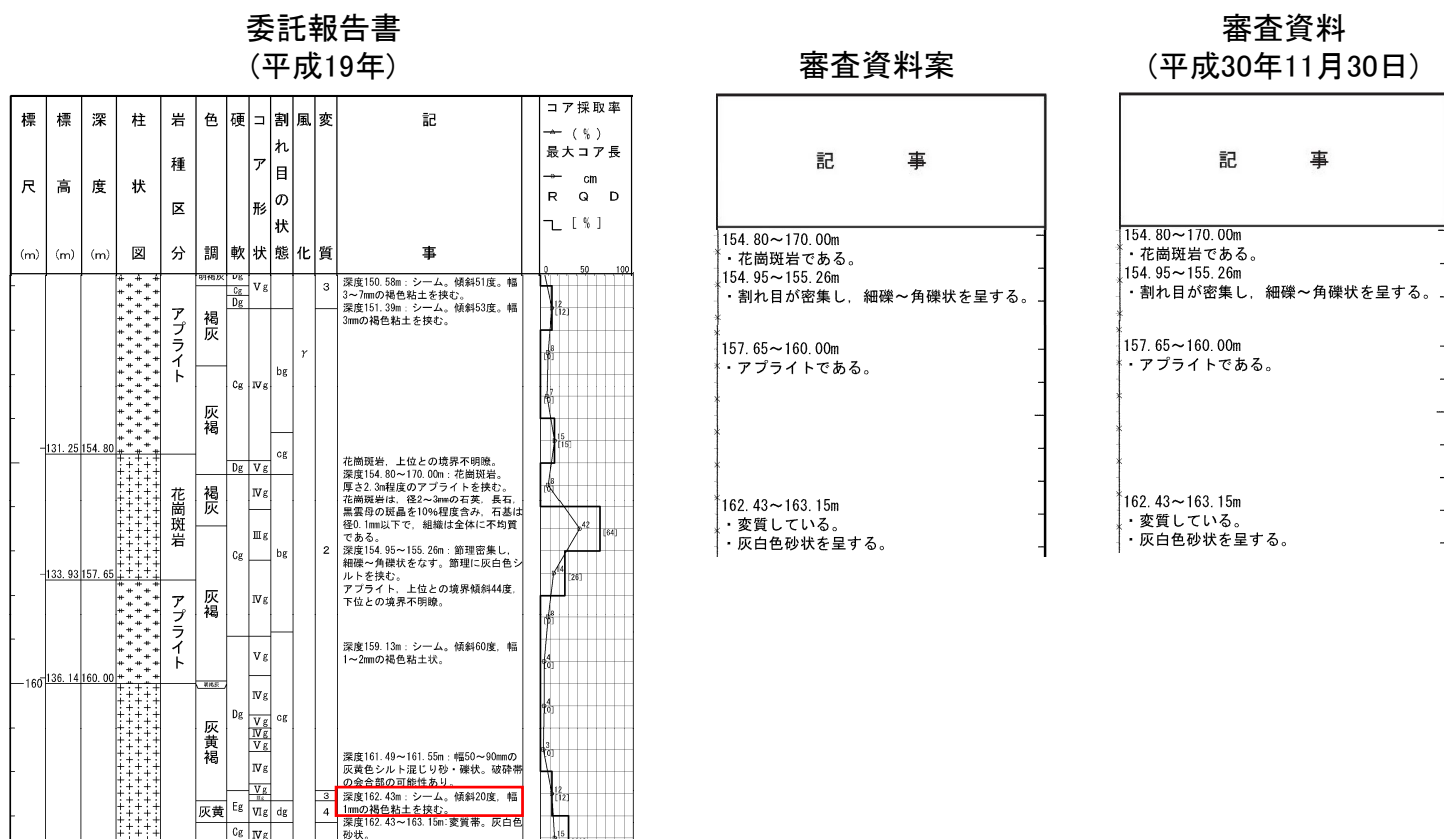


凡例  
← : シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.19孔 深度162.43m)

・粘土状を呈するが、その分布は膨縮し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



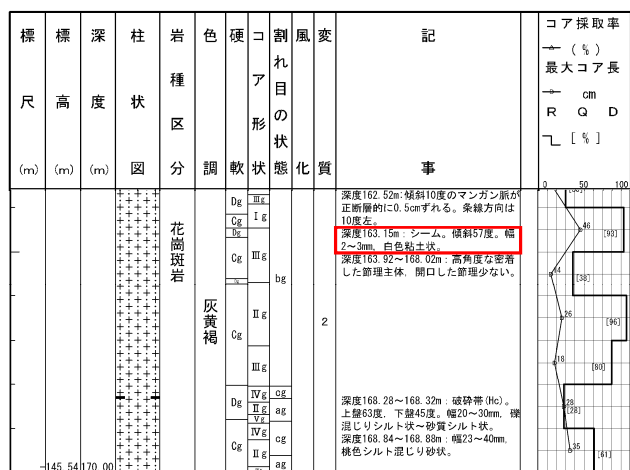
凡例  
← シーム

0 5 cm

# 柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.19孔 深度163.15m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

## 委託報告書 (平成19年)



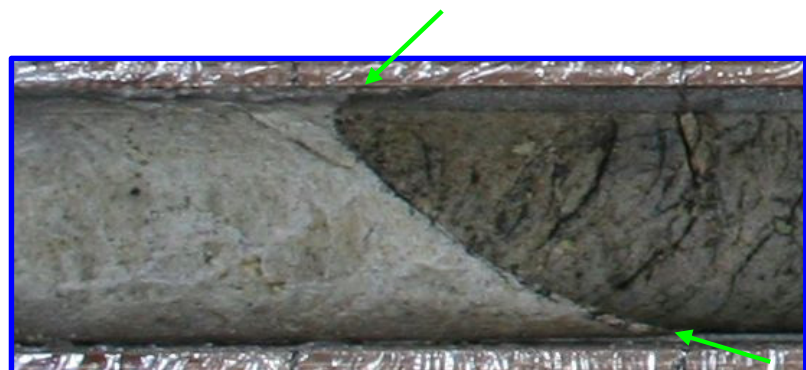
## 審査資料案

記事
162.43~163.15m ・変質している。 ・灰白色砂状を呈する。
●168.28~168.32m ・破碎部である。 ・主に明青灰色の固結粘土状部からなる。 ・明青灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・上端境界の傾斜は63°，下端境界の傾斜は45°である。

## 審査資料 (平成30年11月30日)

記事
162.43~163.15m ・変質している。 ・灰白色砂状を呈する。
●168.28~168.32m ・破碎部である。 ・主に明青灰色の固結粘土状部からなる。 ・明青灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・上端境界の傾斜は63°，下端境界の傾斜は45°である。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度163.15m:シーム。傾斜57度。幅2~3mm。白色粘土状。	記載なし	記載なし



凡例  
← :シーム

0 5 cm